

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

昭和経済

Manager Association of Japan

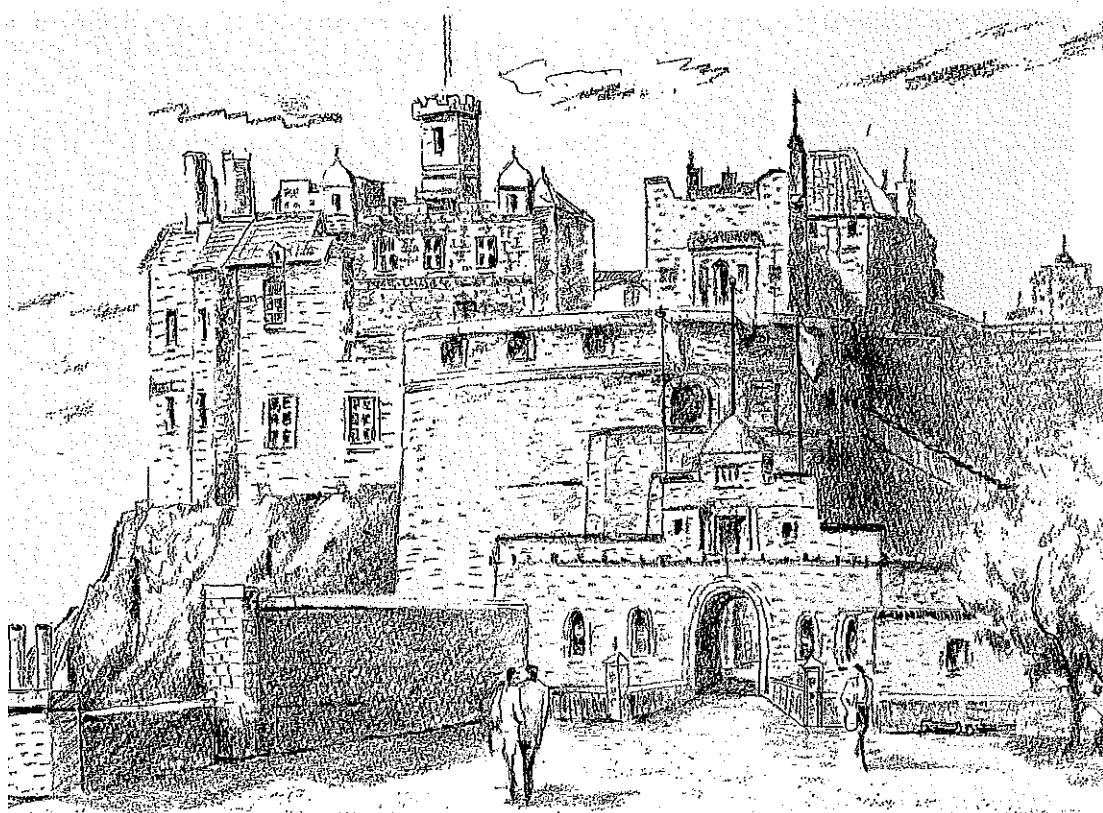
暑中号
第64巻7号

25年 7・8月号

国会図書館永久保存書

古今をちこち
動搖する世界市場
憲法改正への具体案を
開国は国益につながるか

磯田 道史
竹森 俊平
北岡 伸一
澤田 幸康



J. SEKINE.

エディンバラ城（英國）

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以って、文化科学への触発は閃きを以って発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知をもってこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操をもって、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と経済活動を通して、さらに公私経済の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人 昭和経済会

公益社団法人 昭和経済会の案内

創立と趣旨

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私経済の発展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年（昭和九年）五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の経済、政治、文化、学術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、税務、経営相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

七・八月号・目次

卷頭言	佐々木誠吾	(2)	朝日新聞国際報道部	柴田 直治	(54)
賢者の狂言		(17)	わが回想記	堀江 忠男	(58)
古今			蘭子の心情	ランコ岩本	(72)
をちこち	磯田 道史	(32)	昭経俳壇		
動搖する世界市場			後記隨想		
緩和と緊縮にきしむ経済	竹森 俊平	(35)	表紙絵のことば	関根 常雄	(119)
憲法改正への具体案を			暑中広告		
各党の立場を明確に	北岡 伸一	(40)			
開国は国益につながるか					
企業の生産性を改善	澤田 康幸	(46)			
朝日新聞社編集委員	有田 哲文	(51)			
		(125)			
		(120)			

卷頭言

佐々木誠吾

石炭の新規需要

豊富に埋蔵されている日本の石炭を、新技術を駆使して、思い切って活用する手立てを早急に実行すべき時に来ています。世界的に見ても石炭の燃料として用いている国は、中国をはじめとしてインドなど盛んにCO₂を排出しているがらも、中国は80ペーセント強、インドも65ペーセント、石炭エネルギーに頼っています。米国もこれに含まれており、石炭を圧倒的に自国内のエネルギー源として確保しています。もととこの二国ともCO₂の削減について国際協定には参加しておりませんが、石炭を燃料として使用するときに、かなりの二酸化炭素を除去する科学的技術を開発しており、従来のような先入観念からすると、最早時代遅れと云いかねられない状況にあ

るといつても過言ではありません。原発大事故に見舞われて原発の停止を余儀なくされている日本です。緊急事態にあるため緊急避難的に我が国の石炭掘削技術を活用し増産に踏み切るべきです。日本は今、二酸化炭素の排出量を大幅に削減できる水準に至っています。又燃焼する前に、一般炭の中でも良質の石炭に転換できる技術も持つに至っています。再生可能エネルギーの実現についても、これから問題を含め投資資金と時間がかかります。東電事故の杜撰な補助金を削って、エネルギー政策の一環としてわが国の石炭開発に転用すべきであります。電力事業の立て直しには将来の国益を見据えて、大胆な決断が必要です。

シェールガスの量産拡大で、石炭価格が逆に急落してきています。むろん、この機を利用して電力各社は米国の石炭の輸入の増大を図つてきていますが、国内炭の開発に官民一体となつて務めるべきではないでしょうか。ちなみに液体天然ガスの電力生産価格は、石炭の4倍と云われています。

安価なシェールガスにしてもアメリカの現地での4ドルが、日本に着いて実際に利用されるまでに11ドルに跳ね上がってしまいます。石炭は一般炭の良質なものを使えば、これにCO₂の処理能力の技術をもつてすれば、容易に価格競争にも勝てる結果が出てきています。しかも石炭はおおむねどこにでも産出できるもので、国内においても入手は容易に可能です。最近になって原発の再稼働が取り沙汰されていますが、動き出した原発依存政策の排除は、国民の間に深く定着しているのが実情です。増え続ける原発の燃料廃棄物の処理に困った原子力発電の政策はもはや頓挫したといつても過言ではありません。このところ原発再稼働の申請が日白押しの状況になつてきているようですが、国民の原発反対の運動を無視した政府と電力会社のごり押しの政策は、賢明な国民の良識と判断を欺くことはではないでしょうか。原発事故で発生した無尽蔵ともいべき汚染水は隠されたままでですが、表層的な土壤汚染の処理は手付かず

の状態です。こんなことで騒いでいるうちにようやく気付いてきたのが、実はそれ以前の問題で、原発で出た使用済み核燃料の後始末です。どんどん増え続けるこの使用済み核燃料は恐ろしい放射能を以て半減期何百年の代物で、捨てる場所も、置き場所もありません。地下深く、海底深くと単純な発想しか持てないので、今こそ逆転の発想が求められます。狭い日本の国土で、ロシアや中国のようなことを言っていたでは、国の滅亡を來らすことになりでしよう。とつた、取られたの尖閣諸島どころではありません。お家一大事のことにつながってきます。化石燃料の危険を云々する前に、原発事故の危険を振り返り、ましてや地震大国の日本にはらむ原発事故の危険度は大と見なければなりません。

ジャイカの元理事長をされていた緒方貞子さんは昨年の春に、わが昭和経済に原発輸出に狂奔する経済界を名指しで批判し、自國で事故を起こして失敗した原発設備を、外国に輸出する無神経さ

を嘆いていましたが、国民の理性と良識を疑われても仕方がありません。このところ安倍さんのトップセールスマントとしての活躍は感銘しますが、原発輸出のセールスに関する限り、奥さんも家庭内野党を自認して、良識の高さを示して余りあります。父ちゃんはそんなことお構いなしといったところで、しばらくは様子見といったところでしよう。何しろ揚げ足を取るばかりの風潮になりつつありますが、普ちゃんにも頑張つてもらつて、経済財政問題に取り組んでもらわないと、以前の政局のように四面楚歌、抜き差しならぬ状態に逆戻りされでは國民は踏んだり蹴つたりで立つ瀬がないません。我々もここで踏ん張りをつけて、国際競争に一歩でも、馬の鼻づらではありませんが、先んじて勝たねばなりません。

安倍さんは奥さんを連れて国際舞台に活躍中ですが、誠に大変な道中でしょう。私の母ちゃんも日本を代表して国際会議に出席のためアメリカに発つて一週間になりますが、その間おさんどんを

勤めて、そろそろ限界にきております。毎日そうめんばかり茹でて食いつないでいるわけにもいかず、たまに外食するにしてもどういうわけか食事を済ますと家に直行する毎日であります。山の神が羽田をたつた翌々日の土曜日には、ホテルオークラの山里で夕食会が小人数であります。上等の懐石料理に食べつけぬ私は極上の冷酒「しずく」が口当たり良くかなりの量で行つてしまい、久しぶりの上機嫌で帰宅しましたが、これが病み付きになつて体のリズムを壊さなければと案じております。若い時ならこの時とばかり羽を伸ばして自由行動を満喫したかもしませんが、安倍さんのような若さを売り物に活動する時期は過ぎております。とは言つてもまだまだ負けではないられません。安倍さんの起死回生の後の馬力にあやかつて、今日も己ながらに行動して仕事に精を出して頑張つてゐるところです。山里の食事から4日が経っています。既に疲労がたまつてガソリンの補給も細つてきました。蒲焼の一匹でも頬張つて、清酒

の高見盛で一杯やつて帰るうかと思つています。

高見盛は力なく引退してしまつたので駄を担ぐ意味から、やはり飲めれば白鵬の酒がいいかもしれません。ホテルオークラの山里で飲んだ「しづく」の冷酒ならもつといいかもしれません。しかし一杯で帰れないのが悪い癖でして、飲んでいるうちに気が大きくなつて素直になつて、「人酒を飲む、

酒酒を飲む、酒人を飲む」までにならんよう自制して正しく帰えることにいたしましょう。ポストンから家の電話が入るころまでは無事、家に到着していないといけません。家内がいてもいるくとも、全ては修行であります。

石炭への政策転換の必要性を論じるつもりが酒の方向に脱線してしまいましたが、両者とも火力があります。良質の火力発電は、体に赤々と火を燃やすように見えるので、見えない原子力の発電より安全でいかさまなしに見えてことでしょう。黒光りした石炭の美しさは、その真価は、火と点火して燃え盛る火力でわかります。エネルギーと

なつて燃え盛るさまは、青春の火になぞられても不思議ではありません。飲む酒の先に、バラ色の世界が広がってきます。燃える石炭の火には人をだすものがあります。これをうまく使つていく知恵と技術が、今の日本にあつてもいいのではないかでしようか。七月一日

娘と楽しい会食

家の留守中、たびたび電話をかけてくれたのが娘であった。一人住まいになつて混乱しているのではないかとの気づかいからである。夕方時間的に都合がつくので自由が丘で一緒に食事をしないかというのである。異論はなかつたので職場を出て7時に自由が丘のロータリーの前にある本屋の辺りで待ち合わせることにした。隣にはダロワイユという高級洋菓子をうつている店があるが、早めに行って、きれいに並んだケーキのショウウインドウを覗いてみるのも楽しい気がする。

綺麗な店内だが二階に上がると洒落た雰囲気の喫茶室になつていて、一月前に家内とお茶をしたことがある。これと似た雰囲気の店に、田園調布の駅前ロータリーの傍にあるレピドールというケーキ＆喫茶店がある。桜の大木の陰になつてるので店全体が遠くからだと見えない格好になっているが、桜の花の季節は素晴らしい景色を窓から眺めながら、お茶することができる。春の季節ばかりでなく、一年を通じて気が向くと休日の日を選んでは車を飛ばして遊びに行くことがしばしばある。鉛筆と紙を持つて、つれづれなるままに好き勝手な歌を詠んでは書いてくる。レピドールの店は、自由が丘のダロワイユと一緒に高級感あふれる店なので、じつとしているところながらにしてパリで遊んでいるような感覚になつてくる。自由人、カフカである。車は裏に駐車場があつて、この店とみずほ銀行が併用しており、止める場所が必ず用意されているので安心である。田園調布の高級住宅街は樹木の中に会つて、さすがに落ち着

いた趣きで味わい深いものがある。お父さんはお得意な性格でいいわねと云われたことがある。ダロワイユに入つてパリにいるような気持ちになれ幸せものよと、なんだか嫌味に聞こえないこともなかつた。しかし錯覚を逆に利用して、幻想を現実化することは不可能ではない。夫婦でこれからパリに行つてくるといえ、まさか自由が丘とは思わんだろう。

明子とは合理的に自由が丘の本屋さんの前あたりで会うことになつたが、東横線で来れば一人ともこれ以上の便利な場所はない。三分と待たずに、明子が駅の改札口からこちらに向かつて姿を現わした。普通の人と違つてどこか目立つた存在である。女性を見る目は随分と養つてきているつもりである。すき好みはあるにしても容姿端麗ほど人目を惹くものである。ロータリーを越して颯爽と歩いてくる明子の姿がいち早く目に飛び込んできた。加えるに、知性と教養も女性の武器である。それと欲を言えば人として、自分の哲学を持つて

いることである。ファッショニ性もあって一緒に歩くにはいささかも憚らずに、恋人と一緒にのるンな気持ちである。娘と約束して二人きりで会うのは、長い人生で初めてではないだろうか。会う時はいつもほかに誰かがついていて、それが当たり前で自然であった。家内は頻繁に電話を掛け合つたり、約束してあつたりしているから何でもないが、良く考えてみると、父親である私は、テレビに出てくるとき以外は一人で会つたりしてことはなかつたに違いない。小さい時もそうであった。テレビにしても、それも決まった時間であり、極めて規則的、機械的時間で、内容も毎日のことながら、問題意識を以て見ていくゆえに、いつも何か同質の意味合いの感じがする。

なついていた小さい時の、期待を込めた思い出の写真が結構あるので、その中の何枚かを大きく引き伸ばして、事務所の私の机のわきに貼つてある。息子の裕介とあつこを両脇に庭で撮つた写真である。一杯に咲いた額紫陽花をバックにして撮

つた写真で、実にきれいに撮れている。写真の隅の一部には、夏の風物詩、浅草の植木市で買つてきたツゲの木が写つているのも記念になるだろう。昔、鳩山一郎が音羽山の御殿の庭に植える樹を、市が開かれると祝儀にでかい木必ず買つていったものである。そして気前よく売約済の札をかけていた。地元の付き合いと、選舉運動の意味合いもある。昔の人は義理堅く、ひいきの植木屋に付き合つて金を落としてやつたが、今の三代目は義理も人情も干上がりで味もそつけもなくくなつてゐる。知らんぷりである。浅草植木市を見ていた時に形の良い柘植の木を見つけていたので思い切つて買ったのである。かなり太い木でお祭りが終わつて一週間ぐらいして植木屋がトラックに積んで運んできたときには、仰々しさにはびつくりした。棟梁は庭に入つて余程気に入つたらしく、良い場所だし、広い庭ですねと自分の屋敷でもないのに盛んに悦に入つていて。浅草植木市は一名、お富士さんと云つて親しまれている。近くに富士講の小

さなお宮があつて、それに由来したもので江戸時代から続いてきているものらしい。故郷の浅草で買い求めた植木を、世田谷の等々力まで運んで植え置くのも乙なものと思つたのである。大物政治家、鳩山一郎の真似をする気持ちもあつたに違いない。

庭のアジサイの花をバックに取つた写真は妻が撮つてくれたものである。息子は小学生4年生あたりで、娘は小学1年の頃である。なぜか父親としては絶好調の場面であろう。両手を広げ、裕介とあつこの肩をしつかりとつかんでいる姿である。

息子裕介も、生真面目で努力家な素質は、やはり子供の時にしつかりと現れている。いずれは自立して社会人として飛び立っていくに違いないが、過ぎ去りしあとをとどめていて、画面はあどけないいっぱいである。可憐で清らかで、優しくどことなく物憂げな、あつこの澄んだ姿のこの写真に惹かれて、二人の子供を撮つた写真を傑作の一つとしてオフィスに置いていつも眺めている。そう

するといつの間にか、一人の間に立つて、自分が写つている写真の姿に思いを重ねて見ていると、親父の権威を覗かせて気迫十分であり、若い時の気持ちがもりもりと湧いてくるのである。私にとつて、青春の気横溢する、不思議な写真の一枚である。これを見るときの息子は、あまりいい感じはしないかも知れない。いつまでたつても餓鬼扱いされていると思うであろう。別に私の母とあつこが並んで、庭の人重桜の花が爛漫と咲く下で、きれいに撮つた写真もある。いずれも思い出の郷愁に浸る感じである。

お父さんは何が食べたいのと云われてみても無粹で、特別に食べたいものもないし、浮かんでも来ないから、あつこの食べたいものでいいよと軽く返事した。するとこの近くにおいしい安いすき焼き屋さんがあるから、そこに行つてみないといふの後についていった。何も安くなくてもいいし、折角の折だから豪勢に試食するのも楽しいではないか、といつて勢いづいていくこととした。

本屋さんから歩いてもすぐ近くにあつた。しゃぶしゃぶ、すき焼き温野菜という名の看板があつて、螺旋形の階段を下りると地下一階にその店はあつた。面白い作りの店内で、若者趣向の雰囲気である。かといって喧しさはなく落ち着いており、ランタンの照明もいたつて明るく清潔感があつて気分的に先ずは合格である。若い子が感じよく席に案内してくれた。4人掛けの席であるが、二人で向き合つて座つても余裕がたつぱりとあつて、前にあるしゃぶしゃぶの釜が食欲をそそるに十分である。周りを見渡すと比較的若い二人ずれのお客が多いようだが、ウェイターが忙しそうに注文を受けては運んだりしていく明るく活気がある。メニューを見ながら注文品はあつこに任せて、どんなんものがあるのか品がきを楽しく見ていた。あつこが勝手に注文してくれているが、大体好みは同じなので食べるものは心配ない。しゃぶしゃぶ用の肉を注文して、油が切れているといけないから肉をとつて栄養をつけたほうがいいという気配

りであろう。おいしい霜降りの柔らかそうな肉がお皿に沢山盛られて、野菜の具もいっぱい出てきた。飲み物にビールをとつて、有難うと云つて乾杯した。お父さんはこの店に来たことあるのと聞かれたが、もちろん初めの店だし、逆にあつこは何度か来ているのと訊ねたが、たまにしか来ないといつていだ。この上にある古本屋の文栄堂には時々来て買つていくことはあつても地下に入つたのは初めてで、こんないい店があるとは知らなかつたので、これからちよくちよく来てみることにしようと言っていた。

普段は三時三十五分から始まる明子のテレビ放送ができるだけ見て勉強することにしているので、こうした形で会つているなんて不思議なことに思つていた。子供たちが誘つてくれて、家族ぐるみで食事に行つたりすることは度々ある。息子家族は目黒駅近くの閑静な住宅に住んでおり、あつこは代官山の高層マンションに住んでいて、会食する場所は地元の代官山か、目黒、恵比須界隈に席

をとつて賑やかに過ぎるのが常である。しかし今夜は特別にあつこと二人きりであり、今までになかったことであり、史上初の対面しての晚餐である。こんなことは小生の記憶にもない。ありがたい感激の場面で、あの美しい富士山が世界遺産に登録されたように、今夜の晚餐は小生の記憶の話題にのせて登録しておくべきことである。毎日のテレビでは東京証券市場の終値を語り、関連した報道を行つて、内外に広く発信して情報を提供してくれていて感謝している。私ばかりではない、多くのビジネスマンや、経営者が東京のこの日の株式の取引を知り、明日の動きを気にしながらエコノミストの解説を聞き、明日の仕事に準備していくのである。広く内外の経済問題を中心的に、時に政治、社会の問題の解決に高度な知識を駆使して、一体いつ、どこであれだけの量を勉強してこなしているのか、私にとっては不思議なことのひとつである。

毎日のテレビ番組では、取引を終えた東京証券

取引所の株式市場の状況をつぶさに報道し、関連する内外の経済、政治、社会の問題の分析解説等、多方面を手掛けて課題山積を報道する毎日である。私はできるだけこの番組から、現実の世界の行動を察知して勉強することが沢山あって、おかげで毎日の仕事に的確に従事していくことができている。唯一、このテレビ番組ではグレードが高く、知的ビジネスマンに必要、豊富な情報を提供してくれる、内外に知的高さを誇れる番組だと思つていい。ただ気がかりなのは、いつもながら激動を極める世界情勢とその動向である。その状況次第で、あつこの仕事は多忙を極めてくる。取り上げる課題山積の状態である。

日本のアベノミクスは幸いにして好調に推移しつづけている。日銀短観でも景気判断を上向きとして、企業行動の上にもプラスに転じてきている。企業の設備投資も上方修正した。物価上昇が家計に響く前に、賃金上昇を実現できればしめたものだ。それには企業の業績アップが前提条件で

ある。円安効果でいちはやく販売増しの追い風を受ける企業から、賃金アップの政策をとつていけば、社会的雰囲気はだいぶ変わってくる。トヨタなどを初めとして経営努力が実つて実質売上アップの会社の経営者はこの際、思い切つて実行する決心が必要である。そして恩恵に浴しているアベノミクスをさらに成功に導いていくべきだ。しかしこれには循環的な経済効果のタイムラグがあるから、関連企業や、下請け企業に対するコスト削減の圧力を軽減し、その企業の業績アップを後押しして裾野を広げることだ。波及的時間のそのズレを我慢する気が必要である。デフレ脱却を果たせるか、円滑な経済運営の舵取りが現在のところ大切である。

参議院選挙の公示は、昨日なされたが、低能で実行力のない政党や人物に大切な税金を使うわけにはいかない。今のところ自民公明で過半数を取る勢いだが、さもありなんである。快調な自民党の独走の歯止めに、公明党の存在感と役割は大き

くなってきた。賢明な国民はそのことに良く気づいている。一昨日公示された参議院選挙で世論はだんだんヒートアップしてくるだろう。目下は順調な経済回復過程を作っている自民党に有利な展開だが、氣を引き締めて持続させてもらいたいと思っている。憲法改正、原発政策、などあるかもしれないが、こうした課題、特に憲法改正については慎重に扱かれた方が自民党にとつても賢明であり、そもそもここで持ち出す機運はないはずである。経済問題を成功裏に収める努力をした方が、国内にとつてはもちろん、世界の大勢はその方向に向かっている。経済重視を貫いて、国力に本來的な力をつける努力が必要である。経済政策路線を快調に行く安倍さんにとって、マナ指すことのないよう自重を願いたい。能あるタカ派爪を隠すで、憲法改正や、価値観外交に殊の外力むことのないよう、経済に専念して南岸のデフレ脱却に戦力を挙げてもらいたい。さすれば消費者も企業家も満面に笑みをたたえ、財政再建のかじ取

りにも明るさが増してくるだろう。その昔、池田総理は所得倍増計画をぶち上げたが、それを蒸し返して安倍色に塗りつぶし、さらには企業収益倍増、税収の倍増、国債発行の減少を以て財政再建の道筋を描くことも出来るはずである。国論の統一はそこからである。アベノミクスの目指すものは、そこになければならない。

そして気がかりなのはヨーロッパの政治情勢である。シリアの内乱は混沌が続いているし、昨今エジプトの反政府デモの拡大は軍の介入をゆるし、ぬりくりのハツタリ大統領をクーデターで追放する事態になつた。軍の政治介入は好ましくないが、大規模デモで二つに割れた国内情勢は内乱につながる。壊滅的打撃を招く前の、仕方がない選択だろう。完全にクーデターと言い切れないところに苦渋の判断である。ボーランドの内紛も危惧されている。トルコのデモ騒ぎも収まつてない。20年開催のオリンピック候補に挙げられている国だが、実現が危ぶまれており、漁夫の

利を得るのは日本になつてきた。日本はもともと開催の実力はあるのだが、アジア地区での経験が近くは北京にあつたりするので、できれば他の地域にと云う配慮があるのだろう。ブラジルでも金を使うならサッカーの代わりに貧困層の救済に当てろと民衆が叫んでいる。そして大規模のデモが全国に広がつて警官隊と衝突している。これは日本と逆の現象で、小生を初め日本人の多くがサッカーに浮かれているのは行き過ぎかもしれない。ただ国は金を出しているわけではないので、ブラジルで騒いでいるような要求、提言とは少し違うようである。しかし、熱に浮かれている感じがする日本人にとつても、立ち止まって考えるきっかけになるかもしれない。突き詰めるとブラジルの騒動は真意であつて、事の本質を突いて、本物かもしれない。

ブラジルは資源大国、経済成長を売り物に日本でも証券会社が盛んにブラジル国債を推奨販売していたが、私は執拗な勧誘を断つた。これは正解

であつた。買った人はブラジル国債の値下がりで

ある。

大きな損を出しているに違ひない。こうした政治不安は経済にすぐに反映されて及ぼす悪影響は測り知れない。国の通貨は暴落し、インフレを招き經濟不安の要因となつて、さらに国内政治を混乱させる結果になる。アラブの春に始まつた民主化運動は、中近東では民主主義制度を受け入れるに、社会そのものが未だ未熟などころがあつて仕方がないが、もう少し落ち着いた世界の状況になつてもらいたいものである。こうした目先の状態を見てもニュース課題は山積で、内外の経済、政治ニュースを担当するあつこの報道活動と勉強は並大抵のものではなくなつてくる。責任重大である。小さいころから明るく正直で、自立心の強い子だったから、人一倍の勉強家だった。男の子だったら、今の安倍さんみたいな人物になつただろう。これからが大いに活躍していく素質を持つているものと、親馬鹿かもしれないが、自分を大切にしつゝながら、私は静かに期待しているところで

家内が遠方に向かって留守であり、私の些細な状況を心配するどころではないだろうに、親が言うのはばかりが、しかし十分に実力を持つているので、常に自然体で職責を果たしてくれると確信している。仕事の激務からして、私よりむしろあつこの健康を心配し、健康には十分注意してもらいたいと思うのである。ところが二人でこうしてあつているときは一切そうした話題はなく、専ら健康のこと、家族のこと、友達のことなどが中心であつて、至つて平凡に過ぎて行くのがまた不思議に感じているのである。この日は家内が連日、日本を留守にしているので小生が干上がつているのではないかと案じたあつこが、楽しい夕食に誘つてくれたおかげで心身ともに馬力が付いた。腹が減つては戦はできぬで、専ら食べること優先で、貴重な時間を有意義に過ごすことことができた。

野菜の具をとりすぎても胃に収まる量は定まつてゐるし、すき焼きの肉も久しぶりに食べて栄養

を摂取したいし、それにいろいろな種類の薬味が沢山出てきて、食事の楽しさは倍加してきた。会食の席も経済の大評論家、あつこを前にしての豪華版でもある。あつこの単独会見で優れた情報を引き出したいくらいだが、職業柄自肅する立場である。お父さん、生ニンニクのすりおろしを取り過ぎよ、と注意されても好きな生ニンニクのころしをどっぷりつけながら食べているので、あつこが心配しているのである。ニンニクは昔から栄養精力剤で通っているし、匂いの強いのは困るが、自分の行動範囲を考えて加減しなければならない。匂いの弊害があつて、普段は専ら避けているが、久しぶりにありついたこの好機を逃す手はない。

しかし程度問題である。胃の過大な刺激にもなるし、あとが臭くて大変だからという忠告を無視しているのだから困つたものである。しかし薬味にはニンニクが一番いいことが分かつて、そうだ夏野菜にニンニクの栽培を手掛けてみようと思った。

普通の夏野菜にはほとんどの虫がついて、食い荒

らされてしまう。売られている綺麗な夏野菜には、ほとんどが農薬、殺虫剤が使われているので身体への弊害が懸念されて来るので、欲しくても食べる気がしない。ニンニクならもともと臭い匂いを発するので、人間と同様、匂いを嫌つて虫がつくことはない。庭烟には夏野菜にニンニクを栽培することに決心した。これは良い着想であり、今日の大収穫である。牛肉のしゃぶしゃぶと生ニンニクのすりおろしをつけて、栄養満点の会食を終えて自力再生に喜色満悦、前向きに進む馬力がついてきた。しゃぶしゃぶの店を出たのは夜の10時を回っていた。今日のあつことの、しかも初めてのデートで、経済の大評論家から教わった教訓と知恵が、自宅での新鮮なニンニクの自家栽培であつた。あつ子もニンニクは嫌いでもなさそうである。麦わら帽子をかぶつて、あつこも畑仕事を手伝ってくれるだろう。ニンニク烟でホーイホイ。

愉快である。七月四日

野武士の黒田総裁の自信あふれる発表

黒沢明監督の制作になつた映画、七人の侍は個性あふれる役者が揃つて演技を盛った名作の一つですが、中でも用心棒の侍の一人を演じた三船敏郎の強烈な印象が未だに残っています。日銀の黒田東彦総裁はその風貌からして名演技をこなした三船敏郎に二重写しになつて奮勇をふるつて、自信に満ちた金融政策の運営に携わっています。7月11日に開かれた日銀の金融政策決定会合で、4月に導入した異次元の金融大緩和を繰り続き継続することを表明し、日銀の金融政策運営が、我が国でのデフレ脱却を実現するための有効な手段であり、実現できるとの自信のほどを明確に表明しました。そして景気の現状判断を緩やかに回復しているとし、2パーセントのインフレ率を二年以内に実現すると明言しました。デフレ脱却は長年の願望であり、企業活動を促す動機と原動力であ

ります。停滞しきつた経済に活力を与え、再生の道を目指す糸口であります。

企業の業績回復は直ちに税収の拡大につながり、経済運営にも余裕をもたらすでしょ。これを何としても勤労者の賃金上昇に繋げていくことが必要です。家計を潤すことによって消費者の購買力を引き上げ、豊かな家計は、少子高齢化に歯止めをかけて、人口増加への突破口となるに違いありません。すべてにおいて良い相乗効果をもたらし、アベノミクスの真の成功を占うことになります。この先是非とも良好な経済社会生活を裏付けるものとして、その持続性をキープしていくことでしょう。

近く参議院議員の選挙が行われますが、懸念な判断を以て選挙に臨むべきです。安倍さんは仮に大勝しても慎ましく冷静になつて目先に浮上した憲法改正や、歴史認識にむきになつた外交に傾斜することなく経済に専念した姿勢を貫徹してほしいと思います。兎角、右傾視されて見られる欠点

と申せば、それが安倍さんの御先祖様の威厳と呪縛から解き放たれて真価を發揮する事ができるのです。長年、云うだけであつて誰にも果たせなかつた経済課題の解決に専念していくとなると、残された三つ目の矢については、踏み込みが足りません。日本にとって、このいまこそ経済構造の改革と転換を図る絶好の経済回復の局面です。百害あって一利なしの旧態然の既得権を撤廃し、大胆な規制緩和を行う絶好のチャンスです。この好機を無にしてはなりません。そのためにも衆参のねじれを解消した安定した政権の実現が望されます。なお気になるのが安倍さんの原発政策です。どちらに転んでも原発基地は将来に深刻な問題をはらんでいます。将来の国際経済の競争力を考へると、原子力発電の安価性、持続性を考えれば、原発稼働の誘惑に惹かれてしまいますが、将来に対する懸念すべき課題は打消し難いものがあります。エネルギー源を安く多目的に供給を図るにも私が以前から述べている電力の発送電の分離を強力的

に進めることでしょう。安倍さんはこれを忘れてはいません。現在は内外ともに大事な時期に日本は立っています。IH-Iは航空機燃料にバイオ燃料を大量に生産することになりました。その原料は「藻」です。従来の航空燃料を盛んに使つて、地球の表面をめぐつて何百機と云う数のジェット機が休むことなく飛んでいます。「ここから排出されるCO₂、二酸化炭素の排出量は莫大で、地表を包んでいる大気を汚染すること夥しいものがあります。今、この航空業界で消費される燃料と大気汚染については余り論議されていないことも不思議であります。自公民の大勝を期待して経済政策の成功を期すことが第一でありますが、原発稼働の論議はなかなか收まりそうもありません。こうした中、与党内野党の毅然たる良識を持った公明党の躍進が、今回どうしても必要な気がしてきました。みんなの党の、躍進も願っています。皆さんのが自身の判断を以て尊い一票を行使してもらいたいと念願しています。七月十二日

賢者の狂言

下劣な政党

大阪維新の会の橋下の坊ちやまはいつもちやらちやらして落ち着きがないが、その後の豹変を続け、石原慎太郎の大老と一緒になり日本維新の会と、名称をくるくる変えてきていた。太陽だと大阪とか日本だとか、何でも構わぬが、いい加減にしてもらいたいと思つていたら、いい加減な素質を持つた餓鬼だと云うことが判つた。務所上がりのホリエモンと一緒にで、こうした餓鬼の出現を許し、持て囃す世の中の責任もある。気が違つた現代は、風変わりな奴ほど良くもてるとはこのことだ。悪い奴ほどよく眠るとも言つてゐるが、同じような程度だろう。橋下の若造は、化けの皮がはがれて飛んでもないことを云い抜かしおつた。

かつての日本軍には従軍慰安婦は必要だつ

たとか、如何にも大人ぶつて従軍慰安婦の是認する発言である。今更何だつてこんな下劣な発言をするんだね。判断力を失つた人間の場当たり的な発言で、救いようがない。更に感じることは、不潔極まりなく、この男、極めて人品下劣を以て、これを疑うべき人物である。これに同調して援護射撃をしている暴走老人、ぼけ老人の石原慎太郎までが梅干しのような顔を出してくる始末である。改めて思うが、今更何だつてこんなバカなことを云い抜かすんだ。記者会見の席での発言だが、この餓鬼が毎度のことで薄っぺらで格好ばかりつけて糞威張りしている。俺らあ、市長だ、共同代表だあと抜かしあるが、一体どこのどいつだあ、と言い返したい。日本軍をこき下ろしたと思つたら、尚外国から非難をくつたにも拘らず「軍隊があるところ必ず慰安婦がついているのは日本ばかりではない。世界どこでもそうだ」と、恥の上塗りをして、貴殿の軍隊にも慰安婦をちゃんとおい

てやつたらどうだと、米軍将軍に進言したと云うから、氣でも違つたのではないか。わが日本民族がいかに恥知らずで、市川房江が聞いたなら、墓場からふたを開けて出て来るぞ。あの時は若い者の皆が一時的被害者であった。何も軍隊だけではない。女性蔑視の下劣な発言は、平時にこそ論すべきことだ。左様にこんなことを持ち出して、下の話をしてこと自体、馬鹿者だと云うことだ。人権以前のことだ。

従軍慰安婦

このことを持ち出したら女性ばかりでない。男だって被害者だと云つて名乗り出ることだつてある。半々で喧嘩両成敗と云うことになる。こんな下種な話をしていたら、今を時めく美人ジャーナリストの櫻井よしこは黙っちゃいないぞ。市長の若造が云うには、我々日本人が先祖代々、下劣な民族だと云わんばかりじゃないか。じゃあ、お前はいったん何さ、何なんだ。世の中の恥部を無理やりさらけ出す馬鹿者

がいるか。いい加減にしろ。そんな不埒な考え方を日本人の皆がしていると云わんばかりである。慰安婦の人権蹂躪をとやかく言うなら、お前さん、若旦那の主張する軍隊をなくせばいいじやないか。軍隊がいるから慰安婦が必要だとするなら、必要悪とする軍隊がなければいいわけだ。そちらが先決じやないか。そもそも憲法を論じる資格もないやつが、なんだって憲法改正を云うんだ。そんな奴が軍隊の存在を認めていながら、従軍慰安婦のことを取つてつけたように言うのはおかしくないか。しかもそうした発言を以て、沖縄のアメリカ軍の司令官に向かって、「もつと風俗業を活用したらいのではないか」と面等向かつて云つたそうである。もつと悪いことをしろと云うことではないか。学校でそんなことを教えているのか。そちらの旦那が冗談交じりでいうなら笑つて済ませるが、日本維新の会の共同代表の一人が、つまりれつきとした（実はれつきとしていればこんな

発言などしないが）政治家が云うのだから、日本の中の政治家の素質がいかに低劣かと、世界に恥をかかせるにもほどがある。バカ野郎！。ビートたけしだつて怒つて吠えるに違いない。

発言は国民侮辱罪にならないか

世のなかには当たり前のことを、真顔になつて云う馬鹿なものもいる。云つても良いことと、云つては悪いことがある。これもその一つである。物事には、わきまえと云うものがなければいけない。弁護士くずれの橋本の坊や、いや餓鬼にはそれが判らないらしい。未熟児の、恥知らずの馬鹿野郎。うつかりすると、日本人の馬鹿さ加減を、世界に代表して知らしめたようなものだ。国連の人権委員会でも取り上げられる始末である。いい加減にしろ。橋下は政治家を止めて買春の客引きでもやつて、現行犯で捕まつて刑務所行きになつたほうがいい。警察は発言を、軽犯罪法違反の現行犯でしょつ引いてもいいんじやないか。公然と買春をそそのかした

罪である。公人の言動としてあるまじきものであり、國益を損なうのも甚だしい限りだ。上の者がやくざ稼業のこととを平然と言うから、これをいいことに世間に犯罪が絶えなくなるのである。性欲を満たしきれない旦那の若造がおとなしい妻を虐待死させ暴力を振るう。子ずれが邪魔だとして転がり込んできたフーテンが殴るけるの虐待の上、殺して山に埋めたりする。これの責任は政治家言動の一端にある。最近のこうした犯罪の陰に、一般的な社会教育の欠如にある。学校教育はある程度備わっているものの、卒業後の一般的意識を欠いたまま社会に出て行く傾向が強くなつてきてている。そもそも学校教育にこうした常識の欠如甚だしきものがあるからである。

当たり前の作法ができない国民

よく言われることの一つに、挨拶の仕方を云々されることはなかつたとか、だから客人を迎えた時に、お茶の組み方すらわからない連中

が多い。ましてや自ら進んでする人間はいない。

最近とみに考えさせられることがある。職場でもいい歳をとった大人が、手紙一本かけないのである。何らかの行為に対し禮状の一本すらかけない人間が横行している。字が書けないなら仕方がないにしても、まさか未開の土着民なら仕方があるまいが、背広姿の格好つけた兄ち

やんがそんな始末では世間が通らない。しかしそれが通ってしまうところに問題の根の深さがあるわけである。橋本の若造が知つたかぶりして女郎遊びをくぐつてきたかのようなセリフを吐くから、薄っぺらさが、言葉を以て化けの皮がはがれてしまうのである。

橋下については最初からどうもおかしなやつだと、この人物についてはひたすら傍観してきたが、我慢が出来ず、とうとう結び目の紐が切れた。こんな輩に日本の政治に加担してもらっては品格を汚すこと夥しきものがあり、国の恥である。何度も繰り返すが、この野郎。兵

隊たちの性欲のはけ口に風俗業や慰安婦が必要だと公言して、女性を性的道具としか見ない暴言を吐きおつた。男が聞いても鳥肌のたつ暴言である。市民団体は、侮辱罪で告発すべきである。大阪市民は何しておるんだ。老いぼれの石原まで橋下の肩を持つたりしてしゃしやり出ている。

期待するみんなの党

みんなの党的渡辺代表がすかさず橋下の発言に対し怒り心頭に発し、維新の党と選挙協力の決別すると、素早く反応し、良識と正義に基いた当たり前の喧嘩を売つて出た。我々国民に代わつて愚連隊みたいなやつを叩き潰してもらいたい。素早い渡辺氏の言動こそ当たり前で、良識を持つた人物である。日本は、やはり理性的な判断を持つ国だと、そこで世界の考えを誤解だつたと改めてもらえるような気がする。平然とする橋下に対し重ねて、改めて馬鹿野郎と云いたい。「馬鹿野郎」を余り乱発して使つた

りすると、著作権侵害ではないが、ビートたけしに叱られても困る。しかし、ビートたけしのそれを以てしても足りないくらいである。この輩が、尚また子供の教育問題にまで口をはさむ怪しからん男である。とんでもない輩が、跋扈し始めたものである。日本の極右的傾向が感じられてくるような危険な兆候の時に、やくざ稼業に似た輩が出てくるようでは、日本の将来が心配である。歴史上の人物に成りすまして、船中八策だとか偉そうにお面をかぶり田舎芝居丸出しで詐欺がまいで嫌悪感が先に走つてくる始末である。市長の座をもてあそび、できもしないことを云い抜かし、民衆をあおるようなことをしでかす飛んでもない人物である。この男の得体が知れないから、今のような右顧左眄の時に良く紛れ込んで出てくることがある。チンピラの跳ね上がり分子と見て間違いない。そもそも市長の分際で国会の議員団からなる政党の代表に就くこと自体、国会をなめてかかつ

ているにもほどがある。市政は地方自治の精神を具現化する大事な柱である。しかし国家全体を見る政治行政とはおのずと考え方や手法が違つてくるのは当たり前で、近藤は出来ない。こうした人物に頼つていく議員も実際にいるから一体何を考えて国會議員になつているのか良識を疑つてくる。昔、売春禁止法が国会で審議されていた時に一人反対する議員がいた。墨田、江東区から出ていた代議士の真鍋儀十と云う人物だった。これが赤線疑獄で逮捕された。赤線業者組合が売春禁止法に反対してもらうために不淨な金をだし、その金を受け取つていたのである。そんな事件のあつたことをふと思いついた。沖縄の在日米軍の司令官に、血気さかんの米軍兵士をおとなしくさせるために、性行為を満たすために、進んで風俗業を認め売春を勧めたと云うから、驚きである。さしもの司令官もこれにはたまげたらしい。船中八策で物議をかましている間は生き延びているかもし

れないが、そのうち化けの皮がはがれてきて、焦り始めると何をやらかすか判らない。

市場の激しさは画期的現れ

右往左往の株式市場である。上がれば下がる、下がれば上がるは株式市場の常道である。株を買つた人がうなぎ上りに株価が吊り上つていくのを見て、こんなに世の中が生きがいのあるものとは知らなかつた。毎日が楽しくて仕方がないと唸つていたそうである。数字と欲がからもあつて相乗作用で資産が膨らんでいくから当然である。しかしそれはあくまで仮想のものであつて、決済して確実に利益を手にしてからでないと、はつきりした説明がつかない。しかし株主になつたようなつもりになつて、株価が上がつていくことは、それはそれでとても結構なことであると思つていたところ、ある日を境に株が上下に荒っぽく動き始めて、目が回つてきたそうである。売るべきか、買い増しすべきか迷いに迷つていたところ、毎度の急落の場面

に怯えて夜が寝られなくなつて、株の呪いから逃れなくなつてしまつて、ついに病院に入院してしまつた。投機か、逃避か、二者択一で決心がつかずに、こうなるともはや蟻地獄である。折角つかんだ資産価値も、嬉しいに終わつてしまふ。いつたん始めた甘い汁は解けそうにもない。売るに売れず最後まで持つていて痺れを切らした打つたところが底だつた。残念の重層のストレスで又悪くなつた。あきらめが悪いからである。その後は神経内科で治療を受けているそうだ。医者は原因不明で色々な薬を試しているそしだが、鎮静剤の注射が一番効くと云うことで、注射を打つてもうとぐつくりと眠つてしまつて安眠できたが、目が覚めると不安になつてまたぞろ注射を打ちたくなる。睡眠剤が入つてるので眠れるが、薬が切れると元に戻つてしまふ。危険な薬物依存である。そんなことを繰り返していたら食欲が細つていつて、今度は本当に体に異常をきたしてしまつた。株

を始末していないので病院に入つていても一向に良くならない。一番の治療法は株を止めることである。損をしていようが、得をしていようが、売つてしまえばさっぱりして病気は治ってしまう。しかしそれを断ち切れないでいるから阿呆と云うしかない。

痺れを切らして六月十四日の読売新聞でも、このところの急激な株安を一面にトップで報じた。三週間で三千円を超す急落であり、為替も一ドル九十三円台を付けて高値から十円高に振れている。丁度四月四日、黒田日銀総裁が打ち出した異次元の金融緩和時に戻つてしまつた。異次元金融緩和とは「量的、質的かんわ」の導入であったが、その効果で挙げた株価と円安がすっかり剥げ落ちてしまった。

日本だけでなく世界的な株安が続いているが、とりわけ日本の下落率が大きく影響しているには、急激にあげた反動があつてのことである。世界的な株安の原因となつてているのは、

F R B がアメリカの景気回復を如実に著わした雇用統計が好調なのに加え、量的緩和を漸次縮小していくのではないかと云う観測が流れているからである。

経済大国の指導力

アメリカは二〇〇八年のリーマンショック以来量的緩和を開始して市場に大量のお金を供給してきた。しかしアメリカ経済が回復基調にあることからこの量的緩和政策が終わりに向かうのかが次第に意識し始めたのである。アメリカの金融政策の基本である量的緩和が終わるとすれば市場から大量のお金が逃げ出しえるであろう。これはニューヨーク市場の下落を招くに違いない。事実、五月二十二日のバーナンキ議長の議会証言で金融緩和について量的縮小を示唆して以来世界の株式市場では資金の流出が続いているらしい。当面の注目はアメリカの金融緩和の時機と量的規模である。それによつて世界の金の動きは大きく左右されてき

て、世界の株価に連動して行くことが、懸念材料である。そうした中、日本の大規模な金融緩和が実施されて株価が大きく押し上げられ、加えて二十円の幅で円安ドル高が進んで輸出企業に大きな為替差益を生むことになって業績の底上げが期待されて株価が大幅に値上がりした。こうして急激に上がった後だけにその反動も大きいが、しかし株価が急落したからと云つて、安倍政権のアベノミクスが損なわれるのではないか。成長戦略が追加されていくことによつて、更に企業の活躍する基盤が拡充されてくる。企業活性化を促して景気回復を着実に進めて行くことになろう。いささかも心配し後退することはない。

安倍政権に期待して経済の回復を喜んだ人

たちも、夢と希望を描いて飛び付いたが、それは決して失敗したわけではない。底値で買って、高値で売るなどできるはずがないし、決断して買ったからには、しばらく株価を見ないほうが

体のためにいい。ただ云えることは時代が大きく変わって、少しでもそれに参加するきっかけを得たことは大きな成果だつたと理解していると思う。二十年來の景気下降の過程を経てきて、落胆して身動きできないようなデフレ時代を抜け出すチャンスに巡り合えたことは、その人にとつて歴史的に見て画期的な出来事であるからである。ようやく前進的に体を動かせる環境が整つた感じである。物事は明るく、前向きに生産的に見ないといけない。これに追い風となつてゐるのがアメリカ経済の力図よい回復である。金融政策が度濫に運営されて、回復の突破口を開いた結果が、好調な回復の推進力になつてきている。

様変わりな世の中

賢者の狂言を開いていたら一ヶ月前の世の中と今とでは様変わりである。一ヶ月前に書いていたことが古臭い感じがするほどに、世の中がめまぐるしく変化を遂げてゐる証拠である。

今日、久しぶりに訊ねてこられた友人の富沢社長は、京橋の変貌ぶりにびっくりされていた。一、二年來ないでいると大都会でも目を疑うほどに様子が変わつてしまつていて。百年近く続いていた雰囲氣があつという間に消え去つて、大變化を遂げてしまつ世の中である。銀座、京橋、日本橋界隈は、今どこに行つても創造的破壊が行われている。これも経済学的に見て有効な行為である。凄まじい大都会の構造改革の波である。昨日は、銀座の老舗を誇つて悠然と構えていたデパートの松坂屋が閉店し、解体され、一帯の区画整理を行つて大型の商業施設に代わることになった。完成は三年後の平成二十八年である。そうなると日本橋高島屋が古色蒼然として存在感を示し、売り上げを伸ばして行くのではないだろうか。新旧の様式が生き残りをかけて競い合つて、どちらに軍配が上がるか見ものである。しかし最近の変化、変貌ぶりを見るとこんなことがあつてもいいのかと疑う

くらいに、足元がついていかない。加えてＩＦオーンやＩ・パットなどの通信機器が長足の進歩を遂げて普及し、生活様式の実態にまで大きく及ぼしてきている。それは膨大な情報と、顕著な速度である。それにかかる人間の対応と消化も大きな仕事になつていて。都会の変貌はそれに軸足を置いて左右に揺れながら、選択に困惑しながら、それでも何かしなければならないと焦つていているようにも見える。都會はそうした経験を経て、二年前の大震災を経験していると、美観と同時に、防災上の構造改造計画を考慮して、資金もかかることながら、必要な時期に来ているかもしれない。オリンピック候補に挙がつたトルコが、最近の政治的、経済的デモの発生で社会的不安が起きているので、矛先が安全、安心、便利を売り物にして、開催地として東京が有利に向かつてきている。そうなると都市改造にますますピッチが上がって、巨大建物と、それを支援するコンクリート建造物の乱

立で、一面住みにくい街になっていくかもしれない。

国政選挙の大勢

竹林の賢人を装つて世の中の流れを大観して行こうと思つていたら、そうもいかなくなつた。参議院議員の選挙が始まって、街頭演説がかしましく有権者の耳に届いてくる。それと今回からはネットでの選挙運動が自由化された。この方の効果は目下のところ未知数であるが、パソコン、携帯電話はもとよりＩフオンや、Ｉパットなどと云つた情報機器を通じて選挙活動、広報活動が起ころわれており、若者を始め浮動票の行方がかなり影響をもたらすことになるだろう。投票に看過する有権者は今までよりも拡大することは間違いない。

今回の選挙では、アベノミクスの経済効果が予想以上に国民の間で受け入れられて、且つ高く評価されており、野党の諸君が経済問題で論戦を張つても勝ち目がない。自公民の圧倒

的勝利は現実のものであるあがゆえに太刀打ちできない。むしろ論点を変えて、憲法改正とか、原発再稼働の動きなどに戦術の転換を諂ればいいのに、これとても野党にとつては材料が用意されていない。特に自立つのは政党としての野党の実力の減退である。その退潮ぶりは顕著で、有権者にとつて全く魅力を失つてしまつてゐる。民主党はもとより維新の会の凋落は目に余りある。チンピラと認知症をかけた橋下と石原コンビは茶番劇であつた。生活の党の小沢は見るも無残である。政治生命は壊し屋の異名を以て完全に自壊、消滅した。野党としての活躍が期待されるのは渡辺代表率いる、みんなの党である。ここが野党としての存在感を發揮できるまでに成長してもらいたいものである。自民党が圧倒的勝利を予想される中、余りの独走を許しても心配である。公明党のしつかりした手綱さばきが重要になつてくる。公明党が成長して党勢を拡大し、自公連立政権の妙を發揮し

てもらいたい。公明党は創価学会が背景にあるが、政教分離をめざし、学界からの脱却を図ろうと努力している。宗教色が強いのは、民主主義精神と原則に反することは明白である。自民党と、公明党が連立を組むあたりがそもそも一律背反的要素が濃いが、現実的路線を打ち出しているので国民の支持を得ている理由である。憲法改正に對して、加憲を打ち出して、柔軟なところを示している。

平凡な一庶民として願望するところは、安倍政権がこの先健全な思想を以て政権運営を担当し、沈みきつた日本経済を確実、堅調なものに取り戻して行つてもらいたいことが第一である。この小さな国土で生きて行き、世界経済に太刀打ちしていくには、政権の安定が必要である。一国の首相が何回となく替わり、国の代表者が頻繁に変わっていくような国では、諸外国から相手にされなくなってしまう。それと肝心なことは思想的におられない国に持つていか

なければならない。この国が危ぶまれるのは安倍さんの哲学、思想、国家観である。扱い方によつては、安倍さんの政治生命はこうしたリスクを負つて民衆を混乱させ、国論を二分するような事態を招來する時だろう。今のエジプトみたいなことでも困る。左右の対立をなくして稳健な思想のもと、国力を充実して経済的繁栄を持続的に促していく政策が賢明である。賢明な安倍さんのこと、誰しもができなかつた経済回復と前進の端緒を切り開いた功績は既に歴史上に残るものである。飛び跳ねた、突出した派手な演出は必要ではない。マルクスの先生は、社会の下部構造増の経済的、生産的諸関係が、上部構造を決定すると述べている。上部構造とは、社会の政治、文化、芸術、思想、学問、民衆の生活といった生活諸様式の態様である。

なにも経済至上主義に傾倒するわけではないが、国民経済が、経済の良し悪しが人々の時代を決め、人々の平和と生活と喜びを決めて行

くと解すべきである。だとすれば政治家のやることとは、おのずとほつきりしてくるだろう。真理は単純にして平凡である。恩師の堀江忠男教授が、昔、色紙に書いてくださった言葉である。

梅雨明け猛暑

殺人的猛暑がやって来た。一昨日七夕を迎えたばかりで梅雨明け宣言がなされて三日目である。全国的に三十八度台が記録されていて、気象予報の地図でも日本列島が真っ赤に染まっている。暑さに狂つて蝶が空中に舞いあがつたと思ったら、暑い日差しに心の臓が直撃を受けて地上に落下した。そのまま動かなかつた。灼熱によるショック死である。カラスはでかい口を開けて赤い舌を出している。スズメが木の下陰で小さな口を開けて息をしている。生き物は、この暑さで辟易としている様子がうかがえる。日除け代わりに窓につるませたゴーヤの葉っぱが萎れかげていると云われて、出勤前の朝の日照りの中、ホースで根元に水をかけていたら、

わずかな時間なのに頭がくらくらしてきた。これは堪らないと思つて急いで家に入つたが、暫くの間、頭重い感じでいて気分が悪かつた。熱中症と云うのは、こんな具合になるんだ、と云うことが判つた。野外の仕事は、日が落ちて涼しくなつてきてからやるものである。

今日の午後、私は先週うけたC.Tスキヤンと定期検診の結果を聴きに信濃町の慶應病院に行つてきたが、会社から山手線と総武線を利用して有楽町から信濃町まで、秋葉原乗り換えで行つてきた。外堀通りは暑さのせいだろうか、昼間だと云うのに人影がまばらに感じた。クーラーの効いた電車を降りて外に出るたびに、温度差の激しさで目がくらむほどである。年寄りや病人にとつては、瞬時に生と死とのはざまを繰り返さないとも限らない。この狂つた暑さは当分続くとのことである。原発事故のお蔭で稼働している原子炉が一基しかないと云うのに、幸いなことに電力が間に合つていて。代わりに

火力発電をフル運転しているおかげだろう。節電意識と再生エネルギーによる電力生産もあって、電力会社から脅迫を受けないで生活できることは何という喜びだろう。今まで電力会

社と政府の言いなりになつてきただことが判つたが、大きな犠牲を払つて体験した原発事故は、雨降つて地固まるのだとえの通り、この試練を益として、事、電力問題に関しては、核心をそらさないようにして、問題解決をうやむやにしないことである。今は参議院選挙で各党とも選挙運動に躍起になつてゐるが、原発再稼働を申請する電力会社が目白押しである。大丈夫なのかなど疑念に思ふ。こうした中、第一原発事故発生と同時に現場で指揮を執つていた吉田所長の訃報が報じられた。事故には原因不明などころが沢山あつて、彼は現場で多くの目撃者で、実情をよく知つている人である。現実に事故の対応の仕方も心得ている人である。死因は食道がんであるが、大量に被ばくしたことと観察が

あるかはわからない。多くを語らずしてなくなつてしまつたが、その豪放磊落な人柄を惜しむ人が多い。

今は走り出した日本の現状で、全てに改革改善の道を進む以外にないだろう。原発がクリーンで安上がりだとか儲かるとか言つても、放射能を帯びた使用済み核燃料の処理は、一体どれがどこに持つていけばいいのか。今のところさっぱりわからぬまま、雨ざらしの状態で山積みの状態である。さもなければ人目につかないところである。例えば、地下深く、海中深くと云つても、結局は何処にだ、という問題に突き当たつてしまう。實に厄介者である。所詮、そんなものを残滓として残さなければならないものなら、初めから手掛けないことである。

理不尽、自殺国日本

交通機関を利用していると人身事故の知らせが絶えない。中央線と總武線のホームの電光板に二件の知らせが流れている。人身事故と云

うが、飛び込み自殺である。豊かな日本で不思議なことだが、普段でも日常茶飯事の出来事ゆえ、何とも思わなくなつてしまつたが、幸いなことに現場に出くわしたことが多く済んでいる。犠牲となつた人は誠に氣の毒だが、人間、死ぬ気になれば何でもできたはずである。世の中には夜逃げ同様で姿をくらます人が沢山いる。いかさまばかりで生きている人なら別だが、正直で気が弱い人がいろいろと悩んだ挙句に希望が叶えずに世を諦めてしまう人もある。主に経済的な理由からであるが、常日頃私は若い人に云つていることの一つに、人さまに責任を果たせなくなつたら、人間いたるところ青山あたりで、自給自足の生活をしていく術を若い時から心得ておくべきだと云つてゐる。安い土地を二反歩、つまり六百坪買つておいておけば楽園になるかも知れないが人としての道に外れたものとして非難されるし、力に余裕のある人は然るべき助け指導しなければならない。いずれにしても死を選ぶことは悲惨であり、自己否定であり、敗北であり、見るに堪えない。生きるこ

死のうとする人は、理性が働かなくなつてしまつたのだろう。発作的である。用意周到に準備して自らを殺める人もいるが、そうした心境は、そもそも尋常でないがゆえに余り正当化できない。氣の毒に思うが、精神錯乱状態にて既に病氣の状態である。病氣だから落ち着けば施しようがある。処方の仕方がある。そうした心境に追い込むことのないように、周囲の人たちが早い段階で気付いて、親身の相談と处方箋を講じてやれば上手くいくはずである。それでも駄目ならどうしようもないが、生きていればこそその世の中である。死んでしまつたら何もわからない。判らないから樂になるだろうと云うことでその道を選択するとしたら、屁理屈になるかも知れないが人としての道に外れたものとして非難されるし、力に余裕のある人は然るべき助け指導しなければならない。いずれにしても死を選ぶことは悲惨であり、自己否定であり、敗北であり、見るに堪えない。生きるこ

とは所詮苦しみにも似ている。努力して、その裏返しのあることを会得すべきである。自らを人身事故に惹かれる人に、篤と注意したいことである。

この殺人的暑さは、異常気象の齎す所以かもしないが、これに対処して人間も他の動物と一緒にで、良い知恵を絞らなければならない。昔使つた小道具を持ち出して、お済いしながら活用するのも良からう。冷房の効く場所のみが暑気除けとは限らない。風鈴、浴衣、涼み、蚊取り線香、打ち水、すだれ、冷奴、搔き氷、線香花火、緑蔭、これ全て手近かな夏の風物詩である。家に帰つたら、庭にテーブルを出して蚊取り線香を炊いて、枝豆をつまみながら冷たいビールを飲んで一服するのが一番いい。日照りの空も紫色からようやく黒ずんでてきて、東の空が月の明かりに染まってきた。吹きすぎて行く風が心なしか涼しい感じである。一雨欲しいと思う空の端に、黒い雲が積まってきた。ひよつ

とするところの涼しげな風は夕立を運んでくるのかもしれない。月にむら雲で、梅雨明けの空の変化眺めているのも趣きがあつていい。

古今

をちこち

静岡文化芸術大学准教授

磯田道史



富士山が世界文化遺産になりそうだ。以前、静岡県知事の川勝平太さんと富士山について雑談したことがある。川勝さんは元々学者で、私と同じ社会経済史が専門だ。彼は英國オックスフォード大学に留学していたから英語が堪能。「富士山を自然遺産でなく文化遺産として、イコモス（ユネスコの諮問機関）に認めさせるのは至難ではないですか」ときいたら、彼は「いや。インド人の世界遺産センター所長ラオ氏に説いた。あなたもアジアの方なら自然に文化性を認める思想はおわかりでしよう」と答えた。

たしかに、富士は文化なのである。この国で、文字のうえに初めて富士の美しさが顕現したのは万葉集であろう。しかし、私は平安時代に都良香（834～879年）という官人が書いた「富士山記」という名文に驚く。富士の頂に登った人にしか富士がみせない秘景が記されているからである。

「頂上に平地あり。広さ一里ばかり。その頂は中央は窪み下りて、かたち炊瓶（米を蒸すすり鉢状の土器）のごとし。瓶の底に神しき池あり」。平安時代、富士山頂のすり鉢には、水をたたえた美しい純青の火山湖があつた。その湖中に、うずくまる虎の姿をした大石（おそらく現在の虎岩）があり、湖面からは湯が沸きあがるよう蒸気が立ち上つていたというから、これほど神秘的な光景もあるまい。

ただ、よくわからないのが、「山の峯を観るに、白衣の美女二人あり、山のいただきの上に双び舞う」との記述。山頂の白雲を見たものか、平安期には富士山頂に一对の天女像が置かれていたのかわからない。

ちなみに江戸時代前期になつても富士山の高さ（3776尺）は正確に知られていないかった。「直立二十五町」（月刈藻集）もしくは「九十六町あり」（塵塚物語）とされ、

2750尺とか1万560尺とか諸説があった。享保12年（1727年）夏に福田履軒という人が駿河国吉原宿で三角測量を行い、「山の高さは三十五町六分二一六三」つまり約3886尺とはじき出してはじめて4000尺足らずの山嶺であると知れた。江戸後期の学者・山崎美成の隨筆「世事百談」に、そう書いてある。

さて富士山は噴火するか。300年ほど本格的な噴火は休んでいて、現在は山頂に登つても水蒸気は見られない。しかし昭和30年代にはまだ温かみがわずかに残つていたときく。気になつたので国会図書館で明治期の富士山登山の案内書を探してみた。明治13年（1880年）の「富士山頂上独案内」が一番古い。

じこれによれば山頂の「伊豆岳と此岳（城就岳）との下なる路邊より絶ず蒸發氣の噴出る所あり」とある。これがアラマキ（荒

卷) とよばれる一角。ここでの噴氣活動は、

(日本史家)

1854年の安政東海・南海地震から活発になり、関東大震災にも反応し昭和30年代まで続いたとされる。そこでは石を取り除いて座れば、腰を温めることができたという。山頂の浅間大社奥宮や茶屋に詰める人はここで足腰を温め、「火を用ひずして酒をあたため饅頭をあぶ」つていたという。

伊豆岳の東側での水蒸気の噴出については大正初年の富士山に関する「史蹟名勝天然記念物保存協会報告書 第四回報告」にも記述をみつけた。「温度を測りて見ました所が攝氏の八十二度」と十分に湯を沸かすことができ、「登山者が鶏卵を其中に入れて半熟にするのを見るといふことがござります」とあつた。

大正期には温泉卵ならぬ富士山卵というものが頂上で作られていたのである。富士の文化は未知なことばかり、奥が深い。

石碑 碑 通史

動搖する世界市場

緩和と緊縮にきしむ経済

慶應大学教授

竹森 俊平



5月23日の東京株式市場では株価が急落し、順調に上昇してきた株価の行方が不透明になつた。混乱の最大の原因はバーナンキ米連邦準備制度理事会（F R B）議長が送った、失業率が改善した場合、金融緩和の早期終了もあると受け取れるようなメッセージである。昨今のアベノミクスについての議論には、米国の金融政策が日本も含め、世界の株価を左右している点の理解が欠けている。筆者が現在滞在している点の理解が欠けている。筆者が現在滞在しているイタリアでも23日は株が下がつた。

世界経済はいま不安定な状態にある。主要先進国が財政改善を目指し、緊縮政策を強行する一方、金融政策では強力な緩和を続けているからだ。成長と財政安定の両立を図る計算だが、金融緩和で浮かれる資本市場と財政緊縮でしほむ実体経済のギャップが目立つ。特にユーロ圏では今年の第1四半期、ドイツがわずかにプラス成長した以外は、フランス

も再度の景気後退、イタリアは戦後最悪の景気後退記録を更新中だ。

欧洲不況の原因は、20年間で政府債務残高を国内総生産（GDP）の6割に削減すると義務付けた「新財政協定」のような、昨年ドイツ中心でまとめた財政緊縮プログラムにある。不況の最中にこぞつて緊縮政策を実施すれば景気の急下降が当然起ころる。不況が続ければ政治もおかしくなる。イタリアでは2月の総選挙の後2か月間組閣できなかつた。米国、日本に次ぐ世界第3位の国債残高を持つイタリアの政局は世界経済にも重大な影響を及ぼす。

2011年にベルルスコニ氏に代わり伊首相に就任したモンティ氏は、資本市場や独仏首脳から評価され、財政再建に手腕を発揮したものの緊縮政策に対する国民の反発を受け、今年2月の総選挙でモンティ支持派は惨敗する。

選挙の主役は、中道左派連合の核で改革派と見なされる「民主党」、中道右派の核でベルルスコニ氏率いる「自由の人民」、既存勢力の政治腐敗をネットで糾弾し、一躍第2位の投票を獲得したコメディアンのグリッロ氏率いる新勢力「五つ星運動」の三者だ。民主党は戦後イタリア政治を支配した旧キリスト教民主党から、そのライバルの旧共産党の残党までを集めた寄り合い所帯で、ベルルスコニ氏への反感だけが接着剤とされるほど結束力が弱く、分裂の危機を數度経験している。

自由の人民はベルルスコニ氏の個人的人気に乗つた政党だが、彼の場合、そもそも政界進出の理由が、自分が築き上げたメディア帝国に対しても反対占の立場から政府が干渉するのを防ぐためだつたといわれ、政治をビジネスに利用しているとの批判が絶えない。

2月の総選挙で、中道左派連合は上下両院とも第1勢力となつたものの、五つ星の大躍進により、上院では過半数を取れず組閣不能となつた。民主党はまず五つ星に協力を申し込むが、既成政党の批判で人気を得てゐる五つ星は拒否した。それが2か月にわたる迷走劇の幕開けとなる。五つ星がダメなら、自由の人民との連立しかないが、反ベルルスコニの民主党にはのみがたく政局が行き詰まる。イタリアではこういう時、通常なら單なる儀礼職の大統領がフィクサーとなり戦前の日本の元老政治のように組閣交渉を進めること。

そこで引退を表明した高齢のナポリターノ大統領の後任者の人選が鍵となつた。だが、国会議員らの投票に基づく大統領選では、自由の人民との連立を嫌う民主党内の造反者が出て、大統領候補が2人まで次々落選する。もはや国会議員の仕切り直し選挙しかない

と見えた土壇場でナポリターノ氏が引退を撤回し、大統領選に出馬、再選される。今後7年の任期を終えると94歳になる老人の、祖国を破滅から救おうとする熱情が政局を動かしたのだ。大統領の要請で民主党とベルルスコニ派の大連立内閣が決まり、首相には民主党のレッタ氏が就いて迷走劇の幕がようやく下りる。

景気回復、政治安定の鍵に

レッタ内閣が最初に決めたのは、モンティ前首相が財政危機解決策として導入したものの国民に不人気だった不動産税の6月からの凍結である。同税撤廃はベルルスコニ氏が大連立の絶対条件としたもので、これで彼の人気は上がり、いま選挙があれば確実に勝利すると言われている。振り返れば11年以来の政局はすべて彼の計算通りだつた。

ユーロ危機を受けイタリア国債の金利が急騰した際に、政界引退を宣言してモンティ氏に首相ポストを譲ったのは不人気な財政緊縮策を代行させるため。国債の金利が下がると一転引退を撤回し、緊縮政策の停止を訴えて総選挙に再出馬、政局を左右する好位置につける。民主党の内部分裂が進行する間は自由の人民の安定性を誇示して地盤を固める。今後はレッタ内閣に自分に都合の良い法案だけ成立させ、すみやかに大連立を解消、解散、総選挙に追い込むだろう。先がこう読めるからイタリアではレッタ内閣は短命と見られている。目標を失い民主党はいずれ分裂する。

政治が闘争でもある以上、彼の政治戦略は世界の政治家の参考になる。政権に返り咲くだけでなく、返す刀でモンティ氏や民主党など政治的ライバルである改革派を再起不能なまでに粉砕する。何たる辣腕！かくも戦略

的才能の豊かな政治家が、かくも政治的良心に乏しいのがこの国の不幸だ。「政治の革新」を訴えた五つ星は、彼にうまく操られ逆の結果をもたらした。確固たる政策を持たないポピュリズム政党の悲劇で他人事ではない。株高による景気浮揚で安倍政権の支持が高まり今や存亡の危機を迎えている「維新の会」も、景気が悪かつたなら、まつたく別の運命をたどつていただろう。やはり景気は政治安定の鍵だ。

イタリアの迷走劇にもプラス面がある。ドイツなどが進めて来た緊縮政策でユーロ危機を乗り切る方針を頓挫させたことだ。モンティ時代には新財政協定をきっかけに欧州に改革が根付く期待があつた。しかし結局、緊縮政策はイタリアで改革派を討ち死にさせ、政治の混迷を呼んだ。現在、緊縮政策への支持が欧州全体で急落しているのは世界経済危機の解決に好都合だ。

2か月間の政治空白にもかかわらずイタリア国債の金利が安定しているのは、F.R.B.など主要中央銀行の金融緩和策による投資家心理の改善の結果だ。イタリア国債と、昨年来6割も価格を上げた日本の株式は心理改善の恩恵を受けた代表的な証券であり、両国のまったく対照的な政治ドラマを生み出した本当の主役でもある。だが5月23日の株価急落により、金融緩和だけに依存する現状の脆弱性が露呈した。やはり回復が軌道に乗るまでは積極的な財政出動で景気に配慮するべきである。

竹森俊平氏 1956年生まれ。慶大、米ロチエスター大を経て、97年から現職
海外にて、サインは頂けませんでしたがご了解頂いて、掲載させて頂きました



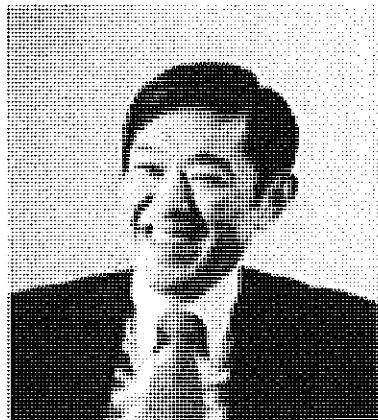
作品 関根常雄



憲法改正への具体案を

各党の立場を明確に

国際大学 学長
北岡 伸一



今回の参院選の焦点の一つに、憲法改正問題がある。

憲法改正は長年にわたって議論されてきたが、これまで一度も現実の政治日程に上がつてこなかつた。今回、関心が高まってきたきっかけは、安倍晋三首相が憲法96条における改正要件について、衆参両院それぞれの総議員の三分の二以上の多数で発議するという規定を、それぞれの過半数によつて発議する、と変えるよう提唱したからである。憲法改正問題をどのように考えるべきか、論じてみたい。

* * *

まず、憲法を国民の手で決定し、改正するのは、デモクラシーの基本である。憲法をあたかも不磨の大典のように考えて、およそ一切の改正に反対するのは、反民主主義的な態度である。

しかも、日本国憲法の草案がG H Q（連合

（国軍総司令部）によつて作られたことは、歴史的に明らかである。国民の多くは新憲法を歓迎したが、それは強制でないという証拠にはならない。占領者が、占領下にある国の憲法を作るのは、国際法違反である。

しかし、強制によつて作られたから、全面的に廃棄せよとか、無効だとかいう議論には無理がある。憲法は、施行からすでに66年、善かれあしかれ、すっかり定着している。憲法の修正は、もつとも不便なところから順番に、一つずつ変えていくべきである。

さて、96条であるが、衆参両院で3分の2の賛成が必要というのは、大変に難しい。戦後、一党が両院で3分の2以上を占めたことは一度もない。衆院では1994年に小選挙区を中心とする新選挙制度が導入されて以来、2度、政権党が3分の2以上を占めたことがあるが、参院は選挙制度ゆえに、一党が圧倒的な多数を取りにくく。

それゆえ、昨年12月の総選挙で自民党が圧勝し、日本維新の会、みんなの党という改革志向の政党が大幅に勢力を伸ばしたとき、今年7月の参院選の結果しだいで両院で改憲勢力が3分の2を超えるかもしれない、関心が高まつたのである。そして最近の維新の失速によつて、その可能性が低くなつたため、やや改憲議論は熱を失つている。

96条改正反対論の中には、憲法の個々の条項ではなく、手続きを先に変えるのはルール違反だという人がある。しかし、現行のルールはGHQが日本に押しつけたものであるから、この批判はナンセンスである。

また、96条を改正すれば、政府が好きなように変えてしまう恐れがあるという人がいる。これは国民投票の難しさを理解していない。戦後、63年の衆院選を最後に、国政選挙で一党が得票率で50%をこえたことは一度もない。それに日本国民は、現状維持

志向が強く、よほど追い込まれない限り、先んじて変えようという志向に乏しい。国民投票は、相当高いハードルである。

にもかかわらず、96条改正論がいまひとつ勢いを得ないのは、反対論者が言うとおり、96条を緩和してから一体何をどう変えるのか、はつきりしないからである。

* * *

自民党などの改正の真の狙いは9条だとよく言われる。日本の安全保障環境が不安定化するなかで、9条改正は緊急を要するという人が多い。しかし9条のどこをどう変えるのか。すでに自衛隊は世界では軍隊と認知されており、9条改正でどのような変化が生じるか、明らかではない。

9条1項と2項の関係についてもコンセンサスがない。

簡単に整理しておけば、9条1項は、国際紛争を解決するための武力の行使や武力に

より威嚇を禁止したもので、1928年の不戦条約を起源としており、国連憲章2条とほぼ同じものである。世界に確立された普遍的原則であつて、変える必要はないし、変えてはならない。

改正が議論される憲法の条文	
第9条	<p>①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、國權の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。</p> <p>②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。國の交戦権は、これを認めない。</p>
第59条	<p>①法律案は、この憲法に特別の定のある場合を除いては、両議院で可決したとき法律となる。</p> <p>②衆議院で可決し、参議院でこれと異なった議決をした法律案は、衆議院で出席議員の3分の2以上の多数で再び可決したときは、法律となる。</p>
第96条	この憲法の改正は、各議院の総議員の3分の2以上の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない。この承認には、特別の国民投票又は国会の定める選挙の際に行はれる投票において、その過半数の賛成を必要とする。

他方で、9条2項の「陸海空軍その他の戦

力は、これを保持しない」というのは、きわめて珍しい条項である。主権国家で軍隊を持たないのは、普通はありえない。

したがって、政府は様々な解釈によつて、自衛のための軍事力を持つとしてきた。現在では、主権国家として自衛のための必要最小限度の軍事力を持つのは当然だという解釈になつてゐる。「これは最高裁でも認められているので、自衛隊は合法、合憲なのである。

安全保障能力の強化のために、自衛隊法の改正に始まり、様々なことが必要であつて、憲法9条から始める時間的余裕はない。

ほかに重要なのは59条2項である。衆院がある法案を可決し、これを参院が否決したとき、衆院が3分の2の多数で再議決すれば、法律になるというものである。衆院の3分の2というのは、かなり高いハードルであつて、国会の過密な日程を考えれば、そう使う

るものではない。

しかるに、衆院の優位というのが、議院内閣制の本旨である。日本の制度は、十分に検討されてできたものではない。G H Qの草案は一院制度であったが、これに当時の松本案治国務相（憲法問題調査委員会委員長）が反対して現在の形になつた。言い換えれば大統領制に通じたアメリカ人と、大日本帝国憲法に通じた日本人の妥協の結果、あわただしくできたものである。

参院選では自公が勝利し、衆参の「ねじれ」は解消するだろう。したがつて、59条2項についての関心は低下しつつある。しかし、今後、またいつねじれ状態は起ころるかもしれない。そもそも、参院が戦後日本の政治で重要な役割を果たしたことが、どれほどあつただろうか。膨大な予算と労力を考えれば、参院を廃止することも十分考えられる。それよりは少し妥協した安として再議決要件の緩

和はぜひ取り上げてほしい。

96条の先行改正も悪くない。ただし、その前提として、第一に、9条2項をどう変えたいのか、自民党はもう少し具体的で現実的な案を出すべきだろう。公明党も9条2項について、いまの条文を維持した上で自衛隊の存在などを明記する「加憲」と言つているが、具体的な文言で提示すべきだ。

第二に、96条については安倍首相も、基本的人権や平和主義などの基本原則については発議要件を3分の2のまととする案も示唆している。これは一案だろう。それによ

つて多數が96条改正を支持するようになれば結構である。ただ、線引きが簡単ではない。むしろ、衆院優位の原則に対応して、衆院の3分の2の賛成と参院の過半数で発議できるようにするのも一案だろう。

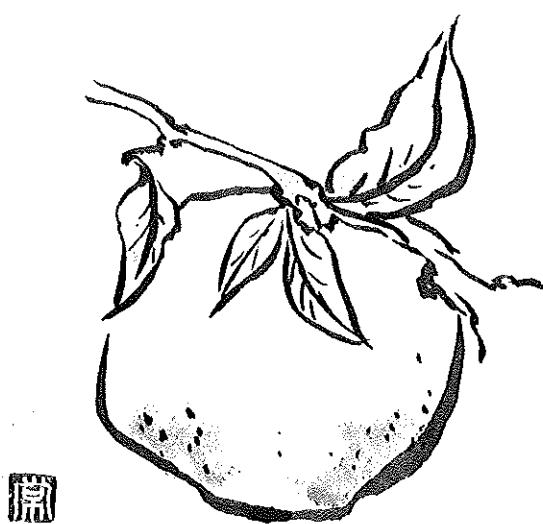
* * *

今回の参院選後には、3年間、国政選挙がない可能性がある。この間には、経済に集中的に取りくんで、その後半に、憲法問題に取り組むのが望ましい。今回の参院選の前に議論を彷彿させる必要はない。各党の立場をもう少し明確化させ、今後の2～3年の間に熟慮と合議を積み重ね、2016年の参院選の前に、国会の発議に持つていったらどうだろうか。そして16年には衆参同日選挙を行い、同時に国民投票を行うのである。

その間に、憲法について大きな対立を抱えた民主党と維新は分裂する可能性がある。民主党の改憲推進派と維新の現実的推進派（橋下グループ）とみんなの党あたりが結集して新しい野党ができるかもしれない。その意味でも、各党の憲法改正に向けての政策提示は目が離せない。

東大法卒。元国連代表部次席大使。
東大名誉教授。専門は日本政治外交史

北風伸一



作品 関根常雄

開国は国益につながるか

企業の生産性を改善

東京大学教授

澤田 康幸



安倍晋三首相が三月半ばに環太平洋経済連携協定（TPP）への交渉参加を決断し、状況が急展開している。TPPは地域貿易協定（RTA）（キーワード参照）の一種だが、自由貿易協定（FTA）のようなモノやサービスの貿易自由化にとどまらず、知的財産保護などの共通ルールを求める「高度」な協定で、経済連携協定（EPA）とも呼ばれる。TPPをはじめ、RTAが世界で急増しているのはなぜだろう。そして日本の国益や世界全体の利益になるのだろうか。近年の経済学研究を手掛かりに考えてみたい。

* * *

TPPと並行し、先月末には日中韓FTAの第1回交渉が行われ、今月末には日豪のEPA交渉が最終合意・妥結する見通しだ。日中韓印豪ニュージーランドの6カ国が東南アジア諸国連合（ASEAN）諸国とともに5つのFTAを束ねる東アジア地域包括的

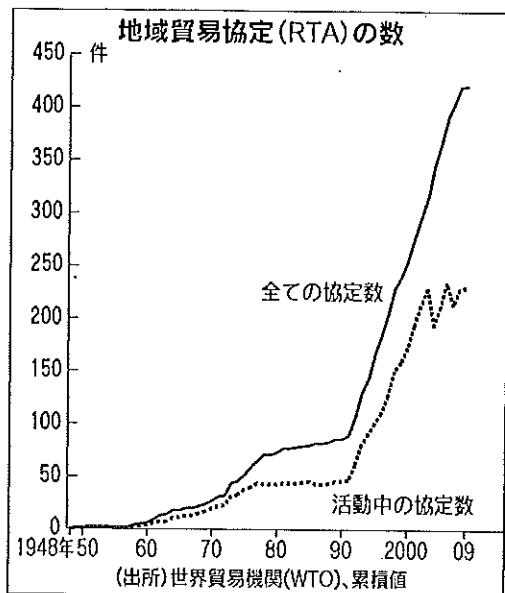
経済連携の交渉も立ち上がりがつた。こうした動きは世界規模で進展している（図）。

他方、世界貿易機関（WTO）における多国間の留貿易交渉は進んでいない。米カリリフォルニア大学のアンドリュー・ローズ教授は、2004年の論文で WTOとその前身である関税貿易一般協定（GATT）への加盟が必ずしも貿易促進にはつながらなかつたという実証研究を報告した。この研究には米スタンフォード大学のマイケル・トムズ教授らが再検討を加えたが、結局 GATT/WTO の効果はあつたとしても小さいと考えられ、そうした限界が進展を妨げている可能性がある。

対照的に地域経済統合は急速に進んでおり、ジュネーブ国際高等問題研究所のリチャード・ボーラード・ウイン教授は、1993年の論文で、世界各国が「ドミニノ倒し」のように次々と RTAを締結する構造を明らかにし

た。これが多国間貿易自由化のステップになっている可能性がある。

事実、米クレムソン大学のスコット・バー准教授らは、FTAを締結したメンバー間で10年間に2国間貿易が約2倍になつていたという「貿易創出効果」を発見した。



では、このドミノ効果はどこから生まれたのであろうか。RTAの経済効果については、古くから「貿易創出効果」「貿易転換効果」という2つの効果が議論されている（キーワード参照）。

* * *

ある国がRTAへの参加に遅れると、輸出先を失い痛手を被る。そのため時流に遅れまいとし、RTAに参加しようとするであろう。

こうした側面について、近年ゲーム理論を用いた政治経済的な分析や、企業行動の理論をもとに精緻なデータ解析を行う実証研究などが盛んになった。

米プリンストン大学のジーン・グロスマン教授と米ハーバード大学のエルハナン・ヘルブマン教授は、94年の論文で、政治献金によつて複数の業界団体がロビー活動を行い、政府の貿易政策に影響を与える構造を示した。先のボールドウイン論文が指摘したよう

に、この研究は次のようない理論的帰結を示唆する。

あるRTAが形成されると、そこから排除された非加盟国では貿易転換効果により輸出市場が縮小する。すると非加盟国の輸出産業は市場を確保するため、政治献金を用いて政府にRTAに参加するよう促し、政府もそれに応えるようになる。こうした事態はドミノ倒しのように次々と起ころう。

この「ドミノ理論」を検証するため、先のボールドウイン教授らは、12年の論文で77年から捕05年の100カ国以上に及ぶ国々の貿易データに緻密な解析を加えた。結果、理論通り、貿易転換効果の恐れから、次々とFTAが形成されていったことが示された。注目すべきは、国内政治的な動機が現実の貿易政策を突き動かしているという厳密な証拠が明らかにされた点である。

* * *

第2次世界大戦後、国際貿易は目覚ましく

よるものである。

拡大したが、これは利益があつたからこそだろ。英ノッティンガム大学のダニエル・パンフォーフェン教授と米クラーク大学のジョン・ブラウン教授は、05年に発表した論文で、鎖国状態から急速に経済開放が進められた日本の幕末と明治初期の状況を比較し

このように貿易自由化が企業の選別を通じて経済会体の生産性を改善させるメカニズムは、ハーバード大学のマーク・メリッツ教授が03年に発表した論文で理論的に示した。この「メリツツモデル」は様々な研究を誘発した。

結果、「開国」によって1人当たり国内総生産（GDP）が約8～9%上昇したことを見出した。現代でも、こうした貿易の利益はあるのだろうか。

加トロント大学のダニエル・トレフラー教授は04年の論文で、89年に発効した米加FTAの影響を検証している。分析によれば、短期的にカナダの製造業雇用が5%減少したもの、平均的な労働生産性は約6%向上し、経済全体に利益をもたらした可能性を示した。このような効果は、生産性の低い企業が退出し、高い企業のシェアが高まることに

教授らは10年の論文で、米加FTAが締結され対米関税が引き下げられた結果、カナダの輸出企業で生産性上昇がみられたことを報告している。メキシコ自治工科大学の手島健介教授は10年の論文で、メキシコの北米自由貿易協定（NAFTA）や欧州連合（EU）との貿易協定が、企業の選別だけでなく企業の研究開発投資を刺激し、競争促進効果を生み出すことを示した。香港科学技術大学のアルバート・パク教授らも10年の論文で、アジア通貨危機前後の中国のデータを用い、

輸出が生産性向上効果を持つという「輸出を通じた学習効果」を示した。

日本を対象とした研究も、経済産業研究所

などを中心に進んだ。京都大学の若杉隆平名譽教授と東京大学の戸堂康之教授は11年の論文で、輸出を開始した企業は開始しなかつた企業に比して4年後で30%程度労働生産性が高くなっていることを発見した。輸出に関する同様の効果は、慶應大学の木村福成教授と横浜国立大学の清田耕造准教授の06年の論文でも条件付きながら見いだされている。

林文夫一橋大学教授とエドワード・プレスコット米アリゾナ州立大学教授が02年に発表した論文以来、バブル崩壊後の日本経済低迷の理由が経済全体の生産性低下にあるという考え方がある説の一つとなつてきただ。もしこうした見方が正しいとすれば、幕末、第2次大戦後に次ぐ、いわば「第3の開

国」たるTPP参加は、企業の選別と生産性改善を通じ将来の経済成長の礎になりうるかもしれない。

最後に、RTAが拡大することは、世界の自由貿易の積み石なのだろうか。それともつまりの石なのだろうか。米プリンストン大学のポール・クルーグマン教授は91年の論文で、世界が北米大陸、歐州、アジアの3経済ブロックに分断された場合、各国の厚生水準が最低となる理論的可能性を示した。TPPはアジアと米国を含む巨大なRTAで、こうした問題を解決する重要な可能性を秘めている。日本は狭義の国益にとらわれず、世界全体の利益のためにもリーダーシップを發揮することが求められているのではないだろうか。

清田 康幸

朝日新聞社編集委員

有田 哲文

南米の新興国チリから米国へ、文字通り工場の引っ越しが進んでいると聞いて、現地を訪れた。

化学原料メタノールの製造で世界最大手のメタネックスが、チリの化学工場をばらにして、船で米南部ルイジアナ州に運ぶのだという。

「俺もこの業界長いけど、こんな大きな工場をそのまま持つてくるのは初めてだね」。案内してくれた技術者は、そう言った。牧草地を切り開いたという、ほこりっぽい工場予定地を歩くと、着いたばかりの巨大なパイプ

が無造作に並べられていた。来年中には、ここに工場ができあがる。

メタネックスが急いで工場を移そうとしているのは、原料の天然ガスがここで安く手に入るようになつたからだ。地層深くシェール（頁岩）といわれる岩のすきまからガスを取り出す新しいやり方のおかげで生産が大幅に増え、ガス価格は 100 万 BTUあたり 4 ドル程度まで下がつた。日本の相場の実に 4 分の 1 以下である。

米国の各地で、安い天然ガスをあてにした動きが急だ。米化学大手ダウ・ケミカルはリストラ路線から一転、テキサス州で大型工場の建設に乗り出した。製鉄や肥料などの業界にも生産を増やす動きがある。ガスによる発電が増えて、電力料金が安くなることも期待される。

ものづくりが、米国に吸い寄せられている。広い工場予定地の真ん中で、そんな錯覚に陥

つた。

リーマン・ショックが世界を金融危機の奈落に落としたとき、その衝撃におののきながらも、心の隅で快哉を叫んだ人は少なくなかつたのではないか。複雑な金融技術を武器に世界を席巻する米国流資本主義はどこかおかしかつた。滅びはしないまでも、これで小休止するだらう。

しかし、それからわずか4～5年で、金融に代わるスターが現れたのだ。国内のガス田が細り、輸入に頼るしかないと言つていたのが、一変した。同じやり方で石油も採れ始め、2020年にはサウジアラビアを抜いて世界最大の産油国になるのだという。貿易赤字も半減しそうだ。シェールは中国や欧州などにあるが、開発が追いつくまでにはまだ時間がかかりそうだ。

それにしても、何なんだこの超ラッキーな展開は。どこから降ってきたのか。

ギヤンブルですね、と聞くと、彼はうれしそうに言つた。「そう、これは洗練されたギヤンブルなんだ。結果が出なければ会社はつ

ぶれていた」

知恵と技術を用い、しかし最後はいちかばちかのフロンティア精神がシェール開発に火をつけた。では、その火を広げたのは何かというと、札束である。

地下資源を採掘する権利は、多くの国で政府にあるが、米国は違う。牧草地でも荒れ地でも地主が権利を持っている。だから、シェール開発が盛んな地域に行くと、成り金物語がごろごろある。日本円にして、あの家は開発業者から何千万もらつたとか、あそこは一族で何億もらつたとか。

シェール開発反対のドキュメンタリー映画を撮つたジョン・バウアーマスター氏（58）にニューヨーク州で会つた。飲み水の汚染の危険性を訴える運動がここでは盛り上がり、知事が開発を凍結するまでになつた。ただ、全米には広がつていない。

「ガス会社の人人がドアをノックする。そし

て、すごい額の小切手を渡そうとする。とても魅力的だから、みんなが受け入れるのは理解できるんだ。もちろん、それは目先のことしか考えない行動だ。開発のために病気になる可能性があるんだから…」

米国に成長の確をもたらそうとしているのは、どこかあらっぽい行動様式である。アニマル・スピリッツ（血氣）とか起業家精神とか呼んでもいいし、たんに強欲と言つてもいい。

21世紀に入るころ、新興国の時代だとみなが思つた。成熟する、あるいは枯れていく先進国と、台頭する中国やインド。

しかし、シェールをたどつて米国を歩くと、少し違う気がする。何もないところから荒々しく経済成長しようとするのが新興国だとすれば、米国もまた新興国ではないか。人口だつて増え続けている。

おそろしいような、うらやましいような。

朝日新聞

国際報道部

柴田直治

を訪れた。その3カ月前には反政府運動の弾圧と軍事クーデターがあつた。街の空気は重苦しく、滞在した中華街は魔窟を思わせた。高層ビルもない。便所はもちろん水洗ではなく紙もなかつた。

80年代、90年代にもたびたび訪れ、2005年から4年間は駐在した。その間にも軍と反政府団体が街頭で衝突する流血の惨事や、戦車が道行くクーデターもあつた。

それでもビルはぐんぐん高くなり、道路や鉄道は整備されていく。街はきれいに、華やかになつた。そしてこの便座！ 公衆トイレは発展のバロメーターである。

単に急成長するアジアの都市のひとつではない。「天使の都」と呼ばれる街は、日本にとつて格別な存在だと私は感じる。

* * *

バンコク中心部で地下鉄、高架鉄道が交差するアソーク駅。「年半前に完成した駅直結のショッピングセンターのトイレに座り、私はこの街の変わりように改めて感じ入つた。日本製の温水洗净便座なのだ。

最近、アジア各地の高級ホテルの部屋でこそ採用されているが、だれでも入れる大規模商業施設のトイレスべてに備えられているのを見たのは初めてだった。

私は学生時代の1977年に初めて当地

駅に直結する別の高層ビルの37階が、野間恵美さん（29）の職場だ。日系ランス

コスモス社のコールセンターで日本から転送されてくる電話の応対をする。同僚約180人も日本人。タイ語や英語は不要だ。

海外で働きたいと思っていた2年前、日本で求人を見かけ、応募した。給料は4万バーツ（約13万円）ほどだが、賃貸マンションにプールはあるし、出勤はタクシーで5分。余暇はテニスやゴルフを楽しむ。タイ語ができないくとも困らない。「ここに来て大正解。しばらくはここで暮らしたい」

同社が日本人を集めてコールセンターを構える海外の拠点はここだけだ。離職率は低

くなくとも、タイに引かれる日本人の応募は絶えない。現地法人の藤原章夫代表によると、人件費を節約できるので、全体で日本より3割ほどコストが削減できる。

大通りを挟んだ向かいのビルに入居するバーソネルコンサルタントの小田原靖社長（44）には日本からの来客が途切れないと、

米国で大学を卒業し、93年に来た。翌年始めた同社はいまや約60人の従業員を抱える日系最大規模の人材派遣会社に成長した。

日本から訪れる企業や求職者は毎年2桁の伸び。一方進出企業の規模は年々小さくなる。「中小企業経営者の多くはアジア各地を回り結局タイに腰を据える。事務所の内装から登記、人材募集、会計監査まで日本語でこどが足りるからです。求職者も日本語ができれば仕事はある。成長している国なので普通にやれば何とかなるんです」

バンコクの長期滞在邦人数（外務省統計）は一昨年10月で約3万5千人。首都として世界一だ。中国・上海、米国ロサンゼルス、ニューヨークより少ないが、日本人社会の濃密さは他都市を圧倒する。

85年のプラザ合意後の円高で、日本企業がどつと押し寄せた。政変や通貨危機、洪水など曲折はあっても進出はやまない。

住人も90年代までは駐在員が多かつた

が、いまは起業家、現地採用組、老後のロングステイ、日本でためたお金の続く限り滞在する「外ごもり」の若者ら、と多様だ。日本人美容師や保育士のニーズも生まれる。失敗し、挫折して帰国する人も多いが、それ以上に日本人はやってくる。

日本語で不自由しない、これほど大規模で豊かな邦人コミュニティーが海外に出現したのは、戦後初めてではないだろうか。

* * *

最大の理由は物価だ。日本人が住むためのインフラが整っているわりに交通費、食費、家賃と何でも安い。シンガポールではこうはないかない。フィリピンやインドネシアと比べ災害は少なく、治安も良い。

中国や韓国のように時に反日に身を縮めることも、米国で抱く英語劣等感もない。心地よさを愛し、ほほ笑みを忘れないタイ人の

気質が暮らしやすさを支える。

「日本の経済が苦しくなり、住みづらくなつたことの裏返しの面もあるでしょう」

起業した日本人が集うタイ王国和僑会の代表幹事谷田貝良成さん（49）の観察だ。

そして「ここは最後のとりでです」とも。周辺国では、大きな建築物は中国政府の援助だつたり、韓国企業のビルだつたりするが、タイでは直接投資の過半を占める日本の存在感がまだまだ大きい。

移民社会の運命は往往にして母国情勢に左右されるが、日本は昔から海外の同胞に大きな関心を払ってきたとはいえない。

タイ中部アユタヤに山田長政が活躍した世界最大の日本人町があつたが、徳川幕府の鎖国令でついえた。戦前の日本人社会は敗戦でほとんどが送還されて消え失せた。ではいまの蜜月と平穏は続くのか。底抜けの円安や、現地社会を覆す政治的混

乱があれば状況は変わる恐れもある。日本以上の速さで進むタイの少子高齢化がいずれ暮らしに影を落とすだろう。

南の国で爛熟する邦人社会。母国の行く末を映す鏡となるかも知れない。

短歌同人誌

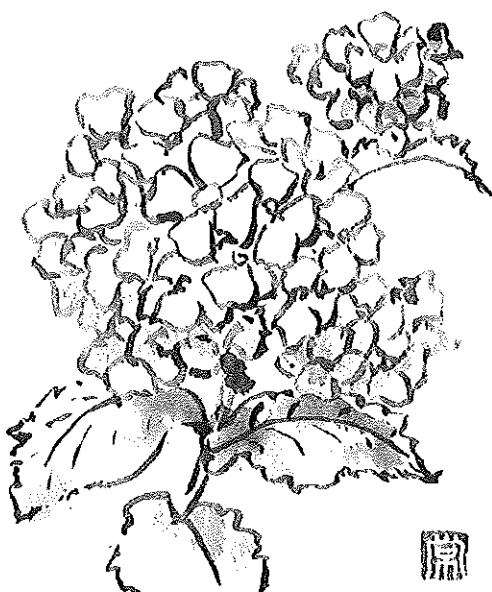


一九五七年創刊

歌人、曾津八一の系譜

事務局 中央区八重洲二十一(二)
電話 ○三三六八二〇六一一

代表 佐々木誠吾



作品 関根常雄

わが回想記

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

始まつた戦争で、彼女はどんな運命をたどつたろうか……などと思いながら、アルバムをめくつていくと、オリンピック当時のことが次から次へと、あざやかに記憶によみがえつてきた。

私にとつて、ベルリン・オリンピックに日本代表サッカー・チームの一員として参加できたことは、スポーツマンとしての栄光であつたばかりでなく、私の人生における一つの大きな跳躍台になつた。いまふりかえつてみれば、私の学問体系の潜在意識的な基盤にもなつてゐる。

私は、その年（一九三六年）の三月に政経学部を出たばかりだった。軍国主義の風潮が次第に高まりつつあつた大不況期の日本とくらべて、ソ連は、労働者の祖国——というよりは“天国”——であり、自由と真理の榮えてゐる国だ、と思つていた。

オリンピック・アルバムから
四十一年前にベルリンのオリンピック村
で買った、五輪マーク入りのアルバムを開い
たら、市内のペルガモン博物館の入口に、ド
イツ人の女子学生を立たせて、私のとつた写
真をみつけた。オリンピックの期間中、私は
いつも市内見物には大学生のアルバイト事
務所へ行つて、ガイドを頼んだ。彼女もその
一人であった。生きていれば、もう六十歳を
超えたおばあさんだろう。あれから三年後に

一九七七年という有利な時点に立つて、

「甘いやつだ！」と笑わないでほしい。眞実

ある。

を見抜く感性の鋭さで世界に名の知られて
いたフランスの文学者、アンドレ・ジイドも、

じつさいにソ連旅行をしてみるまでは、ソ連
について、私と大差ない幻想を抱いていたよ
うなのだから。つけ加えておくと、ジイドが
モスクワに滞在していた一九三六年六月末
に、私たちオリンピック日本代表団はモスク
ワに立ちよっている。

シベリア鉄道で、私の乗っていた寝台車の
ボーアは、第一次大戦で捕虜になつてベルリ
ンにいたとのことで、片言のドイツ語を話し
た。彼は、

「共産党員には白パンの配給があるが、私
たちは黒パンばかり食べている。でも、ソ連
の憲法は、党員になることを強制していない
のだから、私は党員にはならない。」

といつた。私は、ソ連へ入つてみて、労働者
の天国に差別があることを知らされたので

モスクワで観光バスに乗つたら、英語のガイ
ドが、

「これは、偉大な指導者、わたくしの教師、な
んとかの天才……同志スターリンがわれわ
れに与えてくれた『文化と休息の大公園』
でございます。」

「これは、偉大なる指導者……（中略）……
スターリンが与えてくれた『メイエルホリ
ド劇場』……。」

「これは、偉大な指導者……軽工業省の建物
……。」

と、なんでもかんでも『偉大な指導者……』
スターリンが一人で作つたような説明をし
た。スターリン個人崇拜のあくどさを始めて
直接に体験させられたのだ。

七月三日にベルリンへ着いた。ロシアとく
らべて、歴史的に先進国であるドイツは、す
べてにずっと清潔な（sauber）感じで、快適

(angenehm) であった。だが、一つだけ、ソ連と奇妙な共通点があつた。

ソ連にはヒトラーの写真と黒カギ十字の赤旗がはんらんしていた。それが、スターリンの肖像とカマとハンマーを白く染めぬいた赤旗のはんらんに、余りにも似ていた。ただ、当時の私は、そのことから、ドイツとソ連が一党独裁、思想統制の国であるという共通点に想いいたるところまではいかなかつた。

しかし、ソ連で感じたのと同じ「眼に見えないカーラン」を、ドイツでも感じる機会はあつた。たとえば、冒頭に書いた女子学生のアルバイト仲間である男子学生と、政治の話などもするように心やすくなつたのである日、

「テールマン（ドイツ共産党委員長）はどうにいるんだろう？」
と開いたら、急に迷惑そうな顔になつた。
「知らないよ。（Ich Weiss nicht.）」

小声の、口早な返事だつた。

オリンピックがすんで、八月下旬にロンドンへ行つた。ハイド・パークの入口で、スペイン人民戦線への救援カンパを呼びかけているトロツキストが、コミニストの若者に野次られていた。警棒を手にした巡査がのんびりとそれを聞いていた。私は、これがほんものの自由と民主主義か！と深い感動をおぼえた。

オリンピック旅行は、活字から学んだ「真理」を一面的に信頼する幼稚さから、私がぬけ出し、現実を判断の出発点とする方向へ成長する、大ききつかけとなつた。

「ブルジョア・スポーツ」と私

ソ連が参加をボイコットしていたベルリン・オリンピックの当時どちがつて、現在は共産主義諸国、先進資本主義諸国、発展途上諸国のスポーツマンが自由に一時おり多少

の政治的な波風は立つが、国際的に交流する時代である。この原稿を書いているときにも、アイスホッケー世界選手権大会が東京で開かれていて、東ドイツ、ポーランドなどのチームが活躍している。

国内的には、スポーツは、経済的に余裕のある一部の人間の独占物というわけではない。場所や設備は不十分だが、ともかく、だれにも手のとどくものになっている。幸福ないまの世代の人びとに、私が旧制浜松一中のサッカー部でボールを蹴っていたころの、『ブルジョア・スポーツ』選手としてのうしろめたさ、など理解しにくいだろう。

当時、昭和の始めごろは、小学校六年の義務教育を終われば、社会へ出て働くのが普通で、中学校へ進む者の割合は、いまの大学進学者より少なかつた。青年時代にのびのびスポーツを楽しめるのは、一部の階層に限られていた。しかも、一九二九年秋に始まつた世

界的な大不況は、日本の社会にも、いまの不景気とはくらべものにならない、深刻な失業、恐慌をひきおこしていた。大学生や高校生のあいだには、社会革新、学校改革の運動がさかんであつた。

その一端に「選手制度廃止運動」があつた。運動各部の選手だけが学校のスポーツを独占することをやめよ、というのである。私は、スポーツをやれる境遇だということに、「社会的な不公正」を意識している青年であつた。そして、プロレタリア小説家村山知義の「愚劣な中学校」という本を読んで、すごく共感した学生でもあつた。私は、ある日、サッカーチームのキャプテンでありながら、「選手制度廃止運動」をやろうと思いつた。

同級生の柔道部、剣道部、野球部、水泳部などのキャプテンたちに、「運動部員だけがスポーツを独占しているのはよくない」と説いてまわつて、選手制度の廃止に賛成させた。

運動各部のキヤブテンが連署した「選手制度廃止要望書」というのを校長のところへ私がもつていった。全職員と全キヤブテンの合同会議が開かれて、やかましく議論をした。結局、一つの妥協案が成立した。木曜日を「一年運動日」ということにして、一年生は運動各部の上級年の指導を受け、毎週かわったスポーツを順ぐりにやる、というとりきめであった。

古いことわざをひっぱり出せば、「竜頭蛇尾」というやつである。私たちの、というより私の、「選手制度廃止運動」は、あつさり腰くだけになってしまった。でも、それにはそれなりの理由があった。「選手制度廃止運動」そのものの論理が混乱していたのである。それは、一部の人間だけが『ブルジョア・スポーツ』を楽しめるのはけしからぬ、という認識から出発したものだ。「一部の人間」とは、中学、高校、大学へ進学できる、めぐま

れた昔年である。その「一部の人間」のなかでの「選手制度を廃止」してみたところで、なんの社会的不公正の是正にもならないのだ。その上、選手制度をなくしてしまえば、各部門のスポーツをリードする者がいなくなる、スポーツはレベル・ダウンして面白くなくなってしまい、衰えるだろう。

横綱のいない相撲は栄えない

選手がいなくなれば、スポーツがだめになつてしまふ。——このことは、私がサッカーを一生けん命にやついていただけにピンときた。横綱のいない相撲では面白くなからう。私は「選手制度廃止」を唱えながら、同時に、苦しい練習に耐えることを約束しあつた仲間でなければ到達できない高さのサッカーを求めていた。だから、ごく簡単に、「学校当局」とのあいだに話しあいがついたのだろう、

といま思う。

翌年、私は第一早稲田高等学院（第一学院は中学四年修了で受験できるが三年制、第二学院は中学五年卒でないと受験できないが二年制だった）に進学して、サッカー部に入つた。私は学院の一年生のときから、レギュラーのプレーヤーとして大学リーグ戦、その他公式試合に出た。（当時の大学チームは、学院生、予科生と学部の学生とがいつしょになつてチームをつくるのが普通だつた。）中学生のときは一段ちがう、はげしい大學生サッカーでもまれているうちに、やるからには最高峰を目指そう、という気持がはつきり固まつた。

学院の同級生で左翼的・進歩的な某君が私に親切な忠告をしてくれた。

「君もそろそろブルジョア・スポーツをやめたらどうだい。」

「余計なお世話だ。おれの生活全体のなか

でスポーツがどういう位置を占めているのか、スポーツをおれがどう評価しているか、知つてゐるのか？　おれの生活に干渉するだけの確信と責任が君にもてるのか？」

こんな調子でたたみかけたら、彼は黙つて

私のそばから離れた。そうはいったものの、「革命」、「打倒」など物騒な言葉はすべて自身も左翼的・進歩的學生の一人であつた。××印の伏字になつてあるブハーリン『史的唯物論』、ラビドス・オストロビチャノフ共著『マルクス主義経済学教程』（『ソ連・経済学教科書』の戦前版ともいべきもの）などの読書会を下宿の一室でやつたり、「無産者新開」というのを学友の間に配つたりしていた。そんなことで戸塚署の留置所に入れられた。

それ以来、新開配りなどの非合法活動（当時はそれが「犯罪」だつた）はやめたが、大不況の嵐のなかでは、マルクス「資本論」の

示す資本主義崩壊不可避の論理は、それこそ『絶対的真理』の重味で私にのしかかってきた。私は、いわば『良心のあかし』として、『資本論』にとりついては、あの難解な弁証法的表現に悩まされ、引きずりまわされて、ウロウロしているのであつた。あの「深遠な矛盾の論理」の本質は、論理学の術語でいえば、要するに、「論述あいまいの虚偽」にすぎない、と断言しうる學問的立場にいまはある。だが、それは、とても二十歳前後の青年の手におえるものではなかつた。

ところで、私は、昼は東伏見のグランドで日本一を目指してボールを蹴り、夜は下宿で

『絶対的真理』を体得しようと必死に『資本論』と対決していた、修道僧のような男であつた、というわけではない。いまの学生諸君がゴーゴーを踊り、ソウルなどを楽しむよう、私もまたタンゴ、ルンバなどを踊り、ジャズ音樂を聞いた。

当時、ダンスホールというものがあつて、プロのダンサーが「ダンス券」一枚で一曲分、相手をしてくれた。この「ダンス券」の費用をかせぐために、イギリスの社交ダンスの本を一冊、ほんやくして出版したことがあつた。本の扉にあつたタンゴの詩は難しすぎたので、学院でジャック・ロンドン、O・ヘンリ－などの短篇の講義を受けていた矢口達先生に頼みにいった。先生は、私のアルバイト（いまの言葉でいえば）だと聞いて、快く名調子の訳文をつくってくれた。

サツカー・趣味・學問の三角関係

サツカー、『資本論』、ダンス——この三つが、私の一つの身体のなかで、平和的に共存していたのだから、忙しいかぎりであった。そう聞けば、なんという分裂症的な人生だろう、と嫌惡を感じるむきもあるかも知れ

ない。さきに述べた、左翼的・進歩的学友も、その一人だつたろう。しかし、人間が二十歳前後で、その信条と行動において、何の乱れもギヤップもなかつたりしたら、うす気味が悪い。いや、何歳になつても、ピツタリつじつまの合うことはあるまい。ともかく、私は、

この三つにそれぞれ没入して、肉体と精神とを力いっぱい燃焼させていたから、余計な懷疑感にさいなまれるひまはなかつた。

スポーツ・趣味・学問の三角関係といえど、私の助言で、それを二つに整理した友人がある。ベルリン・オリンピックの日本代表サッカー・チームでレフト・インサイド（今までいえば、上り目左寄りのリンクマン）をやつていた加茂健だ。彼は、小学校から大学まで、ずっと私より一学年下だつた。小学生の時からピアノがうまかつたが、早稲田高等学院に入つて東京へ出てからは、レオ・シロタという外人ピアニストの教授を受けていた。彼は

「サッカーもやりたい、理工学部もまともに卒業したい、ピアニストにもなりたい」と、ぜいたくな悩みを私に告白した。私の場合の三者共存とちがつて、この三角形の維持は空間的、時間的に無理である。私はいった。

「ピアノをあきらめる。」

彼はピアニストの夢を捨てた。オリンピック選手になつた。ベルリン市内でショパンのポロネーズの楽譜を買い、帰りの客船、鹿島丸のサロンのピアノでそれを聴かせてくれた。何人かの女子選手たちもいつしょに聞いていた。彼はある電機会社の幹部になつた。会つても、「ピアノをあきらめたのは残念だ。」と私にこぼしたことはない。

スポーツと人生の関係について、もう一つ書いておきたいことがある。私が学部の学生だつた三年間、昭和八、九、十年の三シーズン、早稲田のサッカーは関東リーグで連続優勝し、昭和十一年（一九三六年）のベルリン・

オリンピック・チームは、早稲田が主体で編成された。オリンピックの第一回戦に、優勝候補のスウェーデンに、前半0対1、後半三対〇、計三対一で勝つた。試合修了のホイスルが鳴ったとき、私の眼から涙が二、三滴、芝生に落ちた。

私はハツとした。それまで、国内のゲームでも、国際試合でも、涙を流したことはなかったからである。サッカーは、私的人生にとって、非常に大切なものであつた。しかし、いちばん大切なものではない、ということも私には自明であつた。そして、私はゲームにはつねに全力を傾けてきた。だから、勝とうが、負けようが、涙を流す理由はなかつたのである。

ともあれ、対スウェーデン戦の前にも後にも、サッカー選手として涙を落した記憶は、私ではない。女の子ならともかく、男子選手が簡単に涙をこぼすのはいただけない。そん

なことでは、ほんとにギリギリの白熱したゲームを勝ちぬくことはできまい、と心配になるのだ。

生命力の燃焼は何においても同質であるところで、ベルリン・オリンピックへ行つた日本代表団三百名余りのうち、早稲田の学生とOBが約三分の一を占めていた。いまの早稲田のスポーツをあの全盛時代にもどしたい、というのは実現不能の夢だろう。しかし、早稲田のスポーツはつねに最高峰を目指してほしい、という私の気持は変わらない。

さきに、横綱のいない相撲は榮えない、と書いたが、日曜日の公園での草野球、クラス対抗のサッカー・マッチ、素人の夕掠みの縁台将碁などばかりでは、スポーツ・娯楽も、一流のもののみがもつ緊張感がないから、すたれてしまうだろう。

このごろ早稲田でスポーツをのんびり楽しむ型の同好会がふえてる。それはそれと

して存在の意義があり、けつこうである。だ
が一方に、最高レベルを維持し、推進してい
くスポーツマンの存在は欠くべからざるも
のだ。山が高くそびえていて、始めてすそ野
の広い人口がスポーツを楽しむという状況
も充実し、永続するのだと思う。

いちばん強くなるうとすること、王座を目
ざし、守ること、これはつねに苦しいことで
ある。だが、苦しさに耐えて、一歩一歩この
路を踏みしていく過程そのものが、同時に
喜びであり、楽しみである。これは、スポー
ツに限つたことではない。学問、芸術の世界
でも、政界や実業界の活動でも、最高を目指
す限り、同質のものがあるはずだ。

私は、十年ほど前までは、サッカーの夢を
よく見た。だいじなゲームで自分の出したパ
スを眼で追いながら、「もう少し深く敵のう
しろへ落せばよかつたな！」と思をのんだり、
ひどく真剣な夢である。あけ方、ウトウトし

ているころ、私は、ときに学問の夢を見る。
書きかけている論文のことで、「あの論点は
こうまとめればスッキリするんだ。」と考え
たりする。サッカーの夢も、学問の夢も、張
りつめた気持は同じだ。

起きているときの話をすれば、音楽会で巨
匠といわれる人物の完ぺきな演奏の圧力が
全身にしみこんでくると、私はそれに陶酔し
てばかりはいられない。同時に、「おれの学
問にも、こういう完全な統一性と迫力がほし
い。」という想念がわきあがつてくる。芸術
と学問の創造過程に同質性があるからだろ
う。

生きた肉体という同一の『楽器』が、スポ
ーツ、学問、芸術、その他さまざまな人間活
動の分野に応じて、異なる曲目を奏でる。
どの場合にも、一流のものの迫力、美しさ、
それから与えられる感動は、同じ源泉から流
れるものなのだ。

早稲田スポーツの理想像

ないだろう。

スポーツでトップ・レベルを目指すということになれば、学生の場合には、勉学とどう両立させるかという問題にぶつかる。戦前のわれわれの時代には、海外遠征も少なく、アマチュア・スポーツのプロ化の傾向も問題になるほどではなかつたので、スポーツと勉強とを両立させることは、一般的にいって、いまより容易だつたとは思う。

しかし、現在でも、大学リーグで活躍して

いる一流選手という程度なら、スポーツと勉強を両立させることは必ずできるはずだ。いまのサッカー部の選手たちの練習ぶり、練習量をみても、勉強するエネルギーが残らないなどというものではない。もし勉強できないとしたら、それは、運動部に入つているからではなく、勉強しないからだ。そういう人は、運動部をやめても、かわりにマージャンに深入りするとかなんかで、どのみち、勉強はし

れないだろう。

私は、運動部の学生諸君に、全優ないしそれに近い成績をぜひ取れといおうとはもちろん思わない。取つてはいけないともいわないうが、優の数と人間の価値との間の相関係数は必ずしも高くない。スポーツを一生けん命やりながらでも、みつともなくない程度の人みなみの成績は取れるだろう、というのだ。それが不可能なほど、深遠にして難解なことを、早稲田大学では教えていない。

全日本級のプレイヤーになると、外国遠征の機会が多く、それだけ授業の欠席があえ、勉強がしにくくなる。ほんとだろうか？ 日本を留守にしているあいだ、授業に出られないとことは事実だが、それで勉強できないなどということはない。外国旅行そのものが大きな勉強だ。普通の学生生活とちがつて、そういう機会に恵まれたことを感謝すべきだ

訪れる国にかんする良い本やパンフレットの二、三冊くらいは手に入れるがいい。（各国の在日大使館は、その国についての日本語の説明書を必ず用意している。）それ

と、その国の言葉を、せめて「旅行着用会話」の簡単な本でもみて、いくらか身につけ、英語の会話も勉強しておく。遠征前の合宿でも、旅行中でも、こういうものを読む時間は必ずある。羽田空港を飛び立つて、シート・ベルトを外したとき、ボストンパックから私が示唆した種類の本を取りだすか、ポルノがかつた週刊誌を読みふけるか？ それが、外国遠征を生きた勉強の機会にするかしないか、のわかれ目である。

もう一つ、——いまの日本のスポーツマンは「根性がない」——よくいわれる。そのことに触れておきたい。ほかの分野で断定的な判断を下す資格はないから、サッカーだけについていう。

「昔は良かった」という老人のグチでなく、客観的に、いまのプレーヤーは、昔よりずっとうまくなつたが、強さにおいて欠けるところがある。

昨年の夏、私は南米ウルグアイでおこなわれた世界大学サッカー選手権大会の日本代表チームに役員として同行した。日本は予選リーグ（四チーム）では全勝優勝したが、決勝トーナメント（八チーム）では、第一回戦で敗けた。結果をとやかくいうのではない。技術的にせいぜい対等程度の相手に、前半開始後、四、五分で一点取られたら、萎縮しあせり、良いところなく、二対〇と引き離された、その負け方が気に入らなかつた。

第一回戦の他のゲームは、オランダ対スペイン、韓国対セネガルが、どちらもシーソー・ゲームで延長戦にもつれこみ、それでも決着がつかず、PK合戦になつた。パラグアイ対ウルグアイは、一対〇でパラグアイが勝

つたが、ウルグアイが時間ギリギリまで攻めたて、実に力のこもったゲームだった。つまり、ハチームのうち、気の抜けたゲームをしたのは日本だけだったのである。決勝トーナメント参加ハチームのうち、日本の選手は、他の国々の同年代の青年にくらべて、「根性」でいちばん劣っていたのだ。

この実例は、「われわれの昔の良さ時代」との身びいきな比較とちがつて、かなり客観的なものといえるのではなかろうか。（もちろん、私は、この一例だけで、「日本選手は根性が足りない。」と断定しようというのではない。ほかに多くの例を知つていて、そのことを痛感しているのだ。そのなかから、紙面の制約上、いちばん典型的なケースを一つだけ紹介したのである。）

いま日本のプレイヤーは、ファイトと強さの面で、どうも物足りない。これはどこから来るのか？ 昔どちがつて、いまの青年は

しあわせに苦労なく大きくなつたから。小学校から体育が興味本位、競技本位で、苦しい基礎訓練が足りないから。受験戦争の過熱、乱塾時代というような教育制度のゆがみのなかでは、少なくとも高校時代までは、スポーツに熱中しにくいから。戦後の「民主教育」が青少年を甘やかしてしまつたから。などなどの根本的、背景的な原因から、各種のスポーツそれぞれの特殊原因など、かぞえあげればきりはない。

それらは、いずれも改善すべきことである。だが、スポーツの第一線に立つていてる者は、自身の立場からは、そういう間接直接の諸原因があるから強さが身につかない、などと他人事のようなことをいってみても、何の足しにもならない。ファイトと強さの不足を自覚したら、それを克服する努力を始めるのが、真のスポーツマンの途である。私は、輝かしい伝統をもつ早稲田のスポーツマン諸君が

この途の先頭を進んでくれると信じたい。

旗は高く揚げよう。スポーツで最高、最強を目ざし、勉学でも最高レベルを目指し、実社会に出たら、スポーツできたえた肉体と精神で、自分の活動分野でまた最高を目指す。これを早稲田のスポーツマンの理想像としていたい。それは、数学の極限値のように、到達することのない目標ではある。生身の人間は、得手不得手のある、欠点も、悩みも多い存在だ。私も、学生諸君を見守り、育てる立場からは、一つのスポーツに秀でていれば、それだけで大したものだ、社会に出てからもなにかやるだろう、と好意的な期待をつねにかけている。しかし、大学生であるスポーツマン自身は、自分を甘やかすことなく、現実の自分と、この理想像との距離を、どれだけ詰めることができるか、がんばってみる、という基本的な姿勢を保持すべきであろう。



作品 関根常雄

蘭子の心情

ランコ岩本

(米国ジャーナリスト)

コッチ元NY市長の逝去

エドワード・アービング・コッチ元ニューヨーク市長がこの2月1日に88歳で亡くなつた。彼の逝去に関する追悼談やニュース記事で、最も言及されたのは彼の「NEW YORKness」だった。

「-ness」は形容詞に付けて性質や状態を表す名詞語尾と岩波の英和辞典にある。

だから日本語では「らしさ」となり、コッチ氏は「ニューヨークらしい」市長だつたとなる。彼は1978年にNY市長となり、1989年迄の12年間（3期）、「統治不可能」と看做されていたニューヨークを

治め、現在世界の人々が憧れの気分で望遠する今日のニューヨークの基盤をつくった市長として知られる

コッチが市長となつた時のニューヨーク

七〇年代のNYが如何に絶望的だつたかを、現在40歳以下のNY住人は知らないし、想像することも出来ないだろう。

ベトナム戦争反対、公民権運動、ビッグ政府・ビジネス反対のデモが日々な繰り出され、警官とデモの衝突も頻繁だつた。一方エイズが蔓延し、アメリカは大不況真っ最中で、憲兵逃れで（当時は draft 徴兵制度だつた）カナダへ、生活の糧を別途に求めて外国へ、とNYを去る若者が増加中だつた。

ボストン大学院を無事卒業し、私が米大手

広報会社（R&F）に勤務となつてNYに来たのは1963年だつた。心理的に「アメリカン・ビジネス」体験を目的とした勤務で、「2年だけ勤務しよう」と考えていた私は最初からマンハッタンのど真ん中に居を構えた。当時マンハッタンに居住する日本人は、多分片手の指で数えられたと思う。駐在員たちの殆どはニュージャージ州などの近郊に住んでいたし、海外渡航が自由化されたのは1964年だつたから、フリーの日本人個人は（留学生など以外には）まず見当たらなかつた。

私の記憶に鮮明な、当時の荒廃したNYの世相の例は枚挙にいとまがないから、それらは別のブログで取り上げることとして、ここでは2件だけ挙げてみよう。

◇ 麻薬やポルノの巣だつたタイムズ・スクエアは犯罪が多発する危険地帯だつた。

或る夜その辺を歩いていたらしい日本の大使が、娼婦に飛びつかれて横丁に引きずり込まれ、身ぐるみ奪われるという事件があつた。

当時米メディアに日本関係の記事が出るのは希だつたが、「大使」という肩書きからNYタイムズあたりが取り上げたと記憶する。その記事に「なんでまた、小柄な日本男性がそんな危険地帯を…」と呆れ、次ぎにアマゾン（巨大体格）の娼婦に腕力で横丁に引きずり込まれた彼の驚愕ぶりが彷彿して噴出してしまつたのは私だけではなかつたのでは。

◇ 太陽が燐燐と輝く星日中、五番街を歩いていた私は、後ろから走つて來た男性に突き飛ばされた。むつとして、今度この様な無礼行為にぶつかつたら抗議しよう、と思つた途端にまた、突き飛ばされたのである。どの様に抗議するかなど考へる暇もな

かつた私は、とりあえず希にみる怖い顔をしたのは間違いない。

睨んだ相手は警官で、既に後姿となつていて、彼が手にしたピストルの銃口を空に向けていたことから、最初の暴走中の男はスリか強盗で、警官は必死で追跡中、と気が付いた次第。

私のところで取つ組み合いとなつて、ピストルの誤発などになつていなかつたのは幸いだつた。

コッチはニューヨークそのものだつた・・・

2月4日の盛大な葬式で、ブルームバーグNY市長とビル・クリントン元大統領がした追悼のスピーチが、饒舌にニューヨークnessを捉えている。

◇ 「NYはタフで、ラウド(loud=声高で

うるさい)で、厚かましい(brash=性急で軽率)、失敬(irreverent=非礼、ざうざうしい)で、ユーモアがふんだんで、ずうずうしい(chutzpah=厚かましい)・・・そしてコッチはこの全てを内臓し、それを、人の思惑などに懸念せず、自在に駆使してNYを救つたNYネスの権化だつた(ブルームバーグ)。

◇ 大統領時代に彼から貰つた禁煙へのアドバイスの手紙、「若者たちに癌や呼吸器の病気になるよ、とアドバイスしても無駄だ。Go after the virility (男性の生育力(落ちるよ)でいけ)」を披露(ビル・クリントン)。(2013年02月)

「天職」とは？

自然界から多く教えられ、学び、納得してきた私なので、生きとし生けるもの全てに天職あり、と思えてならない。「生きとし生けるもの」には、草木、花、魚などは勿論、ペツトや他の動物も含まれるし、人間も、その延長からなる国家も含まれてくる……と、私の頭の中ではなつていて。

授かつたままに、あるがままに、生きること靈長類の長と自負する私達は、天職のままに生きている「花」にも上下をつけてきた。例えれば、薔薇はたんぽぼより地位が高く、故に高価となる。でも、たんぽぼやチューリップ、すずらん 자체には「階級意識」は無いだろう。だから、たまたま隣合せとなつても、卑下も奢りもなく、本来の姿を全うして「美しい」のだと思う。人間も、花に例えるなら、薔薇

系、チューリップ系、たんぽぼ系云々となるだろう。古今を通じて私たちは、「Who am I?」と問い合わせてきた。社会通常の「肩書き」でひとまず落ち着いても、本人自身が納得しないケースが多く、無意識に眞の自己探しを続けていることが以外と多いようだ。

自己探しは、あまり執念深く探求するより、可能な限り自身の内部の「声」に耳を傾けながら日々の諸事に応対して生きている中に、自然に判明するように思われる。自身で気付くことともあれば、人との会話で気付かされることもある。私の場合は、大学生だった姪との会話が自己発見のきつかけとなつた。

姪の穿った質問

1956年に留学し、数年後アメリカで社会人となつた私は、日米貿易摩擦や文化摩擦の仕事に忙殺される日々で、自分のことを考える暇などなかつた。年末に1ヶ月帰国しても

最大関心事は「変わり行く日本」で、その観察、記録に没頭していた。

自己探しに熱中していたに違いない姪は、凄く私の「生き方」に関心を抱き、私にねばり付いて色々質問するのが常だった。或る年、通常の肩書きで答えない私にフルストレートした彼女は、マルティブル選択形式で質問したのである。「叔母様は、自分のことを、

『芸術家と思われますか、それともビジネスマンですか、それともお坊さん』ですか?」「お坊さん」に噴出した私だが、なるほどなあ、と感銘した。自分が常に「生と死」を課題としてきたことを気付かされたからだつた。私が絵を描くようになつたきっかけは、米生活に疲れ「自然界に憩い」を求めて、だつた。JFKが暗殺された日に、徹夜で月光の夜の絵を描いたのは「生と死」にとり憑かれていたからだろう。「ビジネスマン」は

1978年に独立し起業して会社経営者と

なつていたからだ。

姪の質問で何かが私の中ではつきりし、次ぎの様に答えた。「私は、『感じ、それを咀嚼し、記録し、伝える』人間」と。つまり、全て「過程」で生きる、世の中の動向も「過程」で思考する人間、となろう。

留学生時代「カルチュア・ショック」で悩み鍛えられ、社会人となつてからは「日米文化摩擦」諸事に関与して、私の中で「世界の中の日本」はどうあるべきか、が年々とに少しづつ具体化していく。ペアテ・シロタ・ゴードンの死で、「日本の天職」がはつきり、私の中で具体化したのでそれを書きたく思つている。

昭経俳壇

選者 佐々木 誠 吾

三郎

納骨のあとに昼餉や青田風

さべづりのいつまでつづくひばりかな

悟風

○水芭蕉贊美歌歌ひつ尾瀬をゆく

かりそめに置いて久しき水中花

湯本までよたよた歩き山笑ふ

落し文知らずに過ぎる郵便夫

菖蒲湯に孫と二人のふざけあひ

あるさとの母校の丘の落とし文

○宮神輿担げぬ年の三社祭

マルクスの貧しき頃の書を曝す

兄おしり老人ホームの青田風

森林浴秘密へつづくけもの道

エジプトの大砂嵐夏の月

ユダヤ町五月の雨の石畳

コーランの調べに夏の赤き月

ボヘミアや地の果てまでも花菜の黄

灯を消して見上ぐる星に大花火

ジプシーの調べ自在や麦の秋

山小屋の灯を消すあとの大軒かな

朧夜のブダとペストをつなぐ橋

宿題に手を貸す父の夏終わる

スロバキア国境超ゆる虹の橋

剣太郎

プラハ城流さむばかり大出水

瑠璃蜥蜴鍊金術師棲みし町

マジャールの国より帰り豆の飯

大夕焼百の塔より百の鐘

富貴男

麦秋や中世この地にフス火刑

草笛や夭折の娘の影を追ひ

葉ざくらや極楽淨土の団子食ふ

一連の追憶去りし夏薊

茄子畑遠くに見ゆる東大寺

○水魂のグラスにゆるる遠花火

髪結ひや稻穂代りに栗の花

百合の香や昨夜^{よんべ}うなされ眠られず

○岩風呂にどっぷりつかり河鹿かな

カンナ燃ゆ益子の水がめ乾きをり

糸蜻蛉遊女の憂ひを帶びて跳び

○新緑や牛の瞳が澄む競の市

春の雷鏡の顔の不惑なり

どんぐり

○荒浪や花の縁どる佐渡みさき

意地すててのびやかに着る浴衣かな

三平の峠はるかに霞む尾瀬

緋ほたんや完全燃焼なにもなし

雨音に沸き立つ村の新樹かな

千鶴子

◎ 柿の花 武蔵野深く人目避け

○ 一本釣り高知岬にかつを来る

山開き 曙光の赤き燧岳

山人

尾瀬沼の夏の訪れ山賛歌

うり泥棒取りおさえたり月あかり

樽船をこぐ海女ひとり鮑取り

心太明治大正昭和迄

長谷川

花ざくろ園児手に手をつなぎゆき

海女潜む磯に打ちよす泡の波

花ざくろ隣の花は見栄えして

うららかやほとけ清めて百ヶ日

新樹林名もなき鳥の遊園地

○ 梅雨の間の空にひよっこり月の影

睡蓮の花をしとねに小鳥かな

落日の影を帶びたりお花畠

後記隨想

トップセールスマンの安倍さんの経済外交
原発の売り込みだけは、見ても?

もさもさもたもたしている民間人に代わって、
我が国の首相の安倍さんが近隣諸国に自ら出張し
て、トップ・セールスマンの経済外交を展開して
いることは誠に心強いよいものがあつて敬服して
おりますが、逆に民間企業のトップ経営者は何を
愚図愚図しているんだと、その怠慢さを叱咤激励
したいくらいであります。しかしながら何でもか
んでも売りまくったからいいというものでもあり
ません。相手を見て品物を売つていくことが必要
です。自分の国で事故を起こした原発を、何基も
売り込んでいく実力は大したものですが、聊かや
り過ぎの感無きにしも非ずです。経団連の米倉さ
んも一生懸命でありますが、時々何を言つている

のかわからない時があります。右に行くのか左に
行くのか意味あいまいなところがあつて、だれか
通訳を置いてもらわないと若い人にはわからない
のではないか。どうりとして何事にも
動じない風格は頼もしい限りですが、日本の大企
業の連合を背負つていく姿にしては、あまりにも
風格がありすぎて、短小軽薄をモットーとする
i フォーランのスピード、画像時代に追いついて
いかなくなつてしまつところに一抹の懸念を感じ
てしまいます。老人を酷使するのではなく、いた
わる風潮が経団連にあつてしかるべきであります。
一種の社交場、ある種の名誉職かもしませんが、
なることによって頂上を極めた自己満足であつて
はなりません。年功序列式職場に執着していくは、
グローバル化についていけなくなつて若者の出る
幕を閉ざしてしまつても困ります。安倍さんのフ
ットワークの軽さに比べてみると、老骨に鞭をう
ちながら痛々しさが募つてきます。米倉さんは立
派な人格者だけに、あまり無理をしないほうがい

いかと案じています。思い切って若者を登場させることもあるつていいでしよう。しかしそれではなかなかいうことを聞かぬ連中もいるから、大変なことであることを考えると、現状で行くことが賢いかもしません。ただ色々な国際社会の活動の中にあって、各国の若い代表団の活動に伍していく場合に、連合部隊の看板となる人の明らかな老齢化は心配です。

思うに、安倍さんの起死回生に似た復活劇は人知の及ばざるところがあつて、颯爽としたデビューノ後、半年が経過しました。矢継ぎ早に打ち出される景気回復策と、見事な国会運営は抜群の極みで誰も異論をはさむ余地がなく、むしろ官民一体となつてこれを後押ししているところは、未だかつてなかつた政治舞台ではないでしようか。小柄で細身の体で、難局に体当たりの戦法で国民を良い方向に鼓舞してきています。連発する積極的な政策には、理屈と信念が合致して、とにかく暗く沈滞していた日本の経済のトンネルを抜け出し

ただけで、その功績は十分であります。この勢いをどこまで持続していくか、そして堅実な景気回復の路線に至らしめるか、それは今後の経済人の務めであり責務であります。短期間のうちにようこそここまで国民と国民経済を引きずつてこられたもんだと感服しています。それを反映する株式市況も生き返ったように連日の活況ですが、論客もマスコミもどやかく言うすべはないでしよう。何かあれば足元をすくつけてけなす風潮がありますが、たとえば株式の上下の乱高下は当然の現象です。動き出した経済にはいささかも不安はなく、目先の思惑筋を振り落している動きであつて、国民は目先の動きに振り回される必要はありません。内外の視点もそうですが、安倍さんにねたみ、そねみ、やつかみの気持ちを抱く人々はしばらく口を閉ざしておいてもらいたいと思います。決して言論を封じたりすることがいいというわけではありません。今のところ好調な出だしで推移してきているアベノミクスであれば、むしろこれを

応援しなければなりません。アベノミクスを揶揄し、批判し始めたらいくらでも上げることができます。良きいけばたたかれ、悪く言つたらなお叩かれして、鍛え上げられていくのが世の常と思えば腹も座り怖いものはありません。政権担当者は常に奢らず、仕事には信念を貫いて実行していくねばなりません。次に待つ政策は成長戦略です。それを大胆に実行してその効果を見極めていくことでしよう。異次元の金融緩和でじやぶじやぶと市場に金をつぎ込みようやく株式市況も活気を呈し、購買力につながってきました。此の初動段階をいかに解釈して行くかで、余りこだわらず前に足を進めていかなければなりません。全てがうまくいくものでもないし、副作用を見極めて治療しながら、おおらかに先づ行動することが大切です。政策の実行は迅速を旨とし、それを裏打ちするよう株式相場と一緒に、出過ぎた後には必ず調整場面が来ます。これをどう解釈するかは人それぞれに思いがありますが、常に冷静に対処し熟慮し

て反省の後に行動を起こすことが重要であります。相場は相場に聞けとはよく言われることですが、昨今の株式相場のちょっとした急落は、素直に次のステップに臨む調整場面ととらえるべきでしょう。つまりアベノミクスで始まつた今回の急激な相場の上昇は、一息入れる過程にあつたもので決してこれが暴落する前兆ではないということでしょう。昨日、今日の世の中の変化で、自民党政権に大逆転して生まれた安倍政策が打ち出した経済財政策が変わるものではありません。スタートを切つてからの、まだまだ助走段階で、これから長きにわたつて政策が実効的に行われていく過程で評価されていくものだからです。

懸命に働いている安倍さんを見て文句をつける人はいないでしょう。之とは全く逆の話になりますが、日本維新の会の人気の凋落を目にして慌てだし、人目を引くために言つた共同代表の一言で、世間の、否、世界の輿論をかつて政治生命を危うくした馬鹿者がいましたが、国民の目は冷静です。

此の男に、かつては引き回されたこともありましたが、口から出まかせの船中八策は飛んだ結果になつてしましました。日本を変えるといつて維新と云う名をむやみやたらに使つていた小僧が、いまさら戦時中の日本軍の従軍慰安婦問題を持ち出して、あらたに奇妙な売春事件を日本に起こして、わが国の品格を貶めようとした輩であります。その上、こともあろうに血氣盛んな在日米軍の軍隊の若者に、風俗業を活用するよう進言したという馬鹿者であります。品格を云々する以前に気の狂つた政治家としか言いようがありません。これが日本国内の市長をし、政党の共同代表の一人に座つているというのですから、あいた口がふさがりません。人材不足を如実に表したものでしよう。

世間の、世界の笑いものになっています。こんな輩が日本を背負つていくなどと、同調してブル下がつてきた子分たちはすべからく議員を辞任すべきであります。国民を馬鹿にして、舌先三寸でますにも程があります。昔、真鍋儀十という売春

汚職事件を起こして逮捕された不潔な議員がいました。この人物も馬鹿丸出しでしたが、こうして仮面をかぶつた輩が政治家の手中には沢山います。品性に欠くけて困つたものです。言論の自由をはき違えた公的発言にしては、むしろ軽犯罪法違反にもなる、若しくは国民をないがしろにした侮辱罪で現行犯逮捕なんていうことだつてあるかもしません。誤解しないでください。私は決して右がかつたものでもなく、ましてや官憲主義の支持者ではありません。その逆であります。人権擁護のれつきとした自由主義者であり平和主義者であります。過激な発言をしてはばからぬ天才演出家に登場してもらつて、せめてもの抵抗的発言を願つているところです。ビートたけしさんではあります。過激な発言をしてはばからぬ天才演出家には、なんだと、この馬鹿野郎、いいかげんにせい」と叱りたくなります。

こんなくだりを昭和経済の賢人が、狂言を吐いて書いております。その時は従軍慰安婦の問題ではなく、何か虫がさしたのでしょうか、いやもつ

と以前から、大阪維新の会などと云い抜かして、あたかも憂国の士と云わんばかりに大言壯語して出てきたこの人物の本性に、どうもインチキ臭い疑いを持つていたので勇氣を出して批判したわけですが、いまこんにち、化けの皮がはがされて醜態をさらけ出していますが、事の顛末はさもありなんであります。この人物については今まで一言も触れできませんでした。世間では革新的に世の中を変えていく大人物ともてはやされ喧伝されていたころがありました。が、ちんちくりんの廊下トンビな感じで見ていましたが、舌先三寸でもうけ主義のいかさま道化師に見立てていました。それよりもこんなところつきが善良な市民をだますどころか、どさくさに紛れて国政にまで口を出す始末は放つておけません。人目を引くために、また何を言い出すかわからぬ曲者であります。晩節をけがして石原までがすり寄り抱きついたりしてしまったが、恐らく周囲の注意を無視して唯我独尊的に足を踏み外したのでしょうか。政治家が失言して、

指摘批判されたのち、それを取り消したから済むというものではありません。裏を返せば、それほど政治家の発言は重みがあるということです。

クリスチヤンであり温厚な妻をまえにして、今世間で盛んに物議を醸しているこの件で、私は話題に出すにもはばからっています。こんな下劣な感覚の話題は、このところしばらく見聞しませんでした。うちのマリアの話ですと、このところ私が夜中によく寝言を言つて、怒ったような声を出したりしているそうですが、これに関連した夢を見て、腹に据えかねた結果なのしよう。もつと違つた話題なりテーマなりで、論陣を張つて貰えんもんかということでしょう。それ以外に考えられないからです。もつともどんな夢を具体的に見ていたかは幕を張つた雲のような映像でさっぱりわからずですが、フローベルの精神分析学入門を読んでみてからでないと夢の現象を見極めることは難しいかも知れません。現代医学でも分かりかねる案件で、緻密に分析する要があるかもしれません。

その時は大学にかえつてもう一度勉強してみようと思つています。ここ半年の間に、日本は目が覚めるように明るくなつてきました。先ずもつて経済を良くしたうえで何事も決まつていくのが世の常であります。マルクスがいみじく申していますが、経済社会において生産的諸関係と状況、つまり下部構造が、人間社会の政治的、文化的、文学、芸術的分野、即ち上部構造を決定するという原則を追認して、どんな社会にあつても人間の幸福を求めていく試行が大切であります。跳ね上がり分子はいつの時代でもどこにでも改革と称して姿を見せてきます。しかしこれを冷静に見抜いて人々を守つていく努力が国民の側にも必要でしよう。

勉強のために、学舎の大学に帰つて行つて、そこにマルクスがいたら、日本に出てきたお化けの何とか市長の案件を聞いてみようと思います。愚かな民衆よど名指しして、嫌悪感を以て吐き捨てることでしよう。ケインズが出席していたら安倍

さんの経済政策の根幹をなすアベノミクスについて同じ机に向かつて高邁な理論の展開を繰り広げて、熱弁を振るつてみたいとおもつてします。そして今こそ日本にとつて大事な安倍さんが、関西の市長のような軽率過激に走らないこと、高ぶらず慎重に、謙虚になつて右傾化に傾斜せず、穏健な思想で、しかも現実的に対処してほしいと哲学者のソクラテスが言つております。付け加えるに、日本は歴史と伝統を重んじ理性的国家になつて、良識と品格に於いて世界の模範となつていると申しております。

五月二十七日記

梅雨入り

さつきの空と燃え立つ若葉の輝きを心ゆくまで楽しんできましたが、気象庁の発表によると、今年は全国的に例年に比べて十日間ほど早く梅雨入りとなつたそうです。関東地方はここ一週間ほど

ははつきりしないお天気が続いていました。昨日は終日しとしと霧のような雨が降りしきつていましたが、今日は打って変わってすがすがしい快晴のお天気になりました。最近は異常気象というわけではありませんが、気象予報もままならない状況のようです。空模様を眺めていても、雨の少ない梅雨になりそうな気がしてきました。田舎からの方の便りによると、数日前にようやく田植えが終わって、身体休みをしているところだと伝えてきました。一町五反、四千五百坪の田圃を以て稻作をしている農家ですが、この地方では中くらいの規模になります。一家総出で親戚の手を借りたりして、決まった日にちに田植えをしてしまわないで、その後の生育に大きな影響を及ぼすともいわれていて、たかが稻、されど稻で微妙に手を下さないといけません。子供の頃を思い出しますが、当時は全て人力、馬力などの手を借りたもので、水呑み百姓は、貧乏の象徴みたいなものでした。今、農耕は全て機械化され、省力化され

て今の労働力は昔の十分の一とも言われています。中には農業経営の形をとり近代企業として法人化されてきています。

私も付き合いでの友人が立ち上げた農業企業に出資の一役を担っております。収穫時には配当の一部として袋詰めの新米が届けられます。これも昔は米俵が使われて、匂いを嗅ぎながら田舎の情緒が楽しめましたが、今は味気なさが先行しています。それでもピカピカに光った新米のコメを見ながら、炊き立てのご飯を食べる楽しみは格別です。そんなことを言つてみると、あなたは農家出身ですかと云われたりしますが、農家の生活や、しきたりなどを良く知つていて、しばしば口にしたりするからでしょう。ごく小さな子供の頃、事情があつて百姓生活を経験して、むしろ農作業の辛酸をなめているからに違いありません。忘れずにとってもよく覚えているのです。又私自身は、農業の生活が大好きで憧れていますから、そのように言われたりするのも仕方がありません。

それを満たそうとして大人になつてから実際に土地を広く買い求めて夢を果たそうと思つたくらいです。

世帯を持った時に生まれ育つた浅草を出て目黒の鷹番の小さなアパートからようやく世田谷の等々力に移つてきました。何年かたつて新居を構えましたが、幸い広い庭を持つことができたので、中庭に育つていた鶏を三十羽、砧の農協から買つてきて放し飼いにして飼つていました。手助けしてくれたのが大工の大塚さんです。四畳半の部屋の天井の高さで鶏小屋を建築してくれて、それはそれは大変な生活環境に大変りしてしまいました。

二、三日ほど小屋に住みつかせた後は、一日中外に放し飼いの毎日で、鶏にとつてもこんな幸せなことはないでしよう。家の周りは一部を除いてほとんどが生垣で囲いがしてあるので、いつも内側で自由に遊んでいます。しかし手入れの届いた庭に生えてる草花や、青い草はほとんどが食べつくされて仕舞いました。近所の米屋さんから優良な配合飼料を週ごとに届けてもらいましたが、餌代がかさんでしまいましたが、鶏と遊んだりしている楽しみには代えられません。それが何と大きくなつてからは、毎日大きな卵を二十五個とか二十六個とか生み続けるので嬉しさも悲鳴に近いものになつてきました。近所の方々に分けて差し上げたりしましたが、浅草の実家にも届けたりして大層喜ばれたりしました。小屋には産氣用の大きな巣箱を三個揃えておきましたが、これだけでは足りず、夕方になると山のように積まれて産み落とされているのです。中には巣箱に入れない鶏が家の縁の下に産み落としたりしているうちに慣れてしまい、知らずにいると沢山の卵がごろごろ転がつているのです。一度に三羽のにわとりが卵を産むために押し合いへし合いして入つていることがありました。不思議と彼女たちは痛々しい喧嘩をすることもなく、みんなが仲良し姉妹です。姉妹と書きましたが、飼つていたのは全てめんどりだけです。おん鶏は時を告げて鳴いたりして近所

迷惑になつたり、そうでなくとも朝早く起^こされてしまふのでかないません。

それにしても当時の拙宅の住居環境は抜群でした。周辺には今と違つて大した住宅はなく、周りは植木畑や農地に囲まれて、緑濃い閑静なところでした。手にして住んだ家のたたずまいも田舎びで広く、加えて大きな平屋ときて趣きもよく、とても都会の住宅地とは思えない環境でした。そこで飼っていた鶏たちも家族同様に生活して、面白い沢山の仲間たちですが、鶏といえどもそれぞれに個性があつて、それぞれの癖が飼いなれてくると赤ん坊のように可愛くて仕方がなくなります。実際に楽しい毎日でした。留守にしたりすると、私たちの帰りを待つていてるので、暗くなるとすべて自分たちの小屋に入つて止まり木に並んで寝るのですが、出かけたりしていると五、六つ羽の姉妹たちが玄関近くの安全な止まり木を探して、私たちの帰りを待つていてるから可愛いではありませんか。思い出していると尽きない感じです。そん

なのどかな農村地帯の風景に親しんで、できればこれからもそうした冒險を試みてみたいと願望しています。目的は、三浦雄一郎さんと違いますが、いつでも、どこでも青春の気概を失わずに人生に挑戦してみたいのです。

近所で長いこと親戚以上にお付き合いしている三井さん夫婦は眞面目であり、勤勉誠実な人柄にひかれ学ぶところが多く、寡黙ながら情熱的なところがあつていつも惹かれています。「人に接するに春風を以てし」ということばがありますが、その言葉がぴったりとしてきます。朝早い時間に奥さんは明るい挨拶を掛けながらいつも拙宅に立ち寄ってくれます。菜園、庭畑の手伝いをしてくれて、おかげで畑はいつも青々としてすがすがしく、新鮮な野菜類を豊富に食べることができます。三井さん夫妻は今、家の建て替えに挑戦しています。私はその気概の若さに感服しているのです。四、五年前のこと、自宅の隣にたまたま土地建物の売り物が出ました。近くの地主が収益物件とし

て持つていたものですが、ひょっとすると放送作家の菊田一夫さんかもしません。亡くなつてから随分経ちますが、家作に長年入居していた人が引越しをしていき、しばらく空き家になつていたものです。建売業者が知らないうちにこれを取得してしまいましたが、それを是非譲つてほしいといふ二井さんの熱意に業者も根負けして、それなりに利益を載せて譲つてくれました。

三井さんは太陽を買うのだと、長年の願望が果たせて満悦でした。それにしても、広い田舎のこどならいざ知らず、世田谷の一等地で太陽を買うために大金を出して隣地を買うとは物凄い計画ではありますか。別に今の自宅でも太陽の陽が充分にあるのですが、二階はともかく一階になると前の家の影が落ちて、日光浴をすることができません。そこで隣地を手に入れることによつて、太陽を買うという壮大な考え方へ傾いたのです。これを綺麗に改装して賃貸に回すのかと思つてたら、サラリーマンの息子家族を呼び寄せて住ま

わしてくれたのです。息子家族は町屋のほうでアパート暮らしをしていたので、もちろん大喜びです。その代り息子には条件が付けられました。それは三井さん夫婦の家をちゃんと守つていくこと、先ずは用意したお墓を守つていくことでした。何と立派な話ではありませんか。それにしても用意周到なことで、すでにお墓を買つていざという時にも行き場所を用意しているのです。その話を聞いて最初は何と縁起の悪いことをしているのかと訝しく思いましたが、だんだんとそうでないことが分かつてきました。遅い早いはともかくとして、当主であるからには、いくら核家族の時代とはいえ、一つの責任かもしれません。なるほどと云つて感服した点でした。ご夫婦は二所帯住宅を造る計画です。そして息子家族の家は解体して広い空き地として庭を造り、さんさんと照る太陽を体いつぱいに浴びた生活をすることでした。そもそも隣の土地建物を買う時も、動機はその場所を更地にして日の当たりをよくしたいという願望からだ

つたのです。つまり大金を出してまで自然の光、恵み溢れる太陽の光をそのまま買うという、素朴で贅沢な発想からでした。経済的な問題もそうですが、なかなか思いつかないことです。ちなみに三井さんはご主人が山梨の農家出身の次男坊です。奥さんは福島県は猪苗代湖の湖畔の広い農家が生家です。そんなわけで農業には大変詳しく実践派で、私どもが家庭菜園を楽しんでいられるのも三井さんのよき指導があるからです。もちろん小さいころ、私もある時期に農家の生活を経験したことがあります。田園生活には憧れを持つていますが、こうして等々力で庭畑栽培を楽しむ生活が毎日で生きるのは、決して自分だけの力と技だけではかなわないことあります。すべては勉強が必要です。生活の進歩もそこから素朴に経験できるものなのでしょう。

今年は思いつて沢山撒いた肥料が効いていいのでしよう、一ヶ月ほど前にまいた種は、今収穫期に入つて、野菜不足の情報とは裏腹に、新菊、

小松菜、大根、ほうれん草、レタスなど拙宅ではみずみずしい菜つ葉をふんだんに食べることができます。とりわけ三井さんが苗で運んでくれたレタスは、今ではくるりと葉をまいて一丁前出来栄えで楽しんでいます。時折娘の明子が寄つたりすると、畑に出でては思う存分、青野菜を摘んで袋詰めにして持つて帰ります。紀伊国屋のお店でもきれいな高級野菜が並べてありますが、それはそれとして、我が家自家栽培は文字通り目前で自分が勝手気ままに作り上げた自慢のものです。現実には無農薬栽培で安心できて、新鮮な野菜を手に入れるることは難しいのです。加えて収穫の喜びを味わえて、こんな素的な生活体験はありません。自分一人で合点して喜んでいるので、もともと「手がかからず単純な人で扱いやすい」と妻は言っています。ほめられているのか、けなされているのかわかりませんが、もつとも若い時から褒めさえすれば調子に乗つてやるほうなので、おだてに乗り安い陽気なたちなのです。裏を返せ

ば間が抜けてだまされやすいということにもなりますが、どつこい、悪い人が近づいてこないのは、愉快な人間にできているからでしょう。だましたり騙されたりしながら生きていく人もいますが、それは時間の浪費です。なるべくでしたら直線的に、目標に向かって進んでいたほうが効率的です。万事が効率的に考える人も、考え方では味気なく感じてきます。無駄のない、紙を食べているようなふがいなさを感じ面白くありません。有益になる寄り道は、寄り道でありません。試行錯誤の結果と見れば、それは目標への一里塚であります。いつでも油の切れないような、柔軟性に富んだ生活様式といった考え方でいたいと思っています。それは有機体の衝突的活力のエネルギー源でありますし、人間でいえば心身の活動の源泉であります。

*

これはさすがに私の愚痴になります。今日六月三日、オフィスを出て帰路に着いた私は、地下鉄日比谷線で銀座から中目黒経由、自由が丘駅につきましたが、空がまだ明るかつたので大井線に乗り換えて二つ目の尾山台駅で降り立ちました。自宅までは4分ほどですが、何時もは家内に自由が丘駅まで車で迎えに来てもらっています。中目黒から学芸大駅の間で、携帯で家内に電話を入れると、自由が丘駅で待ち合わせに間に合って、待ち時間もなくそのままスマートに帰宅することになつています。途中家内と雑談する機会もあつて誠に円満な潤滑油の役を果たしています。帰宅後は風呂に入り食事をしてテレビのニュースに目を配り、その間残してきた仕事の三つを締めくくるべく、立て続けに電話をかけて連絡を取りながら用事を済ました。それからニュースステーションを見ているのを途中で切り上げて、二階に上がつていき、今こうして二階のパソコンに向かって即興の文字を打ち込んでいます。今日はなぜこん

なことを書くかと云いますと、実は、十時半あたりから横浜で開かれていたアフリカ開発会議が三日間の日程を経て今日閉幕したことに触れて書いていたところ、ちょっとした拍子で打ち込んでいた文章が全部、消えてしまったのです。

しまったと思って悔やんでも、後の祭りです。いくら探してみても画面には出ません。鉛筆で原稿に書いていれば、こんなこと、こんな後悔の念にはならないのですが、横着して直接パソコンに打ちこんで手抜きをしているから、こんな目に合うのだと自戒しています。頭に浮かんだことを流れるように打ち込んでいくと、記憶をたどりたり、モノを調べたりする時間がなくて済みます。出来上がった文章も引つかることなくスムース身書かれていてるような気がして、自分でもこれでいいのかなと自認することがあります。最近は万年筆や、鉛筆を以て原稿に書く小説家も少なくなつてしまつたようです。その代りパソコンに直接打ち込んでいつてしまつたり、中にはノートパソ

コンを携帯して思いついた時には即座に打ち込んでいる小説家や、物書きの人がいるようです。スピード時代に対応した合理性の發揮なのでしょうか。

私の今のように、パソコンに向かって一生懸命打ち込んでいた文章が操作ミスで消え、あつとういう間に消滅してしまうことは大変ショックであります。パソコンの操作を熟知して、あまり長く打ちつけずに途中で保留にしたり、上書き保存のクリックをしながらやっていけば、こうしたミスは犯さないで済むことになります。たまにこうした焦慮に出合うと夜の睡眠がはかばかしくなく、浅い眠りに終始して夜を過ごすことになつて、翌日の仕事に差障つてくるので、つらい気がします。アフリカ開発会議について、私なりに折角その意義と成果を書いていたのに、ちょっとしたミスで失念してしまいました。悔しさと後悔は大きく、悔やんでみても仕方がありません。濡れタオルを額にのせて頭を冷やしながら寝ることにし

ましよう。そうです、今夜は心身の状態を自らうまく整えて、昂ぶりを鎮静化してから寝ることにしましよう。今は深夜に差し掛かっているのでここで閉じることにいたします。二十三時五十二分記

六月三日

株式の乱高下

茂木経産大臣が株式の急落について言及を促されて、「我が機体は間もなく乱気流から抜け出す見込みです。今しばらくお待ちください」といふ趣旨の珍問等を強いられていました。急落が止まらずに慌てふためいている目先の投資家が、いたたまれず助けを求めるような感じです。「株は上げ下げするのが当たり前で、いちいちコメントすることはない」とは麻生財務大臣の返事だったと思います。「株の上げ下げについてはノーコメントです。アベノクスの政策は変

わっていません」は、安倍さんのコメントでした。朝日新聞は一万六〇〇〇円目前で一気に一、一四〇円ほど急落した日の翌日の朝刊の大見出しに、東証株式「暴落」として報道しました。私は暴落とした文字にためらいを感じていました。だからでしょうか、次からの報道には急落とあたかも訂正したかのような文字に感じて、記事を読みました。新聞記者のベテランの慌て振りが垣間見えました。確かにこの水準で一日、千円幅で上げ下げを繰り返すのはただならぬ市場の雰囲気でしょうが、そもそも昨年の十一月十六日からダウにして8000円近くも上昇してきた市場です。いくら期待が大きいとは言つても急激にあげてきた相場ですから、仮にまだ行くと仮定しても、だとしたら一呼吸入れたのちと見るのが妥当ではないでしょうか。うなぎのぼりに、天井知らずに上がつていくものではありません。登り基調にあるときは、あたかも天井知らずに上がつていくものと思い込んで、買いに出て見たり、売ることをためらつて

勝機を逃すといったことは、人間の心理として仕方がないことでしょう。所詮自分との戦いであります。売つて出てもダメ、買って出てもダメ、株で財を成した人はいないということわざすらあります。しかしこれが止めようにも止められないのは、人間に元来ある賭博性がその病原であることは周知の事柄です。又人間はできるだけ楽をして贅沢な暮らしをしたいという怠けぐせがあります。身体を動かさずしてもうかる仕事があれば、飛びつきたい気持ちであります。しかしどっこいそくは簡単に間屋が卸しません。「とかくこの世は住みにくい」とは夏目漱石が小説草枕の冒頭に嘆いて書いている通りです。

しかし株式でも、今まで書いてきたことを念頭に置くならば、決して悲観するものでもありません。じっくり儲かることもあります。焦らず、人の流言飛語に惑わされず、自分の責任において努力して投資に臨めば、着実に利益をはじいていくかもしれません。つまりあなた自身の見識と努

力の結果だということです。そして安くなつたら買う、高くなつたら売る。この鉄則を守ることにつきます。欲をかかず腹八分目が一番居心地のよい処方箋であります。これを自信を以てできますか。大方の人が辛抱強く向かっていくことができます。それと一番大事なことは、正業を持つて堅実に働き、勘定を別において投資をすることです。投資家になつて、売つたり買つたりして財を残すほど阿呆な結果はないでしよう。又人間として零落した自分の姿を頭に描いてみることでしよう。証券会社はお客様に株の売買を進めるのと同じように、決して自分で株式投資をしてはいけません。証券会社はあくまで、お客様から手数料収入を以て正業に励むことが鉄則です。証券会社は、あくまで鉄火場の胴元になつていなければなりません。してみれば証券投資とは口先三寸で生き馬の目を抜くしがない商売であります。実業と虚業の差ですね。資本主義の社会の裏表を地で行く象徴的姿であります。

安倍さんも、麻生さんも、茂木さんも、こうした相場の世界を大変腐心して弁護をしなければならないので、実に気の毒であります。まかり間違つて言葉を誤れば、人の損得の勘定につながるので、責任にまで発展して始末が悪く、命取りにもなりかねません。上手にあしらつたりしても、言葉の微妙な使い方で、時にはアベノミクスを達成することができません。痛し痒しは世の常ながら、株式の上昇によつて自民党安倍政権の人気があがつていることも真実です。これをおないがしろにしていては、経済の歯車が円滑に回らなくなつてしまします。今、株式市場には莫大な金が奔流しています。ものすごい量のお金が、物凄い勢いで市場に入つてきています。又逆に出ていく時もあります。その時は海の潮が引くように御しがたいものです。誰のお金か見境がつかないことが、また個人情報を逆手に取るわけではありませんが、しつかり守られていることがあります。

安倍さんが言つてゐることは、株式の上げ下げ

によらず、アベノミクスの推進で景気が徐々に良くなりつつあることは明らかであり、この方針は微動だにしていないと断言して、目先にとらわれないよう暗に注意を促してくれました。有象無象の愚民にとつては（「これは失礼」）、耳に痛い教えに違いありません。ジョージソロスとか、大手の仕手ファンドとか、国際的資金を使って相場を操っている輩なら別ですが、一獲千金を夢に、当てもない相場に身を沈め、わずかな資金を以て株の売買で飯を食つているなどということを眞面目な先祖様が聞いたら、身を震わして怒り嘆くに違ひありません。ご先祖様には、現代はピープルズ・キャピタリズムの、或いはまた株主資本主義の、しかもグローバルな世の中だと糪がつて云つたところで判るものであります。暇人が身を落して、日陰者と極評されるのが落ちでしよう。とかく暇な人は、古今東西、ろくな考え方起こさないのです。悪錢身につかずです。しかしこのところの株式上昇によつて民主党時代から、私たちは、そ

の暗いトンネルから抜け出しが出来ました。

安倍さんの打ち出した素早い政策が国民に受け入れられて、外国にも高く評価されて、それを反映して壮大に株式市場が活気を盛り返しし、活力がよみがえってきたことは紛れもない事実です。これを持続させて本来の目的に近く持っていくことが大切であり、今はようやくそのスタートを切ったばかりです。それを如実に示しているのがここ一か月に及ぶ株式の奔騰と急落を演じている株式市場であります。地下のマグマがせり出して地表にその動きと威力を示す日は、そう遠くはないでしょう。それが期待できないとすればアベノミクスの失速であって、それを以てアベノミクスを極評することは当たつていません。良くいけば何か

にとケチをつけたがるのが無用の外野陣（これは失礼）です。経済政策でお金を大きく動かすような世の中に変わっていく時に注意しなければならないことは、お金の、ましてや公金の使い道に悪に手を染めた関係に流れないこと、真に国民のた

めに公正な使い道を打ち立てていくことが肝要であります。同時に、問題となつてゐる財政再建についても、「出るを制して、入るを図る」ことが、国家財政の健全な運営の基本であります。

税金の使い道については常日ごろ喧しく云われてゐることです。何かにつけて、喉元過ぎれば、ではありませんが、今までの暗い経済の長いトンネルに入つたきりで、動きのとれなかつた苦渋の時を思い起こすことでしょう。期待を込めて動き出した株式市場です。目先にとらわれず、正に資本主義経済社会での、諸現象の正直な生き物として、活力として長期的展望を描いてとらえるべきでしょう。

六月四日

日本W杯出場決定

四日、埼玉スタジアムで行われた対豪州サッカーフットボール試合で、日本は後半戦で一対〇のまま先制点を

ゆるし、残り3分、本田がPKに持ち込み、会心のPK弾を正面に深く打ち込んで同点とし、待望のW杯出場を決めました。日本国民の胸を震わし感動させた本田の会心の一打でしたが、それは正々堂々と正面を狙つて爆発した一打であり、無心の神技かもたらした結果であります。

試合は日本の息の合つたパス交換から終始、豪州ゴールを脅かしていましたが得点には結びつかず、運の悪さが感じられて敗北は宿命かと思われていたくらいでした。妻も試合の一部始終を観戦し、盛んに声援を送っていましたが、私もつられて懸命に応援していました。妻がこんなに真剣にスポーツ試合を観戦しているのを見たのは、初めてでした。私もつられて懸命の応援していました。

それは本田選手による、同点PKゴールを決めた瞬であります。この得点の意義は大きく、気概は以て情熱的であります。この瞬間、日本が国内の試合でワールドカップ試合の切符を手にしたのは初めてになります。そしてドイツ大会、南アフリカ大会に続き世界で一番目の予選突破チームとなりました。若い青年諸君の活躍と、スタジアムで得点に結びつくことがありませんでした。声援とともにいらだちも次第に募ってきました。しかし度重なる選手たちの好プレーは次第に

受けんされていったのでしょうか、何かのきつかけで得点に結びつく氣配が漂つてきました。しかし試合終了を告げるホイッスルの、切羽詰まつてくる重圧に耐えられるものではありません。緊迫した時間は、選手はもとより応援する我々も剣が峰に立たされて次第に息苦しさを感じてきました。

に集まつた熱氣あふれるサポーターたちの応援を
を目の当たりにして、今回のサッカーワークを観戦し
て感じ、学んだことがあります。永続的努力
と研鑽を以て、いざという時の瞬発する力を平時
に蓄え、私の仕事も、この幸運の波に乗つて順風
満帆、より充実した成果を獲得していくことを目
指したいと思つています。スポーツから学び取る
ことは事は私だけでなく、多くの企業家や労働者
の人たちの生活と活動も、堅実、遠大な構想のも
と、希望と勝利の女神の手招きに、望ましくあつ
てほしいと願つています。

六月五日

会心の勝利を手にした日本チームの記者会見が
ありましたが、席上、本田選手が真剣な顔をして、
「チームを勝利に導く原動力で、一番大切な要因
は、選手自身の「個の表現であつて、それが重視
されなければならない」と力説していたところで
す。個人々々の技が發揮されなければ、チーム全
体として活躍して成果を上げることはできないか

ら、選手は如何にして自分の力を発揮していくか
に心していくべきだということを云つていました。
こうした席で立派な意見、信念を吐露できるのも、
自分に実力があるから言えることだと、我が山の
神が申しております。そうかもしません。

私も同じ意見で、幾度となくそうした趣旨を誌
上を通じて述べてきました。自分自身の足元
をしつかりと堅固ものとさせて人生に臨むべきだ
という考え方であります。そうすれば仮に、社会
に何が起きようと不安を持たずに済み、それがや
がて来るであろう次の飛躍に備えていることがで
きるからです。その自分の足元を固めておくとい
うこととは、決して個人主義に傾斜するということ
とは違います。社会や会社に全て頼り切った生活
をしていてはいけないということ、大きく言えば
時の政治や、具体的には、時の行政に頼つていく
ようなことがあつては、危機管理にミスを持ち、
さらには自分の進む人生に前向きに立ち向かつて
いく、想像力、創造力すらない、無味乾燥の人生

ではつまらんでしょうということです。その具体的処方一つを各位に提唱しております。知った方には、耳にタコのできたことかもしれません。しかし人聞いたるところ青山ありの、悠然とした気概を持つ楽しさは格別です。

「個」の価値観、これは大切な事柄で、いみじくも本田選手と一致する点を共有することができて本懐であります。聞く人、読む人によって多少のニュアンスの相違はあるかもしれません、基本的には同じ概念だと思つております。それよりも熱い思いを以て時を同じくしたことが、本田選手の漫刺とした若さも共有しえたと思つて満足しています。年齢に関係なく、実力を持つた人はしつかりした意見を吐くものだと、えらく感動しているところです。

六月六日

庭の雑草をむしっていても砂埃が立つほどに、土が乾ききっています。拙宅の庭では毎日夕方になると野菜の育つ畑に水をまいています。地方の農家では、田圃は水を張つたりすることができますけど、この乾燥しきつた毎日の連続で困っているのが野菜畑だそうです。野菜類を作っている農家は一様にまとまつた雨がほしいと、天を仰いで心中は雨乞いの心境だそうです。気象予報官が実際に梅雨入り宣言をしてから、雨らしいお天氣に出会つたことがありません。むしろ快晴のお天氣続きて、近藤マツチの唄ではあります、ぎんぎらぎんの毎日であります。乾燥時期は、街なかをゆく美人の肌に皺を作る原因にもなります。こんな状態がまだまだ続くとすれば、動物だけでなく、ホモサピエンスの鼻孔も乾ききつて臭覚も衰えてくるようです。昔のこと、近藤マツチはアクロバットのように踊りながら軽快に歌い上げた後は、さりげなく済ませたでしようが、日照り続きのぎんぎらぎんではたまりません。

カラ梅雨のこの頃

幸い台風3号が南太平洋上に北進中です。お影で梅雨前線が九州南部から関東南岸にかかり、お天気が崩れ始めて、梅雨らしい雨が午後から降り始めました。ほっと一息ついているところです。

日本列島の地が豊饒のゆえんは、四季を巡る季節の変化にあります。これが狂つてしまふと、日本の経済にまで及ぼすことになってしまいます。

微妙な季節の綾に私たち感謝して生きているのです。こんもりと茂った緑陰に降り注ぐ白い雨足のあとは、大地を潤す、まさに恵みの雨であります。新聞の天気予報図を見ると、この先一週間ほどは雨模様の天気が続くようですが、あまり長く続いたりしてくると、人間というものは勝手なもので。梅雨の鬱陶しさが鼻についてきます。まるで健康を阻害するような感じになってきて、梅雨が早く開けて、からりとした真夏の季節が暦通りにやってきてほしいと思うようになります。

ちょうど二日前の日曜日に、私は教会の日曜礼拝のあと都合をつけて早く帰宅しました。庭畑に

出であいている場所に春菊の種をまきました。春先にまいた春菊は今が食べごろで柔らかく、盛んに食していますが、夏の野菜としては虫が付きにくく、夏野菜の不足となる時期には大変に重宝なものです。いま蒔いた種はすぐに芽が出て生育が早く、春菊だけでも継続して食べていただけます。苗で植えたトマトは生育が止まってしまった二、三本を除いて順調に育つて青い実をたくさんつけてきました。きゅうりは余り大きくならないうちにもぎ取って、もろきゅうにして食べています。青く新鮮な香りがして口当たりもよく、味噌をつけて食べるのも初夏に味わう風物詩の一つであります。したたる梅雨に濡れながら、大地の滋養を充分に吸い取って育っていく、恵みの季節に感謝したいものです。六月十一日

安倍首相の奥さんの家庭内野党

二、三日前の小さな新聞記事に安倍さんの奥さんの昭恵さんが、NPO主催の講演会に出て、そこで発言した内容が載っていた。記事は小さかったが、素晴らしい内容のものだった。この賢婦人にしてこの旦那ありの感を強くしたのである。「私は家庭内野党だ」と、誠におおらかな文言を使って云つた上で「原発反対なので日本が原発輸出を推進する安倍内閣に非常に心を痛めている」と持論を述べていたことが、良識ある人々の心を揺さぶつたに違いない。原発再稼働をほのめかし、原発の輸出を推進して日本の経済力を高めようとする安倍さんだが、奥さんがこれに反対している。ヒューマニズムの精神からすると、奥さんに勝負あったである。それに逆らうように旦那さんが、訪日中のフランス大統領と原子力協定を結んだ記

事が新聞の一面を大きく飾っているが、時代認識のところで奥さんがはるかに勝っている。その差は歴然である。安倍さんは、成長戦略の柱に、原発輸出を位置付けている。原発に生きる国のフランス大統領だから、こんな協定を結ぶ結果になつたんだろうけど、ドイツのメルケル首相の訪日だったらこんなわけにはいかない。安倍さん夫妻はおしどり夫婦で見ていて頼もしいが、再び練り返し言うけど、この奥さんにして、この夫ありであることに間違いない。ほほえましい夫婦である。この国の経済を建てなおそうとして懸命になつている晋ちゃんを、私は一生懸命になつて支持しているけど、晋ちゃんより昭ちゃんのほうが好きである。

日本の戦後政治史に長期政権を記録した佐藤栄作は、その時、「私は栄ちゃんを呼ばれたい」といつたが、これは栄作さんの名セリフとして残っている。何を期待していくかはわからないが、そのまま素直に聞いたほうがしつくりとわかる気

がする。日本の原発事故の収束宣言を出した前の首相は自分勝手であり、阿呆であつた。この方は佳ちゃんなど呼ぶにふさわしくないし、又は呼ぶ気にもなれない。事故の収束は、この先何年かかるかわからない深刻な問題である。その認識が全くない、わからやずの、へなちょこ総理であつた。どう見てもその前の総理もそうであつたし、その前の前は特にひどかつた。お母さんに甘やかされでお育ちになつた人で、我々は世間知らずのえらい人を総理に奉つたものである。歴史的政権交代で期待したのに、日本に民主政治の基礎を築くことが出来なかつた。政治家に自覚がなかつたからである。というよりは政治的無能力者であつた。

その民主党は自己制御が出来なくなつて国民の期待を裏切り自壊したもの同様である。情けない話である。こうしたなかで、日本人は原発事故の洗礼を受けてしまつたが、日本はその十字架を背負つてこの先を生きて行かなければならぬ運命にある。無私、無欲の昭恵ちゃんがつたらこの深刻な

原発事故の問題収束に一番いい解決策を出してくれるに違いない。そしてとにもかくにも政権を担当して働いている、敬愛する晋ちゃんが毎日のお務を乗り越えて、この国の眞の発展のために働くてくださるよう、家庭内活動を通じてサポートを続けてくださるようお願ひします。昭ちゃんの家庭内野党は健全であり、高邁な理念に立っています。昭ちゃん、頑張つてください。 六月十二日

内外で頑張つている安倍さん

最近の国際情勢を眺めていると、日本の政治家で安倍さんの一人勝ちの活躍が際立つていて、他の政治家の影が薄れていて、しっかりと働いているのかと心配である。安倍さんの憂國の士は右傾化されない限り内外の称賛を浴び、国際的にも受け入れられること間違いないと思つてるので、あまり欲を出さずに、先祖のこととも考えずに己の良

しとする道を突き進んでもらいたい。ものごとは調子よくいっていると兎角過激になりがちだが、孔子の曰く、われ日に自らを三省す、と云う通り、常に自制心を以て政治に向かうべきことは、歴代の名宰相が述べているところである。絶好調に推移してきたアベノミクスだが、2週間前に襲つた株式の急落で、政策批判が満を持して湧き上がつてきた。あたかもアベノミクスが今にも崩れ落ちるかのような騒ぎである。株に一喜一憂された政策では心もとない。マスコミから散々な質問攻めにあつてはいるが、株の急落は安倍さんのせいではないし、矛先の向けるところが違つていて、矛先を自分自身に向けたほうがいい。そして目先にとらわれず、相場の行く先を自分自身で考えてしつかりと見据えて対したほうが勉強にもなるだろう。

麻生さんもさすがに首相経験者であるがゆえに、安倍政権で落ち着いた名演技を演出しているが、安倍さんの影の力となつて流石に人間的である。黒のコートに黒のハット、白いマフラーはダンデ

ィーであり、英國のチャーチルの往年の姿を髣髴させるくらいである。パイプをくわえれば云うことない。ヨーロッパで開かれているG8、先進国八ヶ国会議で安倍さんが打ち出した経済政策が世界的に注目と高い評価を寄せられていることが分かつて、麻生さんが堂々としたコメントを流しているが、さもありなんである。このところ日本という国は、その力、分けても経済的力をうわざされることが少なかつた、と云うよりも全く耳を貸す事柄に欠けて、やる子となすこと全てが華々しくなかつたのである。世界の噂にも上らない歳月が過ぎて行つたが、ここにきてアベノミクスの登場で、日本の真価が問われるようになつて、影響力を期待する国々が沢山出てきたのは素晴らしいことである。同時に責任の重大さに改めて心して、批判は大いに結構だが、国内で矢鱈に足を引つ張るような姑息な真似は現に慎みたいところである。アベノミクスの失敗が万が一にも出てきたら、事は国内のみに止まらないことが分か

つてきただけでも、我々にとつても大きな進歩であり向上である。世間では、「好事門を出でず、悪事千里を走る」とはよく言われるところである。兎角良いことは世間に伝わらず、悪いことはすぐに遠くまで伝わるものである。アベノミクスも同じで、ねたみ、嫉み、やつかみで、揚げ足を取つて騒ぐほうがむしろ多いとみて注意すべきである。こうしたことは国際的にもとがく厳しく問われるこことにもなりかねない。

先進国首脳会議が英国の北アイルランドで今開かれているが、押しなべて安倍さんが打ち出した金融政策は好意的に受け止められていて、むしろアメリカとともに、日本のこの金融大緩和政策と、財政再建と成長戦略が、停滞気味の世界経済に好影響をもたらすものとして注目を浴びていることは、喜ばしい限りである。日本が久々に撃つて出た快挙が、国際舞台でも喝采を浴びて支持されたことは、近來、否、二十数年見なかつたことである。自己宣伝も大いによし、日本の力量と、潜在

力を世界に示して、平和外交を以て将来に世界をリードしていく方向に模範を示してもらいたいものである。世界には国民、市民のことを無視した政治家が、自己保身のために手段を選ばず、狼藉を繰り返して、国と国民を血で染める惡役を演じて醜態、残虐の極みである。シリアのアサド然り、近時ではトルコの政情不安が懸念されている。丈夫だと思つていたブラジルでも賃上げでもが各地に拡大している。面白い現象は、サッカーで使い金がふんだにあるなら、貧困対策に回せと政府にかみついているところである。してみると奢るわけではないが、巷間言われるよう、日本は平和で自由で住みよい国である。何かにと課題は多く、不平不満も当然内在しているけど、一つ一つこれを改善して、自由と秩序と平和を堅持して、国内外に貢献する日本の姿に自信を以て称賛を送つてもいいのではないでしようか。

ところで安倍政権下で放たれた三つの矢の一つ、

財政再建だが、この問題、何も今に始まつたことではない。国の借金の累積は、ゆうに一千兆を超えている。年々増えるばかりである。プライマリーバランスの実現がいつも先送りされてきている。そして日本の財政状況は先進国中最悪である。厳しい状況にもかかわらず、政治と国民の間に危機感が一向に盛り上がらないわけには三つの理由が挙げられる。第一には日本の国債は全て国内貯蓄で賄われているのだから、ギリシャのようにはならないと考えている人が多いからである。そうはいっても海外の投資家が一定の日本国債を保有しているし、日本の投資家にしても損をしてまで国債を所有するものではなく、危ないとみれば国債をいつでも手放してくるだろう。今の日本人は自分の金をすつてまで我慢して、国のために自らを犠牲にしてまで日本国債を保持しよう、愛国心がそれほど濃厚だと思わない。持つていて損するに判れば、いち早く売つて逃げるだろう。そこを見逃している大きな落とし穴がある。

一一番目には、予定されている消費税の値上げで楽観的になりすぎているきらいがある。多くの人は気分的に消費税の切り上げで財政再建に概ねめどがついていると思つていて将来の財政再建が落着すると思っている。これは大きな間違いである。

それに本気で財政再建を実現させるには社会保障の削減を含め、本格的な歳出削減を試みないとだめだという暗黙の了解があつて、これは更なる消費税の引き上げを以てしなければならないという思いが大勢を支配していることである。しかし膨大に膨れ上がった国の債務は、消費税の値上げだけでは到底解決できるものではない。スリムな政府と官僚組織、それに反し企業の活性化とよりすぐれた活動を以て、民間企業の税負担能力を量的に高めていくことにある。

くどいようであるが、成長戦略の主眼は、企業業績の回復と税収の確保にかかっている。多くの企業がタックスヘイブンを狙つてしていることも厳格に調査し、加えて法人税の引き下げを以て、海外

から企業の復帰を目指す必要がある。海外での安い賃金は、上昇に転じて魅力が次第に薄れてきている。生産コストが上がってきてるこの時期に、流出企業の回帰を促す方法も講じなければ好機を逸することになる。さらには規制緩和によって公務員の雇用数を減らし、民間に受け入れを促進することも急務である。

安倍さんがいつも口にしているように全ては実行である。王道を行く政治の実行がすべてである。この日本にもようやくそうした気概を感じるようになってきた。近く発表される日銀短観も黒田総裁の蛮勇を持った鮮やかな手綱さばきの結果が示されるだろうし、自信にあふれたこれからの金融政策が持続的に示されていくだろう。

G8サミットが北アイルランドで始まっているが、中国に押され氣味だった日本も巻き返しに転じて、自由と平和を基調とした民主陣営を代表して、リーダーシップを演じてることは歓喜に絶えない。経済力、技術力だけでなく民生の安定

と平和国家を標榜して発展する国姿を世界に示し、以て範となすべき道を築き上げなければならぬ。安倍さんと随行している昭恵夫人のお二人共々の道中のつづがなきを祈って止まない。

六月十九日

くすぶつている政情不安の中東に 一縷の光明か

イラン大統領選挙の結果、保守稳健派のロウハニ氏が当選した。同氏はイランの最高安全委員会の事務局長をしていた人物である。前の大統領は、真っ黒な髭でかみつきような怖い顔をしていた对外強硬派のアハマディネジャドだったが、この人に大差をつけて勝利した。好き嫌いを云つては申し訳ないが、どう見てもあの顔は好きになれない。ドイツのヒトラーがそうであった。北朝鮮の軍人が出てくるときは、鍔の広い帽子をかぶつていか

めしく出てくるが、某氏がいかにもでかすぎて格好のいいものではない。終戦を迎えたころの日本には、アメリカ兵士の軍服がむしろ解放感があるよかつたように思う。ジープに乗って颯爽と行くヤンキー帽のアメ校は一種のファッショニ性すら感じたものである。服装も好き嫌いを決める前提にもなる。シリアのアサドもそうである。吸血鬼のような面構えで、性格が良く出ている。内乱で国民を敵に廻し、化学兵器まで使用しているといふ残虐さで、悪魔的である。これを擁護するロシアや中国についても、少しばかりの兵器売却で儲けさせてもらつてはいえ、もう少し大国らしい振る舞いをしてもらいたいものだと思っている。

イランについても前の大統領はどう見ても扱いにくい風貌で、この顔で核開発を進めていくといふのだから、危険的な要素は濃厚であった。一方的な情報だから何とも評価しがたいが、しかし恐喝的に世のなかに向かってきたようで、ヒステリ

ックで挑発、マムシみたいに好戦的で好感が持てなかつた。核開発に狂奔したため、世界から経済制裁を受け国内経済は疲弊し、恐怖政治を敷くに近く、北朝鮮のような雰囲気であつた。指導者としての人相は荒々しく、国民自体も煽情的に写つて、決して得する面はなかつた。あまつさえ暴君のシリアに武器輸出を行い、中東に混乱と混迷を招く人物の一人であつた。それが大敗したこと、国民の意識が大きく変わつて、隣国と欧米諸国との友好関係を築き、経済発展を築きたいという思いが実つた結果で、われながらほつとしている。

イランは宗教国家として的一面を持つてはくるものの、一方において歴史的に見て大国的価値を持つており、極右的に走らない限り国際的尊敬の念を以て、世界平和に貢献していくことのできる国である。イラン国のこれから展開に大いに注目したいと思つてゐる。

六月二十日

久しぶりの梅雨らしい雨

異常な雨不足に見舞われている本邦の農家の悲鳴が続いていましたが、台風3号の北上と、張り出してきた梅雨前線が本邦上空に停滞して大雨をもたらしてくれました。埃っぽい都会の空気も一気に湿り気を帯びて、心なしか、自分の心までが湿り気を帶びて爽やかな感じがしてきました。大きな仕事を終えて途中から帰途に就いた私は、早めに降りた尾山台駅の踏み切りの上がるのを待つていました。梅雨の合間に見た晴れ間の空に、夕日が射して瑠璃色に光っていました。遮断機が上がつて踏切を渡るとき、私はいつも線路の真ん中に立ち止って、等々力駅に向かつてまっすぐに伸びている線路を眺める癖があります。そこから見る景色には、何となく昔見た少年時代の鉄道列車の面影を垣間見て、素朴な旅情を味わう気持ちであります。力強く、まっすぐに光つて伸びていく線路、それは人生の希望をさして伸びていく道筋

に似ているものがあります。その先の風景が、あるときは光満ちた空と丘があつたり、ある時は暗雲の垂れ込めた空であつたりして、千差万別意であります。さまざま思いが込められていますが、日本の鉄のレールは確固たる意志を示すように動じることなく、目的を指して伸びています。僅かな、一瞬ともいえる時間ですが、それでもって遠い時間を探いかけて行くことができるから不思議な感じがします。今日見た、その一瞬に近い時間帯ですが、心に投影された映像は名状しがたい感興がありました。

踏切を渡つた先の交差点を過ぎた右手に、瀟洒なレスロランがあります。店を覗くと一組の客がいるほかは誰もいなかつたので、疲れた体を癒す思いでコーヒーを飲みに入りました。グランドピアノが置いてあって、時折音楽の演奏などもしてくれて、味わいのある喫茶店にも早変わりします。椅子に身を持たれてしばらくの間うつらうつらしていましたが、コーヒーの香りが何となく朦朧と

して、鼻孔を通つたあと、頭脳の中を通り過ぎていく感じがしていました。気が付くと気が付くと丁寧な茶卓の上にコーヒーセットが置かれていました。そして机をひとつ隔てた席に中年を過ぎた女性が四人、かしましく話している声が聞こえてきました。「F.R.B.のバーナンキの政策が変わりそうね」という会話がそのまま飛び込んできました。驚いたことに会話の内容がとても高度な事柄だったので、聴くとも聞く聞いていました。バーナンキが年内にも金融緩和の引き締めに入るというので、世界的に株式が動搖して、又下がる気配に話が集中しているのです。家計を預かるご婦人の方にとって、今や株式の上げ下げは、大きさに言えども死活問題でもあります。株が上がつて家計が潤うことに異論を唱える人は誰もいません。景気回復が期待できるとしても、旦那さんの月給が上がるまでにはまだまだ先の話でしょう。それまでは株で幕間つなぎということでしょうか。世間では、いかにも景気のいい話が湧きあがっているの

で、傍観しているわけにはいきません。世の中の流れについていかないと、バスに乗り遅れでは後の祭りでしよう。賢明なご婦人方の奮闘は、もつともなことどうなずいた次第です。

今日の話題に乗つた株式相場ですが、昨日のニューヨークの今年最大の三百五十三ドルの大幅の下げを演じた後を受け、東京市場は最初は三百円強の下げで始まりましたが、午後は一転して上昇に転じ、結局二百五十円ほど高い値段でこの日の取引を終えました。上下の幅は何と五百円強の振幅で、かの貴婦人たちも気をやきもさせたことでしょう。今日の疲れを癒そうと思つて久しぶりに入った喫茶店でしたが、刺激的な女性たちの話を耳にいていたでは休むどころではありません。そして雨宿りのつもりでしたが、店を出たときは細い雨が再び降り始めて、足元をぬらしながら家に帰つきました。昨夜の9時に家を出た妻は迎えの車に乗つて羽田に行き、十時三十分発ニューヨーク行の飛行機に乗つてアメリカに行きました

別段、復古調を目指すわけではありませんが、先週の日曜日に浅草富士小学校6年生時代のクラス会が、浅草雷門に近い、老舗の割烹料亭の一松の二階座敷で開からひらかれました。幸い朝から降っていた小雨も上がって薄日が差して、傘なしで出かけることが出来ました。この日にはいつも見えていた女性が三人、都合がつかず欠席となり、先生を入れて総勢十四人があつまり、懐かしい団らんの時を過ぎすことが出来ました。欠席できなかつた女性の一人は、歌舞伎を見に行くのでできなかつたと、もう一人の女性は、コンサートがあつて、音楽の好きな旦那と聞きに行くためと称していざれも優雅な欠席理由で、みんなの了解が取り付けたことになりました。これが骨折だとか、糖尿病だとかいうことになると陰気くさくなりますが、そうでないところがうまく合点する理由ではないでしょうか。

このクラス会は青空会と称して毎年一回地元の

浅草を選んで行われてきていますが、恩師の先生は女性教師で、一生を自身で通されてきました。静かで気品のある先生で、いまだにその面影があって生徒から慕われている大きな原因なのでしょう。今年卒寿を迎える先生ですが、年よりもずっと若く見られて、その点でも模範となっています。同期会、クラス会といつても昔は恩師を招いてやっていたものが、先生なしの同期会が普通になつてきました。爺さん婆さんだけでごろごろするクラス会となつていくようだと、欠席の理由の一つになつて足が遠のいてくることもあるでしょう。青空会は、宴会が済むと二次会のカラオケの店に行くのがいつものコースですが、席上促されて清楚な先生が歌う歌が、別れの朝という歌のところを見ると、若い時のお色気はまんざらでもなさそうな気がします。きっと意中の人�이いて忘れられなかつたのではないでしようか。湖畔の宿を唄つた時もありました。静かに歌つてますが、むしろ哀愁のこもつた雰囲気になるところを見ると、参

加者にはそれぞれの思いがあるので、昔を振り返る機会となるクラス会にはうつてつけの雰囲気です。

未だに先生のことを思つて、こうして多くの教え子に取り囲まれて贅沢に懇談の席を持つことができるなんて、教師有利に尽きますね、とあからさまに申し上げたのであるが、先生はにこにこされ、その通りです、と率直に喜びの気持ちを述べておられた。これを裏返せば、生徒冥利に尽きる話になるのですと、私は率直に申し上げたのである。

昔、石坂洋次郎の書いた青春小説、青い山脈が映画化されました。女教師扮する原節子が出てきましたが、相手役が池部良でした。その生徒に杉葉子が女学生として出てきました。恋文が見つかって、「変しい変しい新子さん」に始まるものですが、我々の先生はこの時女学生に扮した杉葉子にそつくりなのです。清楚で明るい、静かな面立ちがとても似ていてほんのりとした思いと、温かい好感が持てるのです。優れた教育者としては必ず。

須の要件でしよう。原節子は一世を風靡してあこがれの女優でした。いまだに謎に包まれた美しさを秘めて、脳裏を離れないでいます。池部良はすでに鬼籍に入つてしましました。杉葉子はある時期から姿を消して久しいが、最近になつてアメリカに永住していることが分かりました。二人ともいまだ独身です。永遠の女性像として壮年の、否、青春時代の消え去らざる女性像として、男性諸君の活きた歴史的記憶に止まるでしよう。美的意識、ヒューマニズムを謳歌する歴史的教訓は、その人の人生にとつて大きな影響力を持ち、かけがえのない宝物として写つてきます。これは子供のころに聞いた両親の温かい教訓、叱責と一緒にで、忘れ去ることのできないものでしよう。父親の云つた「馬鹿野郎、しつかりせい！」の一言が何かにつけて思い起すのは、親父の厳しい一言が、孟子や、孔子の教えよりも深みがあつて、強烈なものであることがいつも指導理念として生きています。

浅草の料亭

五月、小学校時代のクラス会が、いつものよう
に地元浅草で開かれた。下町は浅草の繁華街の一
角にこんもりとした樹木の場所があつて向かいか
らに老舗の料亭「一松」の宴席を設けた幹事の諸
君には敬意を表して、今回は下町情緒を心行くま
で堪能できたことは思い出に残る者であった。数
寄屋造りの瀟洒な門をくぐると目の前が鬱蒼とし
た木立に中に、打ち水を打った飛び石を玄関に向
かって進んでいくが、その間も木立の影が深い趣
を添えて、古色蒼然に迎えてくれる清涼感は格別
であつた。三百坪近い敷地にしてはとても広く感
じて、飛び石の先に池をまたいで見事な石橋がか
かつて、下には帯を広げたような形の古い池があ
つた。残された木下影に、澄み切つた水をたたえ
た池があつた。浅い池は深々とした錯覚を覚える
ほど美しかつた。水は鏡のように映つていた。そ
の水に体をまかせて、赤、白、黒の色も鮮やかな
大きな錦鯉がゆつくりと近寄つてくるのが見えた。

花魁が芸妓を従えて近づいてくる感じで、後を追
う数匹の鯉も列をなし、悠然たる風情である。豪
華絢爛たる姿は、いっぷくの花魁道中を垣間見る
思いである。石橋に立ち止まりしばし恍惚として
眺めていた。徳川家康も然り、今太閤を誇った田
中角栄も、かつては池に飼う錦鯉に餌を投げなが
ら権勢を誇つたものである。角栄は下駄を履いて、
鯉に餌を与えるの得意としていた。栄華を楽し
み、権勢を誇る趣味としては鯉、わけても絢爛た
る錦鯉を飼うのは極めて象徴的である。貧乏から
這い上がり、天下を収めた男一匹の絶頂感であ
る。男一匹であるがゆえに、又寂寥感が漂う気が
する。

広間に続く玄関に立つと昔ながらの袢纏を着付けた案内人が、下足札を渡してくれて丁寧に仲居さんへ引き向けてくれた。擇の一枚板を贅沢に張つた廊下から、そのまま二階の間に案内された。
いかにも壯重であり、趣のある家の造りで心がお
のずと落ち着いて座敷に案内されると天下一の心

境である。広い床の間の黒光りした床柱が重々しい。真っ赤な牡丹の花の絵が鮮やかに、絢爛としてかざつてある。

二十畳敷きの和室が二間続きになつて東南に向く角の間に、優雅な天井の張りを含め、豪華な床の間や、技巧的で精緻な造りの欄間や建具など、伝統的な趣向を凝らし贅を極め、默想すると居ながらにして京都二条城の小客殿に坐する思いでいる。透きガラスの引き戸の外は、こんもりとした樹木で、これ又思いめぐらすに奥山の、然る山宿にいて湯上りを楽しむ気持ちである。配膳に着くと涼しげな、和服を召した仲居の白い手が伸びて、みなみと酒が注がれた。女将と思しき美人の仕草に、注がれた酒を静かに飲むこと二、三盃、手伝いの仲居の往き來に賑わいも増して、この日はしばし酒悦に浸ること、座敷の湿つた木の香りを嗅ぎながら、その余韻を長く楽しんでいたのである。酒に酔い、何気なく聞く寺の鐘の音は、上野の寛永寺か、それとも浅草の浅草寺か、おぼろげ

に聞くばかりであつた。

アベノミクスを追う女性群

喫茶レストランで中年の女性たちがF R B のバーナンキ議長の発言について議論し合つている情景を見て、正直のところ私はびっくり仰天してしまいました。日本女性が物凄い勢いで男性の地位に追いついで、これを追い越そうとしていることについて、改めて女性の社会進出の実態を垣間見た次第です。安倍さんが三つの矢の政策発表の一につに、女性の社会進出を大きく掲げていますが、政府の援助にかかわらず、すでに情勢の社会経済の意識は男性のそれを凌ぐに十分の実力を備えつあります。安倍さんの奥さんの家庭内野党ではありませんが、経済的意識と同じように政治的意識の高まりは顕著なものがあります。旦那の指示に従つて行動する奥さんはあまり見かけなくなりました。ややもすると、奥さんに従つて行動する旦那衆が潜在的に多いかもしれません。

昨日の都議会選挙でも、安倍さんの経済政策をじつと見つめてその効果を確かめて自民党に入れた女性が多かったはずです。その反面、慰安婦問題の女性蔑視で人品をうたがわれた橋下なにがしの、維新の会は醜悪的惨敗であります。脳梗塞で倒れた石原も、この間抜けな橋下と策動を画策しましたが、晩節を汚す結果となりました。もう、おしまいでしよう。こんな連中が維新の会だとか抜かしあつて、この日本をあたかも改革していくような頗珍漢な妄想でしたが、賢明な女性たちの厳しい鉄槌にくじかれました。事を荒立てて人目を引くとは言いながら、問題意識の低劣さは目を覆いたくなるものです。売春擁護と同じの屁理屈をこいて、何が憲法改正ですか、とんでもない連中です。からうじて一議席を取りましたが、すでに抹消されたようなものです。薄っぺらな理念を誇張し、はつたりをかまし続けて、民衆を翻弄してきましたが、いつもながらのあの発言と格好付けた振る舞いは、胡散臭く、国民を見下げるにも

ほどがあります。思いつきで非実現性のことを厚かましく、しかも勝海舟の名を借りて、船中八朔と、実は古めかしく仰々しい立ち振る舞いは身の毛がよだつ思いで、私はチンピラと初めから見下していました。大阪市民を馬鹿にするどころか国政にまで口を挟み、正体を見抜いた東京都民はこれを排撃しました。これにブル下がったのか、抱きついたのか知りませんが、その石原さんも憑きが悪かつたのでしょう。欲に絡んで大局を見誤ったのか、今回ばかりは同情する人も見かけず、随分と名を下げ落ちぶれたものです。何時までも権力に執着しようとするあがきで消化。太陽の季節も過ぎ去つた感じです。

維新という名に乗った立候補者は、己の政治理念も持たず泥船に乗つたがゆえに悲惨な結果をなめました。いかなる政党に属するにせよ、己の政治信条なるものは己ながらに堅持していなければ、選挙民の支持を得ることはできません。惨敗した民主党にしてもそうですが、責任を感じていると

云いながら、責任を果たすべく党主としてその後も政権の運営は続投するというのですから、厚かましき限りで一体何を考えているのかわかりません。こんな感覚で政治を行われたでは、国民が迷惑するばかりです。人材不足なら解党したほうが税金の無駄使いが避けられて、国民の福祉にどれだけ寄与するかわかりません。準国政選挙として都議選を戦った結果は、次の参議院選挙の勝敗を裏付るものですが、破れたままの顔を引きずつて選挙に臨むつもりなのでしょうか。一つも反省の色がうかがえません。

異次元の金融緩和が奏功

自民党の安倍さんを全面的に最悪とするわけではありませんが、去年の解散以来、自民党の掲げる

政策が国民の大多数にしみこんで、ここまで景気が回復してきたことは、安堵の念を隠し切れません。願わくばこの傾向を持続的に運営して、循環的効果の上げられることを期待するのみです。色々の軋轢は生じてくるでしようが、それを乗り

越えて先に進んでいくことが肝要です。その軋轢を取り上げて危惧したり批判したりしていっては、全体のすう勢的効果を見失うことになります。これから株価の推移は、先の賢明な奥さん方ばかりでなく、多くの国民が注目するところでしょうが、従来の持論の通り、先行きの経済、景気回復については期待と自信を持つていいものと確信しています。少なくとも従来の日本経済の混迷、低迷状態から脱却できたことをもって良しとし、これから先のより積極的な政策の実行を考えていかなければなりません。そうすれば相場に自信もついて、下がれば自立反騰し、過ぎれば反落し、それを繰り返しつつ上昇的均衡を模索していくことでしょう。

強気の理由として若干の条件があげられるでしょう。第一は、昨年の総選挙の結果、自民党の圧勝という我が国の政治的安定が背景にあって、外國はこの実態を見逃していません。第二は、安定した安倍政権の打ち出した政策が強力であり実効

的政策で、次第に経済界に顕著な回復の兆候が得られてきたことです。第三は、アメリカの金融政策の変化が逆に、アメリカ経済の回復を裏付け、日本にとつて強力な景気回復の後押しの結果をもたらすことです。第四は企業業績は今後大幅に回復して好調な決算が期待されることです。

アベノミクスで放たれた異次元金融緩和で大量の資金が市場に流れていまさら後戻りはできませんし、これが需要を喚起していること、そして更にこれが企業の設備投資を促す方向に向かっていること。第五に、株価は過去二十年の景気後退とデフレを経てきて十分に鍛錬され、投資家が完全に交替して新しい時代形成に入つてきていること、等などがあげられます。

こうしてみてくると、ダイナミックな新時代の幕開けにふさわしく、急激な株価の変動はしばらく続いて行くとしても、一月に述べたとおり長期的に堅調な経済指標を繰り返し、次第に収れんして次の発展段階に進んでいくものと思われます。

今まで新興国の経済発展に余りにも過分に期待してきた市場ですが、F R Bを中心とした金融緩和策の縮小が世界に拡散している大量の資金を吸い上げになるのではないかという観測が流れ、世界的に株式市場の乱高下が続いております。特に今まで世界経済の拡大をけん引してきた発展途上国では、資金の吸い上げに遭遇する場合、その影響するところは大であります。これからは日本の質的、量的、効率的高度の経済的潜在力を發揮して世界に臨んでいく状況に徐々に変化するとみるべきでしよう。世界経済に貢献する日が着々と迫つてきています。私たちは、先の喫茶レストランで懸命に議論し合っている女性たちの会話に耳を傾けて、その議論の賢さに驚きましたが、聴かずとも耳に入る言葉は、今までのやり方では片手落ちで法人税の軽減を歐米並みに持つていかなければいけないとか、新しい産業の育成でもつと規制緩和が必要だと色々と議論する内容を聞いてみると、一つ一つもつともことだとうなずいて聞

いていました。そうするうちスーパーで新じやが
がおいしいのが出たのでふかして子供たちに食べ
させたいという話題になつて、優しい主婦の一面
をのぞかせていました。

経済の力強い復活と改革を、別に女性に頼るわ
けではありませんが、多くの主婦が家計を切り盛
りし、家族を懸命に守つている様子を知りながら
思つてゐることですが、我々経済人も大和男の児
に恥じない見識と努力を以て、明日の日本を支え
て行こうはありませんか。

六月二十四日

ほほずきの市は浅草あさがほは鬼子母神社
に詣でゆかむや

富士やまにのぼる信徒の夜おそく日の出を
雲の波に拝まむ

盛夏

ここ数日間のうだるような猛暑はまさに殺人的
です。群馬の館林で三九・五度を観測しました。

景気回復、デフレ脱却に湧く日本列島に希望と期
待を以て頑張りましよう、各位には健康に留意し
て一層のご活躍を祈念しております。七月十日

公益社団法人 昭和経済会

理事長 佐々木誠吾

役員 一同

事務局一同

暑中お見舞い申し上げます。

表紙絵のことば

エディンバラ城

関根 常雄

エディンバラ城を描いて見ました。エディンバラの街にそびえるこの王城は、他の何よりも強くスコットランドを象徴しています。文化遺産として街そのものが保存されています。何百年もの間この強大な要塞は威厳を持つて周りを見下ろし、何代にも亘つて人々に深い威銘を与えてきました。エディンバラ城は今でも無数の人々をその狭いごつごつした岩山へと引き寄せています。そしてやつて来た人々は古くから残る建物に魅了され、ごつごつした壁下に広がる素晴らしい景色に圧倒されるのです。城そのものの奥

深い歴史のとりこになってしまいます。

恐ろしいほどに感動的なこのエディンバラ城は、何しろスコットランドの歴史そのものなのです。又毎年八月の中旬から三週間にわたつて開かれるエディンバラ国際フェスティバルのメインイベント「タトウー」があります。タトウーというと刺青を想像しがちですが、この場合は軍隊の帰営ラツパや太鼓、トランペッタの意味なのです。薄暮の広場に登場する華やかなキルト姿のスコットランド軍楽隊が奏でる哀愁を帶びたバクパイプの音色がすばらしく、フェスティバル期間中はエディンバラ城もライトアップされ、幻想的な雰囲気で、人気がとても高いそうです。バクパイプは上向のチャンターは息を吹き込むプローパイプが、皮の袋に連結されています。バグパイプのルーツは古代エジプトにあると言われて居り、

その後、ギリシャ、ローマで発達し、スコットランドの代表的な楽器になつたそうです。路上演奏するパイパーも多く、エディンバラの横丁の広場や、ロイヤル

など各観光名所で聴くことができます。

スコットランドで有名なのは私共日本でもなじみ深いものに、タータンチェック布地が有ります。その歴史は、クラン一族の象徴する家紋的な存在のタータンです、誕生したのはローマ帝国時代のことです。クラン製度など確立とともに普及し、一八二二年英國王ジョージ四世あエデインバラを訪問した際に、キルトを着用タータン文化がさらに復活、クラン名などに正式に登録されているそうです。タータンだけでも数百種類もあり、ハントンイングタータンやダンスのときなど正式な場で着るドレスタータンなど、その外身分によつてそれぞれの意匠まで伝

統をまもり、文化遺産を保存する姿はあこがれと感動を覚えます。

平成二十五年七月二十六日印刷
平成二十五年七月三十日発行
昭和経済 第六十四巻 第七号

佐々木 誠 吾

編集人
兼发行人
印刷所 日本印刷株式会社

発行所 公益社団法人 昭和経済会
事務局 〒104-0012 東京都中央区八重洲二丁目一ノ二
TEL (六八二〇) 6000番

FAX (三三七一) 三一〇四番

e-mail:info@showa-econ.jp
<http://www.showa-econ.jp/>

有限会社 日本橋会計事務所
税理士法人 日本橋税経セントラル
税理士 松下敏雄

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町三ノ三ノ六
人形町ファーストビルB三階
TEL 03-3661-1770

中央建設はこんな会社です

暑中お見舞い申しあげます

建設業の現状は震災復興も含めて各職種共に手不足が続いていますご計画の皆様は早めの検討開始で準備される事をお奨めいたします

取締役社長
一級建築士 清水 侃治

<http://www.chuou-kensetu.co.jp>

中央建設株式会社

〒102-0073 東京都千代田区九段北2-3-2

TEL(03)3261-4201(代)



超安全

エレベーターの新設・リニューアル工事には
ダブルブレーキ式巻上機（業用新規基準第3-1-4-6-4-5-8号）

SECエレベーター株式会社

代表取締役社長 鈴木孝夫

〒110-0016 東京都台東区台東三丁目一十八一三

SECビル

☎ (03) 3833-1171 (大代表)

FAX (03) 3833-14330

平和と自由を標榜する会の発展は
世界につながる

弁護士 富 純 司

〒100-0006 千代田区有楽町二の十二の一

新有楽町ビル十階十三号

TEL ○三一三二一四一六〇八一

LOHASMISSION ロハスミッション株式会社

代表取締役会長

西村 公統

e-mail: nishimura@lohasmission.com

本社 〒130-0015 東京都墨田区横網1-2-28
電話 03-5819-6610 FAX 03-5819-6620
<http://www.lohasmission.com>

税理士 板橋 則雄

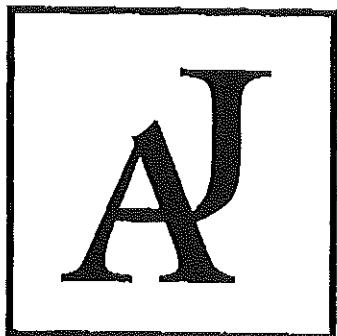
〒103
0013

中央区日本橋人形町3丁目3番6号
人形町ファーストビル B3階
TEL 03-3266-11770

太平洋興発株式会社
取締役社長
佐藤幹介

〒111-0011
東京都台東区元浅草二丁目六番七号
マタイビル六階

電話 03-3583011601
FAX 03-3583011613



Japan Asia Securities Co., Ltd.
日本アジア証券株式会社

〒103-0014
東京都中央区日本橋蛎殻町1-7-9
Tel : 03 3668 5600

岩本
八八四

6425 Broadway, #11E
Riverdale, NY 10471

A handwritten signature in cursive Japanese characters, likely reading 'Rakuji Shōichirō', is written vertically along the right side of the card.

現代短歌新聞 每月5日発行
月刊誌「現代短歌」毎月1日発行

株式会社 現代短歌社

〒113-0033

東京都文京区本郷一-三五-二六

電話〇三(五八〇四)七一〇〇

FAX〇三(五八〇四)七一〇一

info@gendaitankasha.com

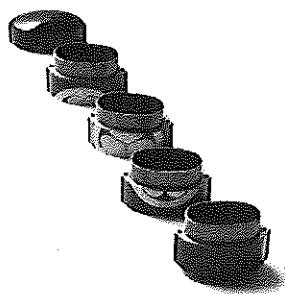
<http://gendaitankasha.com>

有名歌人の歌集 歌論集
自費出版 歌集 歌論集

企画展

「七人の黄門さま」
—2013年7月6日(土)～9月1日(日)

黄門さまの眞実に迫ります



公募用印法入所文会後援
基督教関係史料調査報告会

—2013年9月7日(土)

ウイーン・フィル首席客員
ワルター・アウラー・フルート・コンサート
—2013年9月14日(土)



TEL: 029-241-2721 / <http://yokugawa.gr.jp/>

東京都中央区銀座三丁目7番2号
電話〇三(三五六四)九四一八
FAX〇三(三五六四)九四一九

株式会社谷口コーポレーション
代表取締役会長
谷 口 八 稜

月刊誌掲載者・昭和経済論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十五年五月）（重複有り）

大内義一	早稲田大学名誉教授（巻頭隨筆）	堺谷太一	作家
荻原伯永	（株）日本經濟社 日經専務	原田正二	大正大学教授
牛場信彦	外務省顧問	安井謙	当会顧問
広瀬嘉夫	NHK解説委員	豊田雅孝	当会顧問
安井謙	参議院議長	窪田真也	第一勵業銀行産業調査部長
加藤寛	慶應義塾大学教授	宝生あやこ	劇団手織座
豊原兼一	NHK解説委員	山本幸助	通産省産業政策局長
齊藤栄三郎	参議院議員	山田勝久	通産省商政策局国際経済部長
岡村和夫	NHK解説委員	岡松壯三	通産省電子政策課長
石井義昌	櫛桂川精螺製作所 社長	村山祐太郎	鈴木金属工業㈱会長
糸川英夫	組織工学研究所所長	寺島祥五郎	当会理事
宮本四郎	通産省産業政策局長	安井謙	早稲田大学名誉教授
豊田雅孝	(社)日本中小企業団体連盟	田山晃	当会顧問 自民党最高顧問
安井謙	前参議院議長 自民党顧問	鈴木三子郎	元 論説委員会新報政治部次長
大来佐武郎	对外經濟関係 政府代表	元 税務大学教官 税理士	竹下登 大蔵大臣
藤原弘達	政治評論家		

福田赳夫	衆議院議員	井浦康之	企業コンサルタント
斎藤榮三郎	商學博士 法學博士 文學博士	水谷研治	東海綜合研究所 理事長 バツラフ・ハベル チエコ大統領
河野洋平	衆議院議員	平野憲一郎	日本經濟新聞 マニラ市局長
前川春雄	衆議院議員	吉田和男	京都大學教授
黒田眞	前 日本銀行總裁	石川忠雄	慶應義塾大學名譽教授 學長
堀江忠男	通商產業省 通商政策局長	中曾根康弘	元 首相
水谷研治	大月短期大學學長	中山素平	日本興業銀行 特別顧問
鈴木俊一	東京都知事	島田晴雄	慶應義塾大學教授
田村次朗	東海銀行常務取締役 調査部長	吉田和男	京都大學教授
目良浩一	米國企業公共政策研究所 所長	塩野谷祐一	一橋大學名譽教授
行天豊雄	東京國際大學教授	宮沢喜一	元 首相
吉川洋	東京銀行會長	山田伸二	NHK解說委員
竹中平蔵	慶應義塾大學教授	石井明	東京大學教授
加藤寛	慶應義塾大學教授	加藤寛	千葉商科大學長
原田和明	三和綜合研究所 理事長	鶴武彦	政府稅制調查會會長
鶴武彦	東京大學教授	大山昊人	朝日新聞
大山昊人	東京國際大學教授	伊藤裕章	ワシントン特派員
元 N H K 解說委員	元 N H K 解說委員	元 N H K 解說委員	元 N H K 解說委員

小宮隆太郎	東京大学名誉教授	北岡伸一	東京大学教授
島田晴雄	青山学院大学教授	石原慎太郎	東京都知事
樋口廣太郎	慶應義塾大学教授	ランコ岩本	ランコ・インター・ショナル代表
奥野正寛	アサヒビール会長	ジェームス・D・ウォルフエルソン	世界銀行総裁
橋本大二郎	東京大学教授	シモン・ペレス	イスラエル外相
高知県知事	電通総研研究所所長	山口光恒	慶應義塾大学教授
福川伸次	一橋大学経済研究所教授	岡崎久彦	元駐米公使 駐タイ公使
鈴村興太郎	一橋大学教授	ポール・サミュエルソン	経済学者
清水啓典	立命館大学教授	大野健一	政策研究大学院大学教授
高橋伸彰	中谷巖	佐々木和男	サウディ石油化学㈱社長
中谷巖	韓国大統領	ドナルド・ラムズフェルド	米国防長官
金大中	一橋大学教授	イアン・ジョンソン	世界銀行副総裁
佐和隆光	京都大学教授	竹森俊平	慶應義塾大学教授
茅陽一	慶應義塾大学院教授	山本清治	経済評論家
吉田和男	京都大学教授	朱建榮	東洋大学
榎佳之	東京大学医科学研究所	アレクサンドル・パノフ	駐日ロシア大使
高橋伸彰	立命館大学教授	月尾嘉男	

林光夫	ナショナル日系博物館ヘリテージセンター理事（前理事長）	土屋堅一	お茶の水女子大学教授（哲学）
日系プレース基金理事	ハワード・H・ベーカー	山崎正和	中央教育審議会 会長
山本清治	経済評論家	福江等	前ナザレン神学大学学長
スティーブン・ゴマソール	駐日英國大使	大田弘子	井深記念塾ユーライ
山口義二	立教大学経済学部教授	佐藤隆三	経済財政担当相
公文俊平	多摩大学情報社会学研究所所長	曾根泰教	ニューヨーク大学名誉教授
伊藤元重	東京大学教授	平野雅章	東京大学客員教授
アルビン&ハイディ・トフラー	米未来社会学者	若田部昌澄	慶應義塾大学教授
中曾根康弘	元首相	浜田純一	早稲田大学教授
ハワード・H・ベーカー	前駐日米大使	中西隆	東京大学教授
竹森俊平	慶應義塾大学教授	大西隆	東京大学教授
岡部直明	日本経済新聞 論説主幹	中西寛	京都大学教授
加藤寛	千葉商科大学学長	高木新二郎	前産業再生機構委員長
山口光恒	帝京大学教授	諸富徹	野村證券(株)顧問
斉藤惇	産業再生機構 前 社長	入江昭	ハーバード大学名誉教授
渡辺智之	一橋大学教授	林良造	東京大学教授

クリスティーナ・アーメージャン

一橋大学教授

伊藤元重

東京大学教授

今井賢一

スタンフォード大学
名誉シニアフェロー

吉川弘之

東京大学元学長

池尾和人

慶應義塾大学教授

細田衛士

慶應義塾大学教授

林良嗣

名古屋大学教授

土居丈朗

慶應義塾大学教授

脇坂明

学習院大学教授

関満博

一橋大学教授

古谷浩一

朝日新聞記者

御厨貴

東京大学教授

田中明彦

東京大学教授

西垣通

東京大学大学院情報学環教授

高安秀樹
山内昌之

東京大学客員教授

浜田宏一

エール大学教授

若宮啓文

植田和弘

松本紘

京都大学教授
京都大学総長

大西隆

東京大学教授
東京新聞ニューヨーク支局長

山中季広

朝日新聞ニューヨーク支局長
一橋大学教授

深尾京司

山本勲

小黒一正

一橋大学准教授

吉川弘之

東京大学元学長

大村敬一

早稲田大学教授

庄司克宏

慶應義塾大学教授

ジム・フレアティ

慶應義塾大学教授
カナダ財務相

伊藤元重

東京大学教授

清家篤

日本私立大学連盟会長
慶應義塾長

藤原帰一

東京大学教授

緒方貞子

国際協力機構
(JICA) 理事長

田中素香

中央大学教授

申珏秀

駐日韓国大使

加藤弘之	神戸大学教授
新宅純二郎	東京大学准教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
若宮啓文	朝日新聞主筆
中沢克二	日本經濟新聞社 中国総局長
猪木武徳	青山学院大学特任教授
長山浩章	京都大学教授
石川城太	同志社大学教授
鹿野嘉昭	一橋大学教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
篠崎彰彦	九州大学教授
翟 林瑜	大阪市立大学教授
横山 彰	中央大学教授
小林慶一郎	一橋大学教授
原 真人	朝日新聞編集委員
若宮啓文	朝日新聞本社主筆
小林慶一郎	一橋大学教授
須藤 繁	帝京平成大学教授
翁 邦雄	京都大学教授
下斗米伸夫	法政大学教授
吉川 洋	東京大学教授
渡辺 博史	国際協力銀行副総裁・元財務官
澤田康幸	東京大学教授
北岡伸一	国際大学学長
有田哲文	朝日新聞編集委員
柴田直治	朝日新聞国際報道部
竹森俊平	慶應大学教授
磯田道史	静岡文化芸術大学
当会・講演会 講師（敬称略）	
昭和五十三年（平成二十四年十月）	
堺屋太一	作家
栗栖弘臣	統合幕寮長
加藤寛	慶應義塾大学教授
糸川広洋	組織工学研究所 所長
大来佐武郎	对外経済担当大臣
斎藤栄三郎	科学技術省長官

柿沢弘治	衆議院議員	元 通産省審議官
浜田幸一	衆議院議員	東京都知事
木元教子	評論家	黒田眞一 通商産業省 通商政策局長
岡松壯三郎	通産省電子政策課長	上野明 野村総合研究所 主任研究員
稻川泰弘	通産産業省政策局	前川春雄 前日本銀行總裁
藤原弘達	商務サービス産業室長	大山昊人 N H K 解説委員
山本幸助	政治評論家	野坂昭如 作家
岡松壯三郎	通産省産業政策局長	水野哲 通産省産業政策局
山田勝之	通産省国際政策部長	堀江忠男 産業政策局總務課長
鈴木幸夫	通産省生活産業局長	梅沢節男 早稲田大学名譽教授
山室英男	テレビ東京解説委員長	田川誠一 国税庁長官
佐野忠克	N H K 解説委員長	森 亘 進歩党代表 衆議院議員
河野洋平	通産省宇宙産業室長	東京大学總長
寺島祥五郎	衆議院議員	龍角散社長
長富祐一郎	当会理事	藤井康男
中沢忠義	中小企業庁長官	水城武彦 N H K 解説委員
吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長	大山晃人
天谷直弘	(財) 産業研究所 顧問	斎藤栄三郎 内田 満 国務大臣 科学技術庁長官 早稲田大学教授
岡松壯三郎	通商産業省生活産業局長	

水谷研治	東海銀行常務取締役調査部長	和田俊	朝日新聞編集委員
有馬朗人	東京大学総長	テレビ朝日ニュース・ステーション	
松本和男	経済評論家	大山晃人	
大山晃人	NHK解説委員	木村時夫	元 NHK解説委員
鈴木淑夫	野村総合研究所副理事長	早稲田大学名誉教授	井浦康之
松永信雄	元 日本銀行理事	井浦ミニケーションセンター	
霍見芳浩	外務省顧問 前 駐米大使	当会理事	
村松暎	ニューヨーク市立大学大学院教	水谷研治	
慶應義塾大学名誉教授	杏林大学教授	東海総合研究所 理事長	
飯田健一	NHK解説委員	目良浩一	東京国際大学教授
L・A・チジョーフ	駐日ロシア連邦大使	山下亀次郎	筑波大学臨床医学系内科教授
大山晃人	元NHK解説委員	斎藤精一郎	筑波大学付属病院副院長
東京国際大学教授	岩國哲人	立教大学教授	
小浜維人	浅井隆	前 出雲市長	
青木匡光	岩田規久男	上智大学教授	
紺谷典子	久保亘	経済ジャーナリスト	
(財)日本証券経済研究所	NHK解説委員	前 大蔵大臣	
主任研究員	吉田春樹	大山晃人	東京国際大学教授
原田和明	副島隆彦	山田伸二	NHK解説委員
三和総合研究所	経済評論家	吉田春樹	和光経済研究所理事長

ポール・シェアード	ベアリング投信投資顧問	齊藤精一郎	千葉商科大学大学院教授
㈱日本株運用ヘッジ兼ストラジスト		㈱NTTデータ経営研究所所長	社会経済学者 工コノミスト
早坂茂三	田中角栄 元秘書	佐々木和男	学校法人静岡理工科大学理事長
山田伸二	NHK解説委員	元 三菱商事㈱本部長	
中村敦夫	参議院議員	サウディ石油化学㈱ 前社長	
原田和明	三和総合研究所特別顧問	三原淳雄	経済評論家 株式評論家
西澤宏繁	東京都民銀行頭取	石川一洋	NHK解説委員
亀井静香	衆議院議員	元 モスクワ支局長	
山田伸二	NHK解説委員	山田伸二	NHK解説主幹
武者陵司	ドイチエ証券チーフストラジット	中谷元	元 防衛庁長官 衆議院議員
川崎真一郎	第一生命経済研究所 主任研究員	林良造	東京大学教授
金子一義	国務大臣	渡辺喜美	元 経済産業省 経済産業政策局長
山口義行	立教大学教授	みんなの党代表	みんなの党代表 衆議院議員
山田伸二	NHK解説主幹	山崎淑行	NHK科学文化部 記者
斎藤精一郎	千葉商科大学教授	中谷巖	一橋大学教授
伊藤達也	元 金融担当大臣	ロバート・フェルドマン	
高木新一郎	㈱産業再生機構	月尾嘉男	経済評論家・工コノミスト
産業再生委員長		東京大学名誉教授	

山田伸一 NHK解説主幹



作品 関根常雄



『富士山が世界文化遺産に』

富士山が 22 日、世界文化遺産に登録されました。富士山は日本人の心の
ふるさとであり、日本の「美と力」の象徴でもあります。世界の人々に
広く富士山の名前と姿を伝えることは、世界に平和と、安寧と、榮えを心か
ら祈ることになります。世界遺産登録を機に、われわれのふるさと、この國
の弥栄を祈って止みません。この國に、神のご加護あらんことを。

写真家 杉村 浩 制作

2013 年 6 月 22 日
社団法人昭和経済会
理事長 佐々木 誠吾

富士やま

佐々木 誠吾

夏雲のうづまきて立つ富士やまに稻妻白く光り曳きゆく
仰ぎ見る富士の高嶺の白雪に初の明りの映ゆる今朝かな
芦ノ湖の岸べに立ちて妻と見る富士山高く雲に突き出む
妻の手を引き芦の湖の岸に見る茜の富士の空に大きく
まほろばの里を見おろし富士山の峠に妻と共に立つ朝

富士山のふもとに湧きて曳き雲の光の帯の虹に輝く

ふり返る夜空の月に光帶び静かに青く光る富士山

きさらぎの夜空に青く浮びたつ妙なる富士の姿あやしき

御岳の峰より眺む富士山の我に語りて教へたけきも

悲しきにふと仰ぎ見る不二山の我を励まし力与へん

寂しさに出でたつ我に富士山の励まし語りかけていみじき

富士やまの峰より野辺に風吹きて夏近きかと覚ゆこのへん

妻逝きて寂しき時に仰ぎ見る不二山高く汝れを励ます

写真家の誉れも高き杉村氏永らく妻を顧りみるかな

この世にて共にたづさへ幾年の生きこし方のいとほしきかな

雲海の上につらなるアルプスの上に突き出て極む不二山

稻妻の引く富士山の下に見て峰の高きに光差しけり

この国のもほろばに立つ富士山の妙なるさまを曰ぐと眺めて

幸ひのみつる心に富士山の光の深く身にも差しけむ

長々とのどかに眺む富士山の裾野の先に人の住むらし

この年にいとしき妻の先立ちて君ひとりのみ富士に立つ影

富士やまの水ふつふつ湧きいでてふもとに湖を五つ抱けり

講演会の主な講師（講演時役職）（敬称略）

山黒岡山山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安斎土本稻吉井岩福
 室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田葉野深佐田
 壇祐新榮宗
 英三幸勝一節俊春信昭忠和太直洋二英利弘正三一秀俊凱赳
 男真郎助久郎男一雄彦如義夫寛一弘平郎夫得達芳謙郎清郎三彦大実夫
 N通通通通大国東日外作中N慶作通科弁組日政大參科經本經日ソ富大
 藏
 H産産産藏本H應學織本學田本士大
 K省省省税京務企K義產工經治議濟消ニ臣
 生產國官銀墊學濟藏技銀（内閣總理大臣）
 解産業際府都省業解大研行行
 説業房行大究聞大研行行
 產政政房行大院術護研新評院術評評
 委審業策治審長知顧所社論議論社論
 頭大臣
 員議局局部議長委教長所顧
 長官長官長官事裁問家官員授家問官士長間家臣長官家長家事長取

伊金山龜西早島副山久岩斎目原和小L霍松鈴有大水森堀水藤井大
 通財藤子口井澤坂田島田保国藤良田田浜△見永木馬來谷江城井浦山
 省精子佐
 挑担当達一義靜宏茂晴隆伸哲一浩和維ヨ芳信淑朗武研忠武康康昊
 寅宣也義二香繁三雄彦二直人郎一明俊人フ浩雄夫人郎治亘男彦雄之人

通大内国立衆東政慶政N前出立東三テN駐ニ前野東対東東早N龍井N
 商藏閣務教京應H和レビH日ユ駐村外海稻コH
 産省大議都治義大教総朝ヨ米總京總京田角ユK
 業政總臣大議都治義大國合ニロク大合經合KニK
 省策理・学K雲大際研ユ解市使研大濟研大ケ
 政策研産經民塾大研ス説大究・学担究学名説シ
 研究再濟銀大院評解藏大究・学担究学名説シ
 研究会臣生学説市所スア学所當所
 メンメンメンメンメンメンメン
 ババ佐構補機部議行論學論大教理一大學省理總譽社
 ババ佐教頭教委教事シ員大院顧事大事教
 ババ佐担教頭教委教事ヨ
 ！官当授員取家授家員臣長授授長ン長使授問長長臣長長授員長ノ員

昭和経済 25-7・8月号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）
昭和25年10月19日 日本国鉄道特別版承認雑誌第1797号

**Showa Economic Study Association
企業家・経営者団体**

公益社団法人 昭和経済会

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail info@showa-ec.or.jp